

平成 2 1 年度

# 自己点検・評価報告書

國學院大學栃木短期大学

## 目 次

はじめに .....	1
國學院大學栃木短期大学の特色等 .....	2
建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 .....	10
教育の内容 .....	14
教育の実施体制 .....	32
教育目標の達成度と教育の効果 .....	42
学生支援 .....	63
研究 .....	79
社会的活動 .....	83
管理運営 .....	91
財務 .....	104
改革・改善 .....	111
将来計画の策定 .....	115

## はじめに

本学園の創設が、國學院大学の附属高等学校の一つであったことは、追って、國學院大學栃木短期大学の特色のなかに述べられるところであるが、その附属高等学校が、やがて、國學院大学の姉妹法人としての國學院大學栃木学園となって、今日、ここにあるのである。その独立の事情を学び知ったとき、この栃木の地に根ざした学園にならなければならないとの、当時の先達たちの思いがあったものと思えてくる。太平山麓という風致地区に、しかし、若干、足の便芳しくないのを承知のうえで校地を据えたのは、日本の未来を担う若者たちを厳しく教育しようとの強い意欲が、そうさせたのであろう。いうならば、聖地に拓かれた学園なのである。

短期大学は、時代と地域の要請に応じて、高い評価を受け、輝かしい栄光の日々が続いた。それだけに、現在の在籍学生数の減少は、この時代を知る目には、強烈に受け止められる。本学は、いま、あらゆる面で、困難に直面している。平成19年4月、本職を拝命した、その日、全教職員とともに確認しあったのは、その現状の認識と自覚とであった。本学は、國學院大学とは別法人であるとの確認であった。

本学の抱えるもっとも大きな悩みは、入学志願者数の低迷である。平成20年度入学試験において、国学院大学受験者対象入学試験を試み、平成21年度入学試験には、センター型入学試験や奨学生入学試験を導入したが、なおまだ、広く認知されるには至っていない。

本学の悩みの、いま一つは、校舎等施設の老朽化と、なお、不備な点の見られるところである。さしあたって、平成19年度後期からは、学生支援室を、空き教室を転用することで設けることができた。引き続いて、安全で利便性の高い建物へと改築していかなければならないと思っている。

この窮地から脱け出すべく、平成21年度から、学生指導に直接する2案件が実施されることとなった。一つは、セメスタ制度を全面的に取り入れることになった点である。いま一つは、教師と学生との関係をいっそう緊密にするための<sup>このはな</sup>斯花アワー(斯花は本学が、その参道に位置する<sup>おおひらさん</sup>太平山神社の女性のご祭神のお名の一部をお借りしたものである。)の設置である。短期大学にふさわしいホームルームの時間である。

その発足を前に、本学は、きょうのただいま、改めて、全教職員ともに、意欲と団結とを確かめあった。教育内容と研究とについては、広くお認めていただいているものと自負している。いま、本学に求められているのは、どのようにして、その教育内容と研究とを世のなかに知っていただくかということである。そこで全教職員こぞって、その再生に向けて、歩み始めたところである。本学の現状を、ここに明らかにして、関係各位のご評価を仰ぐ次第である。

國學院大學栃木短期大学長 中村 幸弘

## 國學院大學栃木短期大学の特色等

(1) 短期大学を設置する学校法人(以下「法人」という)の沿革(概要)及び短期大学の沿革(概要)。

### 法人の沿革

昭和32年(1957)の初め頃より、栃木県内の神社界で教育事業を興そうという気運が高まった。時を同じくして栃木市においても、市内公立高等学校の収容力の絶対的不足から私立高等学校の誘致が緊急の課題となっていた。そこで関係者が相集い協議を重ねた結果、堅実な建学の精神を有し、かつ優れた伝統のある國學院大学の附属高等学校を誘致することで意見の一致をみた。

昭和34年6月、栃木市および栃木県神社庁関係者が東京渋谷の國學院大学を訪れ、栃木市に附属高等学校設置を要請した。その後、三者の間で急速に話し合いが進展し、さらに設置条件が整い、昭和34年9月30日に開かれた学校法人國學院大学理事会で、風光明媚な太平山県立自然公園の麓に附属高等学校設置を正式に決定した。

昭和35年4月の開校をめざして、認可申請および建設の準備が國學院大学において進められる一方、昭和34年11月2日に栃木市入船町の栃木市教育委員会教育長室に仮事務所を設置して開校の準備を開始した。同年12月21日に認可申請書を栃木県知事に提出し、昭和35年4月11日付けで栃木県知事より認可が下りた。

昭和35年4月13日に第1回入学式を栃木市中央公民館において挙行し、次いで2日後の4月15日に旧南館が完成して授業を開始した。さらにその年の秋10月9日に本館が完成したことで、校舎建築のすべてが完了した。この本館校舎完成の日をもって本学園創立記念日と定め、毎年この前日に創立記念奉告祭・式典を挙行している。

高等学校の順調な発展に伴い、さらにいっそう地域の実情に即した教育をめざして昭和38年3月11日、学校法人國學院大学の姉妹法人として学校法人國學院大學栃木学園を設立し、高等学校の経営を継承した。法人は独立したが、建学の精神はいささかも変わることなく、この太平台に深く根ざし建学の精神を高揚し、昭和39年には商業科を併設した。さらに翌年の昭和40年3月25日に、國學院大學栃木二杉幼稚園を開園した。

短期大学の開学は高等学校創立の時から計画であったが、新法人が設立されて経営基盤が確立したことから、本格的に具体化していった。加えて栃木県および栃木市当局、県神社界、教育界、保護者の間からも設置の切実な要望が寄せられていた。このような状況の中で新法人設立後の昭和38年4月より準備をすすめ、昭和40年9月27日付けで文部省に設置認可申請書を提出した。設置学科は國學院大学の歴史と伝統を直接受け継ぐ国文科と、女子教育の尊重こそ建学の精神を高揚させるとの立場から、家政科の2学科とした。同年11月18日に大学設置審議会、同月21日に私立大学審議会の現地視察を経て、昭和41年1月25日、栃木県下初の短期大学として認可され、同年4月1日に開学した。

高等学校においては、新しい時代に即応できる人材育成をめざし商業科を発展的に国際情報科とすることとなり、平成3年(1991)6月10日付けで認可を得て平成4年4月に開設した。平成8年4月には、学園創立時より総合学園の構想の中にあつた少数精鋭の6か年中高一貫教育を行うべく中学校を設置した。

## 短期大学の沿革

法人の沿革でも述べたように、昭和41年1月25日、栃木県下初の短期大学として、国文科・家政科の二科(各科入学定員50人、収容定員100人)が認可され、同年4月11日に開学した。さらに、短期大学の充実を図るべく國學院大学が開学以来幾多の人材を世に送り出した業績を初等教育と幼児教育にも及ぼそうということで、昭和43年4月に初等教育科(入学定員50人、収容定員100人)を増設した。我が国の高等教育への志向が昭和50年代に入っていっそう強くなり、行政の指導はもとより地域社会からの要望によって、大学の量的拡大と質的向上の両面から整備することが急務となった。

そこで昭和50年度に、国文科・初等教育科の入学定員を各100人に、収容定員を各200人に変更した。さらに昭和58年度に、国文科・初等教育科の入学定員を各150人に、収容定員を各300人に、家政科の入学定員を100人に、収容定員を200人に変更した。また國學院大学の学統を受け継ぐ日本史学科(入学定員100人、収容定員200人)を昭和61年4月に開設した。このことは開設当初からの計画であった。これを機会に、既設の学科の名称を、それぞれ国文学科・家政学科・初等教育学科に変更した。さらに平成2年4月には、豊かな教養を備え、情報化社会に役立つIT技術を身につけた人材育成を目的とした商学科(入学定員150人、収容定員300人)を設置した。商学科の設置に伴い、初等教育学科の入学定員を100人に、収容定員を200人に変更した。平成14年度には、就学人口の減少を見込み、国文学科・商学科の入学定員を各100人に、収容定員を各200人に変更した。

さらに平成16年4月より、21世紀の社会目標である男女共同参画社会に寄与すること、國學院大学との連携教育を強化すること、また少子化対策の一環として、男女共学にして、新しい教育への第一歩を踏み出した。

なお、平成21年4月には、商学科の入学定員を60人に変更した。

(2) 短期大学の所在地、位置(市・区・町・村の全体図)、周囲の状況(産業、人口等)等。

所在地 〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地



## 周囲の状況

本学の所在する栃木市は、栃木県の南部に位置し、平成22年3月31日現在、世帯数50,146世帯、人口総数140,888人(男69,441人、女71,447人)である。

栃木市は、古くは下野国の国府の所在地として、この地方の政治・経済の中核的役割を果たしてきた。時代は移っても、その役割は変わらず、明治維新後の廃藩置県の後しばらく県庁所在地として、地方行政および経済活動の中心であった。県庁は明治11年(1878)に宇都宮に移ったが、栃木市は県南における中心的な町として重要な地位を占め、昭和12年(1937)4月1日に市制が施行された。戦後は近隣の村々を相次いで合併して市域を拡大した。今日、栃木市はJR両毛線と東武日光線の合流地、東北自動車道と北関東自動車道の合流地として、北関東の交通の要所である。また文教都市としての色彩が強く、県立高等学校(男子高等学校、女子高等学校、商業高等学校、工業高等学校、農業高等学校、男女共学高等学校、定時制・通信制高等学校)が7校、そして市内唯一の短期大学である本学がある。

栃木市は、江戸時代には日光例幣使街道の宿場町として、また江戸と結ぶ<sup>うずまがわ</sup>巴波川舟運の物資集積地として栄えた。市街地は、店舗用の「見世蔵」や物資用の「土蔵」等約400棟が残り、今日、こうした歴史的町並み等の歴史遺産を活用した「鯉のいる街・蔵の街」をキャッチフレーズに観光化に力を入れている。本学の位置する市西部の太平山からの景色は、「陸の松島」として観光名所ともなっている。

栃木市の産業は、下駄作りや大麻による栃木芯縄(鼻緒用)、また味噌・漬物等の製造、蔵の屋根を飾る栃木瓦やカイロ生産等の伝統的な物作りの技術を活かした地場産業や、本市ならではの名物・特産品の開発等「とちぎブランド」による新たな産業の活性化をめざしている。

一方、農業は米麦を中心に、「とちおとめ」に代表されるイチゴや「宮ねぎ」(別名ダルマねぎ)、トマト生産を初め、隣接する大平町と岩舟町ではブドウ、また栃木県は餃子の消費量日本一を争う宇都宮市の影響もあって、ニラの生産量では全国第1位となっている。

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALOの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail等を記載して下さい。

理事長 氏名 <sup>きむら よしなり</sup> 木村 好成

連絡先 〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地

TEL 0282-22-5556(理事長室)

FAX 0282-22-2822(法人事務局)

E-Mail jimukyoku@kokugakuintochigi.ac.jp

### 略歴

生年月日 昭和7年10月2日生

### 学歴

昭和31年3月 國學院大学政経学部卒業

昭和38年3月 東京教育大学教育学部研究生として学校経営管理研究修了



- 昭和49年 4月 國學院大学文学部助教授(昭和58年 3月31日まで)  
東京女学館短期大学非常勤講師(昭和53年 3月31日まで)
- 昭和52年 4月 文教大学教育学部非常勤講師(昭和59年 3月31日まで)
- 昭和54年 4月 聖徳学園短期大学非常勤講師(昭和56年 3月31日まで)
- 昭和55年 4月 和洋女子大学非常勤講師(平成16年 3月31日まで)
- 昭和58年 4月 國學院大学文学部教授(平成16年 3月31日まで)  
埼玉大学教育学部非常勤講師(昭和62年 3月31日まで)  
國學院大學栃木短期大学非常勤講師(平成 3年 3月31日まで)
- 平成元年 4月 國學院女子短期大学非常勤講師(同 9月まで)
- 平成 3年 4月 二松学舎大学文学部非常勤講師(平成 8年 3月31日まで)
- 平成 7年 4月 國學院大学大学院文学研究科兼坦教授(平成 9年 3月31日まで)
- 平成 8年 4月 東横学園女子短期大学非常勤講師(平成10年 3月31日まで)
- 平成 9年 4月 國學院大学大学院文学研究科教授(平成16年 3月31日まで)  
二松学舎大学文学部非常勤講師(平成16年 3月31日まで)
- 平成12年 7月 北海道教育大学(函館分校)非常勤講師(集中講義)
- 平成16年 4月 國學院大学文学部非常勤講師(平成19年 3月31日まで)  
國學院大学大学院文学研究科非常勤講師(平成18年 3月31日まで)  
國學院大学名誉教授(現在に至る)
- 平成17年 4月 弘前学院大学文学部・大学院文学研究科教授(平成19年 3月31日  
まで)
- 平成18年 4月 國學院大学大学院文学研究科兼坦教授(平成19年 3月31日まで)
- 平成19年 4月 國學院大學栃木短期大学学長(現在に至る)  
学校法人國學院大學栃木学園理事(現在に至る)  
國學院大學栃木短期大学教授(現在に至る)  
弘前学院大学客員教授(現在に至る)

#### 賞罰

- 平成 9年 3月 今泉博士記念賞 (國學院大学)受賞

A L O 氏 名 はやしだ たかかず 林田 孝和

連絡先 〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地

TEL 0282-22-5511(内線401)

FAX 0282-22-5743(短大事務局)

E-Mail alo-jc@kokugakuin Tochigi.ac.jp

#### 略歴

生年月日 昭和16年 4月1日生

#### 学歴

- 昭和39年 3月 國學院大学文学部文学科卒業
- 昭和39年 4月 國學院大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程入学
- 昭和41年 3月 國學院大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了
- 昭和41年 4月 國學院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程入学

昭和44年 3月 國學院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位修得満期  
退学

学位

昭和41年 3月 文学修士(國學院大学 修第264号)

平成 5年11月 博士(文学)(國學院大学 文乙第108号)

職歴

昭和39年 4月 東京電機大学高等学校非常勤講師(昭和41年 3月31日まで)

昭和41年 4月 東京電機大学高等学校専任講師扱い(昭和45年 3月31日まで)

昭和45年 4月 國學院高等学校教諭(昭和47年 3月31日まで)

昭和46年 4月 國學院大学文学部非常勤講師(現在に至る)

昭和47年 4月 國學院高等学校専任講師(昭和53年 3月31日まで)

昭和51年 4月 目白学園短期大学非常勤講師(昭和53年 3月31日まで)

昭和53年 4月 國學院大學栃木短期大学専任講師(昭和56年 3月31日まで)

昭和56年 4月 國學院大學栃木短期大学助教授(昭和62年 3月31日まで)

昭和62年 4月 國學院大學栃木短期大学教授(現在に至る)

武蔵野女子大学文学部非常勤講師(平成 4年 3月31日まで)

平成 8年 4月 二松学舎大学文学部非常勤講師(現在に至る)

平成11年 4月 大東文化大学文学部非常勤講師(平成14年 3月31日まで)

平成14年 4月 二松学舎大学大学院文学研究科非常勤講師(平成18年 3月31日  
まで)

平成15年 4月 國學院大學栃木短期大学国文学科長(現在に至る)

学校法人國學院大學栃木学園評議員(現在に至る)

賞罰

昭和60年11月 高崎博士記念賞 甲(國學院大学)受賞

(4) 平成16年度から22年度までの学科・専攻(通信による教育を行う学科(以下「通信教育学科」という)、専攻科を含み、以下「学科等」という)ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%)、収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%)を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

平成16年度～22年度の設置学科、入学定員等

学科等の名称		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	備考
国文学科	入学定員	100	100	100	100	100	100	80	
	入学者数	77	75	94	67	74	61	70	
	入学定員充足率(%)	77	75	94	67	74	61	87	
	収容定員	200	200	200	200	200	200	180	
	在籍者数	157	149	169	157	141	132	132	
	収容定員充足率(%)	78	74	84	78	70	66	73	
家政学科	入学定員	100	100	100	100	100	100	80	
	入学者数	98	83	90	75	62	49	47	
	入学定員充足率(%)	98	83	90	75	62	49	58	
	収容定員	200	200	200	200	200	200	180	
	在籍者数	194	175	172	163	137	107	95	
	収容定員充足率(%)	97	87	86	81	68	54	52	
初等教育学科	入学定員	100	100	100	100	100	100	80	
	入学者数	127	101	89	54	39	42	79	
	入学定員充足率(%)	127	101	89	54	39	42	98	
	収容定員	200	200	200	200	200	200	180	
	在籍者数	232	222	185	141	90	80	119	
	収容定員充足率(%)	116	111	92	70	45	40	66	
日本史学科	入学定員	100	100	100	100	100	100	70	
	入学者数	63	87	60	62	59	46	70	
	入学定員充足率(%)	63	87	60	62	59	46	100	
	収容定員	200	200	200	200	200	200	170	
	在籍者数	95	148	141	122	119	101	110	
	収容定員充足率(%)	47	74	70	61	59	50	64	
商学科	入学定員	100	100	100	100	100	60	60	
	入学者数	46	35	45	41	40	50	43	
	入学定員充足率(%)	46	35	45	41	40	83	71	
	収容定員	200	200	200	200	200	160	120	
	在籍者数	71	79	80	86	80	89	93	
	収容定員充足率(%)	35	39	40	43	40	44	77	

(5) 平成19年度～21年度に入学した学生(この事項においては通信教育学科の学生を除く)の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を下表を例に毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成19年度～21年度)

地域	19年度		20年度		21年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
岩手	1	0.3	2	0.7	2	0.8
宮城	4	1.3	5	1.8	3	1.2
秋田	1	0.3	0	0	1	0.4
山形	0	0	1	0.4	2	0.8
福島	46	15.4	32	11.7	29	11.7
茨城	24	8.0	24	8.8	19	7.7
栃木	128	42.8	124	45.3	124	50.0
群馬	31	10.4	36	13.1	19	7.7
埼玉	25	8.4	18	6.6	14	5.6
東京	6	2.0	10	3.6	4	1.6
神奈川	3	1.0	3	1.1	0	0
千葉	4	1.3	2	0.7	8	3.2
長野	4	1.3	4	1.5	5	2.0
新潟	5	1.7	4	1.5	8	3.2
静岡	3	1.0	3	1.1	2	0.8
他	14	4.7	6	2.2	8	3.2

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ下表を例に平成22年5月1日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状

(平成22年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
國學院大學栃木高等学校	栃木市平井町608番地	760	2,280	1,525
國學院大學栃木中学校	栃木市平井町608番地	80	240	198
國學院大學栃木二杉幼稚園	栃木市片柳町5丁目11番37号	70	210	133

(7) その他  
 評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

とくにない。

## 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

### 【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学園の母体である國學院大学は、明治15年(1882)に創立された皇典講究所をその前身としている。明治15年11月4日の開校式において、初代総裁の有栖川宮熈仁親王は教職員・学生に対し、「凡そ学問の道は本を立つるより大なるはなし。故に国体を講明して以て立国の基礎を鞏くし、徳性を涵養して以て人生の本分を尽すは百世易うべからざる典則なり。」と、告諭を述べられた。この趣旨は「学問は根本を明らかにすることが大切なのであるから、まず建国以来受け継がれてきた日本固有の優れた文化・国民性をよく探求・認識し、それを生活に取り入れて人格を磨き、祖国の繁栄はもとより、広く世界人類・文明のために寄与することこそ日本人として変わることなくめざさなければならない目標である。」ということである。これが時流を越え一貫して掲げ続けられてきた國學院大学の建学の理想であり、また本学園の建学の精神である。今や世界文明の様相は刻々と変化進展している。それを受け入れ、消化し、活用するためにも、この建学の精神はいよいよ必要不可欠のものとなっている。このような教育理念によって本学園の学問研究と人間教育は特色付けられている。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神・教育理念を学生、教職員に周知させる方法としては、まず入学試験以前のオープンキャンパス、進路相談会等で、建学の精神・教育理念を記載したパンフレット等を配布し説明している。また、入学が決定した後は、建学の精神がもっともよく謳われている校歌(國學院大学長芳賀矢一博士の作詞、本居長世の作曲)や愛唱歌等を収録したCDを送付し、入学後には解説を加えながら教職員・学生とともに唱和している。さらに入学式における学長式辞、理事長祝辞のなかで建学の精神を語りかけるとともに、オリエンテーション期間の総合ガイダンス、学長講話等でも説明している。『学報斯花』には、建学の精神・教育理念に関する記事をできるだけ掲載し、繰り返し啓蒙している。教職員に対しては、毎年『学校法人國學院大學栃木学園要覧』(以下『要覧』と略称する)を配布して、建学の精神、國學院大学と栃木学園の沿革を常に確認するようにしている。

添付資料1「学校法人國學院大學栃木学園要覧」参照。

参考資料1「学報斯花」参照。

## 【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います(例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等)。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本学の教育目的は、日本人が長い時をかけて生み育ててきた特色ある文化・伝統を、正しく学びとり、さらに発展させるための人材を育成するところにある。日本文化の本質について、さらに追求していくところに、われわれの教育・学問の未来と希望がある。よき伝統は、よき言葉によって表現される。言葉は心であり、言葉はその時代の世相の反映でもある。心の伝統と同じく、言葉にも不易・流行があり、不易によって心の真実が伝えられ、流行によってその時代の新しい情熱が導き出される。本学では正しい言葉によって、われわれの時代のあるべき姿をとらえ、表現することに努めている。そしてどの家庭にも、その家族の間に守られてきたしつけがあるが、それはそれぞれの家の願わしい生活を守り、育てるための、自然な心のさだめである。本学にも、伝統と個性によって生じたしつけがある。しつけを守って、意義ある生活を送ることが望ましい。教育基本法ならびに学校教育法に基づくとともに、建学の精神に則り、人格を陶冶し、必要な専門教育を施し、有用な人材を育成することを教育目標とするが、学科ごとにも教育目的や教育目標を定めているので、以下、設立された順に提示する。

### 国文学科

母国語を知り、母国の文化に対する理解を深めることによってこそ、心豊かな誇り高い国際人になることができる。本学科の教育目的は、日本のすばらしい言語・文学・文化を誇り、愛することのできる人間を育てることにある。國學院大学の伝統を受け継ぎ、実証的で総合的な日本文学研究の徹底をめざす。よい伝統はよい言葉によって表現される。日本の文学と言語の考究をより広い視野に立って行い、このことを通して、言葉を大切にし礼節を重んじ、自国の文化に誇りを持つ誠実で感性豊かな社会人を育てることが教育目標である。

### 家政学科

科学と心の調和を図りながら、健康で創造的な生活を考え、食生活系、衣生活系、生活経営系、健康系の四学問系を総合的に学び、人間生活を科学的に探求する人材を育成することが教育目的である。今日の家政学は、個人・家族員・地域社会人として、生活の質を充実・向上させることをめざし、自然科学的、社会科学的、人文科学的方法を取り入れた総合的・実践的学問として発展を続けてきている。この「家政学の本を立てる」ことをめざした家政学教育を行うために、四学問系にわたる幅広い分野について総合的に学び、また実験実習を通して、実践的な家政学を把握することが教育目標である。

### 初等教育学科

本学科の教育目的は、小学校および幼稚園の教諭として深い専門知識、優れた技能、高い教養を持った人材を育成することである。さらに意欲と行動力を備え、教育現場で積極的に活躍できる教員を育てることをねらいとする。本学科の特徴は、小学校および幼稚園

教諭の免許(どちらも二種)を同時に取得できるところにある。また平成21年度からは、保育士の資格を取得できるようにした。短期大学としての深い教養を身につけるとともに、これら二つの資格を取得させることが教育目標である。

#### 日本史学科

我が国固有の文化・政治・経済の枠組みと、その変動を基礎的に把握させ、さらに専門的な知識と技術を身につけて、常に時代のニーズに応え、実社会に貢献できる人材を育成することが教育目的である。日本史学は、史料に基づいた実証的な歴史学の研究方法を基本としている。講義や演習を通して日本の文化・政治・経済・社会等の基礎的知識を把握させ、古文書調査実習や博物館の実務実習、さらに考古学の発掘実習を定期的に授業に組み込み、地域史研究の実技的方法を体得させている。また文化財の調査・保存、考古学の発掘方法等各分野との連繫を図り、可能な限り個別指導を実施して、その意義を深く理解させ、実践力を養成することが教育目標である。

#### 商学科

今日は「経済の時代」といわれ、経済に対する関心が高まっている。国際的にみても経済面で我が国に期待されるところは大きい。経済大国としての日本の役割を考えると、経済活動に密接に繋がる商業活動について理論的に学ぶことは重要なことである。豊かな教養を備え、実業界に役立つ専門技術を身につけた人材を育成することが教育目的である。その具体的人物像を本学科では、「自律的社会人」と考えている。すなわち、世界に学べるグローバルな知力を持った感性豊かな人間の育成である。そのためスキルを体得するだけでなく、幅広い教養を身につけることを重視している。さらに、国際化・情報化・多様化する現代社会において時代の変化に対応できる柔軟性と氾濫する情報の中から必要なものを取捨選択する能力と、会計情報を読み解く力を養うことが教育目標である。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在どのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

各学科の教育目的・教育目標を学生や教職員に周知させるために、入学式後に保護者を交えて学科懇談会を行い、またオリエンテーション期間中に各学科・学年ごとのガイダンスにおいて、各学科長が説明している。本学は、全学科担任制をとっており、学生との個別面談における教育・生活面の指導を通して、学科の教育目的・教育目標を周知させることに日々努力している。さらに、入学直後に、日本が誇る世界文化遺産である日光二社(日光東照宮と日光二荒山神社)を正式参拝し、日本の歴史・文化を実際に体験している。また、10月8日の創立記念日の式典は、神式で行い、教職員・学生が参列して、本学の成り立ちを確認し、教育目的の理解を深めている。「神道と日本文化」を教養科目の必修科目とし、日本文化はもとより日本人の精神構造についても学んでいる。

学外への公表については、本学のホームページ上の『学報斯花』を通じて行っている。県内の高等学校を初め近隣および入学者出身校へ『国学院大学栃木短期大学学校案内』(以下『学校案内』と略称する)を送付している。その他の地方での入試説明会において、本学の教育目的・教育目標を説明している。さらに本学同窓会である「斯花会」、同じく姉妹校の國學院大学の同窓会である院友会においても機会に応じて、公表している。

添付資料 2 「国学院大学栃木短期大学学校案内」参照。

参考資料 1 「学報斯花」参照。

### 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

平成17年に設置した第三者評価委員会(平成20年度から「自己点検・評価委員会」に改称)を中心に、建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検を実施し、さらに教授会・評議員会および理事会の会議において定期的な点検を行ってきている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

理事会および教授会は、『要覧』や『学校案内』などに明記された建学の精神と教育理念について毎年審議して、教育目標・教育目的を点検し、それらを周知させるための施策に関し、実施する体制を整えている。

添付資料 1 「学校法人国学院大学栃木学園要覧」参照。

添付資料 2 「国学院大学栃木短期大学学校案内」参照。

### 【特記事項について】

(1) この《 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

本学は建学の精神に基づき、日本の文化とことばを大切にし、日本人としての教養を修得させるために、とくに「国語(ことばと表現)」と「神道と日本文化」、また学長の「國栃総合教養」を必修科目としてカリキュラムに組み込んで、全学科の学生を教育している。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくはない。

## 教育の内容

### 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

平成21年度の各学科及び教養科目の教育課程は、次の表のとおりである。本学では、すべての学科に共通した教養科目が開講されている。

各学科は、2～3のコースまたは専攻に分かれているが、本学は学科数が多く、コース・専攻別に教育課程一覧を掲げると多くの紙幅を要するので、学科ごとにまとめた。

本学では、平成21年度に、全学科にセメスター制を取り入れ、カリキュラムを大幅に改訂した。本年度は、新旧カリキュラムの移行期に当たるために、一部旧課程の科目も開講している。当該科目には、備考欄に\*印を付した。

#### 教養科目の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種類	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
必修科目	神道と日本文化				2						287(4)	
	国語(ことばと表現)				2						281(6)	
	國語総合教養				2						274(4)	
	フレッシュマン イングリッシュ				2						302(9)	
	スポーツ・健康科学				2						279(8)	
基礎選択科目	文学(文学とメディア)					2					114(1)	
	文学(近・現代文学鑑賞)					2					25(1)	
	現代社会と倫理					2					133(4)	
	世界の宗教					2					25(1)	
	歴史発見					2					46(2)	
	音楽(オペラ・ミュージカル鑑賞法)					2					51(1)	
	音楽(理論と表現)					2					40(1)	
	日本国憲法					2					186(3)	
	現代政治入門					2					143(4)	
	市民生活と経済					2					9(1)	
	地球環境と人間活動					2					24(2)	
	教育と社会					2					2(1)	
	データの科学					2					38(1)	
	情報処理					2					180(8)	
	キャリアプランと職業					2					0	
	生活と数学					2					15(1)	
	化学と生活					2					61(1)	
	生命の進化					2					53(1)	
宇宙と人間					2					117(3)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
発展選択科目	日本人の起源と進化					2					145(1)	
	自然と環境 (植物の分類と生態)					2					39(1)	
	神道と社会					2					60(1)	
	社会文化と倫理					2					61(1)	
	日本国憲法					2					63(2)	
	政治と人間					2					62(3)	
	生命科学と人間					2					60(1)	
	人類の起源と進化					2					72(2)	
	日本の歴史と文化					2					20(1)	
	データ分析と総合					2					12(1)	
	シニア イングリッシュA					2					51(2)	
	シニア イングリッシュB					2					36(2)	
	シニア イングリッシュC					2					44(2)	
	フランス語A					2					29(2)	
	フランス語B					2					28(2)	
	中国語A					2					36(2)	
	中国語B					2					34(2)	
	スポーツ・健康科学					2					68(2)	

## 国文学科の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	日本文学概説				4						74(1)	
	日本語概説				4						74(1)	
	日本文学通史				2						74(1)	
	日本語文法入門				2						68(1)	
	日本語文法				2						7(1)	
	漢文入門				2						78(1)	
	日本語表現法				2						67(1)	
	文学基礎研究法				2						74(2)	
	卒業研究				2						67(13)	
	万葉集講読					2					7(1)	
	源氏物語講読					2					46(1)	
	平家物語講読					2					38(1)	
	近世文学講読					2					16(1)	
	近代文学講読					2					17(1)	
	現代文学講読					2					50(1)	
	児童文学講読					2					38(1)	
	時代文学史(上代・中古)					2					9(1)	
	時代文学史(中世・近世)					2					36(1)	
	時代文学史(近代・現代)					2					30(1)	
	日本文学演習(源氏物語)					2					4(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	日本文学演習(平家物語)					2					18(1)	
	日本文学演習(夏目漱石)					2					38(1)	
	日本文学演習(芥川と太宰の文学)					2					2(1)	
	日本文学演習(比較文学)					2					8(1)	
	日本語学演習(古代語)					2					19(1)	
	日本語学演習(古代語)					2					10(1)	
	日本語学演習(近・現代語)					2					18(1)	
	創作文芸入門(児童文学・絵本)					2					27(1)	
	創作文芸入門(短歌・俳句・詩)					2					6(1)	
	創作文芸入門(小説・随筆)					2					34(1)	
	創作文芸入門(小説・随筆)					2					4(1)	
	創作文芸演習(児童文学・絵本)					2					18(1)	
	創作文芸演習(詩・短歌)					2					7(1)	
	創作文芸演習(俳句・連句)					2					0	
	創作文芸演習(小説・随筆)					2					12(1)	
	創作文芸演習(小説・随筆)					2					7(1)	
	民俗文芸講読(伝承文芸)					2					42(1)	
	民俗文芸講読(郷土文芸)					2					33(1)	
	日本民俗学概説					2					41(1)	
	日本芸能文化論					2					5(1)	
	日本歌謡史					2					9(1)	
	口承文芸					2					17(1)	
	民俗文芸演習					2					6(1)	
	漢文学概説					4					38(1)	
	漢文学講読					2					8(1)	
	日本文学特殊研究					2					3(1)	
	日本語学講読					2					7(1)	
	書道(1年)					4					56(4)	
	書道(2年)					2					3(1)	
	日本語史					4					37(1)	
	日本語学各論					2					9(1)	
	言語学					2					39(1)	
	日本語・日本文学情報処理					2					11(1)	
	古文書学					2					7(1)	
	日本史概説					2					1(1)	
	歴史民俗遺産概説(有形)					2					3(1)	
	児童心理学					2					18(1)	
	宗教学概論					2					1(1)	
	日本文化史					2					2(1)	
	美術史					4					11(1)	
有職故実					2					25(1)		
教職科目	教師論				2					19(1)		
	教育原理				2					19(1)		
	教育心理学				2					19(1)		
	教育制度論				2					24(1)		
	国語科教育法				2					19(1)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教職科目	道德教育の研究					2					24(1)	
	特別活動					2					24(1)	
	視聴覚教育					2					48(1)	
	生徒・進路指導論					2					24(1)	
	教育相談					2					24(1)	
	総合演習					2					24(2)	
	教育実習					2					19(1)	
	教育実習					4					23(1)	
司書課程科目	介護論					2					19(1)	
	生涯学習概論					2					34(1)	
	図書館概論					2					34(1)	
	図書館経営論					2					31(1)	
	図書館サービス論					2					34(1)	
	情報サービス概説					2					31(1)	
	レファレンスサービス演習					1					31(1)	
	情報検索演習					1					31(1)	
	図書館資料論					2					35(1)	
	専門資料論					2					34(1)	
	資料組織概説					2					35(1)	
	資料組織概説					2					35(1)	
	資料組織演習					1					36(1)	
	資料組織演習					1					36(1)	
	児童サービス論					2					34(1)	
	図書及び図書館史					2					31(1)	
	学校経営と学校図書館					2					3(1)	
	学習指導と学校図書館					2					0	
	読書と豊かな人間性					2					3(1)	
	情報メディアの活用					2					3(1)	
図書館実習					2					32(1)		

## 家政学科の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	生活経営学				2						73(1)	
	家族関係					2					37(1)	
	保育学A				2						67(1)	
	保育学B				2						7(1)	
	住居学					2					35(1)	
	社会福祉					2					65(1)	
	流通・金融論					2					11(1)	
	家庭情報処理					2					50(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	栄養学				2						73(1)	
	栄養学					2					24(1)	
	栄養学実験				1						73(2)	
	栄養学実験					1					21(1)	
	食品衛生学					2					26(1)	
	食品学				2						61(1)	
	食品加工学					2					57(1)	
	食品学実験				1						61(2)	
	食品学実験					1					48(1)	
	食品評価・鑑別論演習					1					31(2)	
	食品評価・鑑別論演習					1					14(1)	
	食品流通論						2				28(1)	
	調理学				2						63(1)	
	調理実習				1						62(2)	
	調理実習				1						64(2)	
	調理実習					1					23(1)	
	調理実習					1					31(1)	
	被服材料学				2						62(2)	
	被服材料学実験				1						63(2)	
	被服整理学					2					72(1)	
	被服整理学実験					1					60(1)	
	被服構成学					2					58(1)	
	立体構成実習				1						61(2)	
	立体構成実習					1					9(1)	
	立体構成実習					1					11(1)	
	立体構成実習					1					9(1)	
	平面構成実習					1					21(1)	
	平面構成実習					1					9(1)	
	平面構成実習					1					37(1)	
	平面構成実習					1					29(1)	
	被服心理学				2						74(1)	
	色彩論					2					61(1)	
	色彩論					2					23(1)	
	服飾デザイン					2					37(1)	
	服飾手芸					1					12(1)	
	服飾手芸					1					24(1)	
衛生学				2						73(1)		
家庭看護学					2					27(1)		
解剖生理学					2					53(1)		
薬理概論					2					50(1)		
精神保健					2					39(1)		
教職科目	教師論				2					41(1)		
	教育原理				2					40(1)		
	教育心理学				2					40(1)		
	教育制度論				2					41(1)		
	家庭科教育法				2					7(1)		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
教職科目	道徳教育の研究					2					41(1)		
	特別活動					2					41(1)		
	視聴覚教育					2					39(2)		
	生徒・進路指導論					2					41(1)		
	教育相談					2					41(2)		
	総合演習					1					50(1)		
	総合演習					1					41(3)		
	教育実習					2					7(1)		
	教育実習					4					7(1)		
	養護実習					2					34(1)		
	養護実習					3					34(1)		
	介護論					2					59(2)		
	予防医学					2					50(1)		
	学校保健					2					34(1)		
	養護概説					1					34(1)		
	養護概説					1					34(1)		
	健康相談活動					2					34(1)		
	微生物学					2					50(1)		
	免疫学					2					50(1)		
	看護学					1					52(1)		
	看護学					1					52(1)		
	看護学					1					34(1)		
	看護学					1					34(1)		
	看護実習					1					53(2)		
	看護実習					1					52(2)		
	看護実習					1					34(2)		
	看護実習					1					34(2)		
	臨床実習					2					50(1)		
	司書課程科目	生涯学習概論					2					2(1)	
		図書館概論					2					2(1)	
図書館経営論						2					6(1)		
図書館サービス論						2					2(1)		
情報サービス概説						2					6(1)		
レファレンスサービス演習						1					6(1)		
情報検索演習						1					6(1)		
図書館資料論						2					2(1)		
専門資料論						2					2(1)		
資料組織概説						2					2(1)		
資料組織概説						2					0		
資料組織演習						1					2(1)		
資料組織演習						1					0		
児童サービス論						2					2(1)		
図書及び図書館史						2					6(1)		
情報機器論						2					6(1)		
学校経営と学校図書館						2					0		
学習指導と学校図書館						2					0		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
司書課程科目	読書と豊かな人間性					2					0	
	情報メディアの活用					2					0	
	図書館実習					2					3	
フードスペシャリスト	フードスペシャリスト論					2					27(2)	
	フードコーディネーター論					2					14(1)	

初等教育学科の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	教科専門 国語				2						40(1)	
	児童文学					1					2(1)	
	書道				1						48(2)	
	教科専門 社会(世界史)					1					5(1)	
	(日本史概説)					1					5(1)	
	(人文地理)					1					0	
	教科専門 算数					2					22(1)	
	教科専門 理科					2					23(1)	
	教科専門 生活					2					30(1)	
	教科専門 図画工作				2						40(2)	
	教科専門 図画工作					2					37(2)	
	教科専門 音楽(器楽)				1						44(15)	
	教科専門 音楽(声楽)				1						40(3)	
	教科専門 音楽(小学校)					2					7(1)	
	教科専門 音楽(幼稚園)					2					35(1)	
	教科専門 体育				2						42(1)	
	教科専門 体育					2					37(1)	
	教科専門 家庭					2					24(1)	
	教科教育法 国語					2					50(1)	
	教科教育法 社会					2					45(2)	
	教科教育法 算数					2					34(2)	
	教科教育法 理科					2					45(3)	
	教科教育法 生活					2					40(3)	
	教科教育法 図画工作					2					50(2)	
	教科教育法 音楽					2					49(1)	
	教科教育法 体育					2					19(2)	
	教科教育法 家庭					2					31(2)	
	教師論				2						40(1)	
	教育原理				4						41(1)	
	保育学				2						40(1)	
	日本教育史					2					1(1)	
	西洋教育史					2					0	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	教育心理学				2						40(1)	
	児童心理学					2					37(1)	
	教育制度論				2						50(1)	
	道德教育の研究				2						50(1)	
	特別活動				2						49(1)	
	保育課程論				2						49(1)	
	教育方法論					2					5(1)	
	視聴覚教育				2						49(2)	
	保育方法論				2						49(1)	
	児童臨床心理学				2						50(1)	
	幼児心理学				2						49(1)	
	教育相談				2						49(1)	
	幼児・児童との対話					2					9(1)	
	幼稚園教育特殊講義					2					39(1)	
	総合演習				2						49(5)	
	教育実習				2						41(1)	
	教育実習				4						47(1)	
	介護論				2						40(1)	
	保育内容健康					2					45(1)	
	保育内容人間関係					2					48(1)	
	保育内容環境					2					41(2)	
	保育内容言葉					2					49(1)	
	保育内容表現 (造形)					2					40(2)	
保育内容表現 (音楽)					2					40(3)		

## 日本史学科の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	史学入門				4						60(1)	
	東洋史概説				2						59(1)	
	西洋史概説				2						59(1)	
	古文書学				2						60(1)	
	史学基礎演習				2						60(2)	
	史学基礎演習				2						59(2)	
	日本文化史				2						59(1)	
	卒業研究				2						59(6)	
	日本古代史概説					4					21(1)	
	日本中世史概説					4					34(2)	
	日本近世史概説					4					33(1)	
	日本近代史概説					4					19(1)	
	古文書学					2					53(1)	
	考古歴史遺産概説 (日本)					2					56(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	考古歴史遺産概説 (世界)					2					56(1)	
	歴史民俗遺産概説 (無形)					2					27(1)	
	歴史民俗遺産概説 (有形)					2					33(1)	
	古代史料講読					2					17(1)	
	中世史料講読					2					27(1)	
	近世史料講読					2					32(1)	
	近代史料講読					2					17(1)	
	古文書学演習					2					36(1)	
	考古歴史遺産研究					2					48(1)	
	東洋歴史遺産研究					2					28(1)	
	西洋歴史遺産研究					2					3(1)	
	考古学フィールドワーク					2					22(1)	
	歴史民俗フィールドワーク					2					25(1)	
	東洋文化遺産実習					2					9(1)	
	地域史研究					2					11(1)	
	有職故実					2					20(1)	
	美術史					4					13(1)	
	歴史情報処理					2					6(1)	
	考古歴史遺産研究					2					46(1)	
	東洋史概説					2					49(1)	
	西洋史概説					2					48(1)	
	西洋歴史遺産研究					2					0	
	文化財学					2					13(1)	
	文化財の保護					2					18(1)	
	専・人文地理学					2					17(1)	
	自然地理学					2					25(1)	
	日本地誌					2					28(1)	
	教・宗教学概論					2					10(1)	
	教・倫理学					2					9(1)	
	教・政治学					2					16(1)	
教・経済原論					2					16(1)		
教職科目	教師論					2					18(1)	
	教育原理					2					53(1)	
	教育心理学					2					18(1)	
	教育制度論					2					16(1)	
	社会科教育法					2					18(1)	
	道徳教育の研究					2					16(1)	
	特別活動					2					16(1)	
	視聴覚教育					2					42(1)	
	生徒・進路指導論					2					16(1)	
	教育相談					2					16(1)	
	総合演習					2					16(1)	
	教育実習					2					18(1)	
	教育実習					4					16(1)	
	介護論					2					18(2)	
学芸員科目	生涯学習概論					4					40(1)	
	博物館概論					2					40(1)	
	博物館経営・情報論					2					38(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
学芸員科目	博物館資料論					2					40(1)	
	博物館実習					2					40(1)	
	博物館実習					2					40(3)	
社会教育主事科目	社会教育計画					4					4(1)	
	社会教育演習					4					5(1)	
	国際化と社会教育					2					4(1)	
	同和問題と社会教育					2					5(1)	
	社会教育行政					2					5(1)	
	健康教育					2					5(1)	

## 商学科の教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	基礎ゼミナール				2						40(6)	
	専門ゼミナール				2						40(6)	
	基礎経済学				4						41(1)	
	基礎経営学				4						40(1)	
	金融の基礎					2					24(1)	
	金融の基礎					2					24(1)	
	日本経済					4					18(1)	
	国際経済					2					2(1)	
	経済史の基礎					4					21(1)	
	企業と簿記					2					34(3)	
	企業と会計					4					21(1)	
	税務会計					2					16(1)	
	会社法					4					18(1)	
	情報科学					4					46(1)	
	ネットワーキング原理					2					18(1)	
	プレゼンテーション概論					2					14(1)	
	Webデザイン					2					23(1)	
	現代経済システム					2					6(1)	
	財政の基礎					2					6(1)	
	商業史					4					12(1)	
	貿易論					4					10(1)	
	経済統計					2					5(1)	
	消費と環境					2					10(1)	
	国際金融					2					2(1)	
	ビジネス外書講読					4					10(3)	
	簿記演習					2					37(3)	
	経営管理					2					22(1)	
	マーケティング					4					16(1)	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人数 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	人事管理論					2					36(1)	
	会計情報システム					2					11(1)	
	管理会計					2					1(1)	
	流通と社会					2					8(1)	
	秘書学概論					2					28(1)	
	秘書実務					2					35(1)	
	文書実務					2					20(1)	
	ビジネス実務総論					2					27(1)	
	ビジネス実務演習					2					26(1)	
	システム・アドミニストレータ入門					2					3(1)	
	システム・アドミニストレータ演習					2					3(1)	
	ネットワーク組織論					2					15(1)	
	プログラミング					2					35(1)	
	プログラミング					2					15(1)	
	Webプログラミング					2					16(1)	
	システム分析設計					2					36(1)	
	ビジネスソフト実習					1					12(1)	
	マルチメディア演習					2					27(1)	
	CG(コンピュータグラフィックス)					2					5(1)	
	プレゼンテーション演習					2					13(1)	
	プレゼンテーション演習					2					13(1)	
	情報機器利用プレゼンテーション演習					2					10(1)	
	Webデザイン演習					2					17(1)	
色彩論					2					2(1)		
色彩論					2					2(1)		

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

本学では、全学科ともに2～3のコース制および専攻制を取り入れており、学生の多様なニーズに対応できるカリキュラムとなっている。平成21年度より全学科ともに完全な Semester制を実施した。授業はすべて半期科目として開講され、単位認定や履修登録も半期ごとに行われる。これにあわせて、全学科で、選択科目の種類を増やす等のカリキュラムの大幅な見直しを実施した。各学科および教養科目の特徴は、以下の通りである。

本学では、教養科目を全学科共通に開講している。専任教員9人(平成21年5月1日現在)は、学科に所属せず、全学科の教養科目全体を担当する。必修科目として、本学の建学の精神に基づいた講座である「神道と日本文化」と、母国語である日本語を通じて理解を深めることを目的とした「国語(ことばと表現)」、日本人としての教養を身につけるための学長による「國術総合教養」、さらに「フレッシュマン・イングリッシュ」「スポーツ・健康科学A」の計5科目を課している。また、四年制大学へ編入学する学生のために、第2外国語として、フランス語と中国語の講座も開講しており、学生の科目選択の幅は広

いものとなっている。

国文学科は、日本語・日本文学コース、創作文芸コース、民俗文芸コースの3つのコースを開設している。日本語・日本文学コースは、國學院大学の学問の伝統を受け継ぎ、実証的かつ総合的な日本文学研究をめざす。古典文学を初め、近現代文学や漢文学等、多様な講座が開講されている。創作文芸コースは、日本文学の基礎を踏まえて、小説・随筆等の散文や、短歌を初めとする韻文を創作する技術を学ぶ。児童文学・童話を研究し、創作するための講座も開かれている。民俗文芸コースは、民間に伝承されてきたさまざまな生活の古典の探訪調査を通して口承文芸を研究し、さらにこれを補助学として文芸全般を学ぶ。地域性を活かした郷土文学の講座も開かれている。各コースともに、共通必修科目・コース別必修科目・自由選択科目をバランスよく配置し、また2年次にコースの変更を希望する学生に対しても、柔軟に対応できるようなカリキュラムになっている。それぞれ専門の異なる専任教員9人を各コースに配置し、学生の多様なニーズに対応できるように、多彩な選択科目を用意している。

家政学科は、平成17年度から家庭科教諭養成を主とする生活科学専攻と養護教諭養成を主とする健康科学専攻の2つの専攻を設け、専任教員8人を各専攻にバランスよく配置している。また本学科では、平成14年度から Semester 制を採用して、より多くの資格が取得しやすくなっている。専門科目は、家政学の学問体系に基づいた「食生活系」、「衣生活系」、「生活経営系」、「健康系」の4つの系からなっており、必修科目と選択科目を適切に配置し、伝統的に実験実習を重視したカリキュラムが組まれている。

初等教育学科は、平成21年度から保育士の資格が取れるようになったのにあわせて、コース制を見直した。幼稚園教諭二種免許と保育士資格が取得できる「幼稚園・保育コース」と、小学校教諭二種免許と幼稚園教諭二種免許が取得できる「小学校・幼稚園コース」の2コースである。本学科では、専任教員13人を各コースに配置し、ほとんどの専門分野を専任教員が担当し、専門的で指導の行き届いた授業を提供している。本学科では、資格取得の関係上、必修科目の割合が多くなってしまいが、選択科目の幅も可能な限り広げて、多様な学生のニーズに応えるように努めている。

日本史学科は、多様化する学生の学問的関心に応えるために、平成21年度からコース制を2コースから3コースに広げ、日本史コース(日記や手紙などの古文書をはじめ、さまざまな史料を読み、日本史の各時代を学ぶ)、文化・美術史コース(絵巻や建築などの文化的遺産を読み解き、日本をはじめ東洋・西洋の文化を学ぶ)、考古学コース(遺跡を発掘し、出土した遺構や遺物から当時の人々の生活を復元し、また発掘の技術や遺物の取り扱いを学ぶ)の3コース制とした。カリキュラムも概説から演習・実習へとステップアップしていくように編成した。必修科目は、歴史学を学ぶ上で必要な基礎的科目5科目にとどめ、コース制に相応しい科目を自由選択とした。また専任教員を1人増員して7人とし、コース別に2～3人の教員を配置して指導に当たることとした。

商学科は、平成19年度より、社会的ニーズに対応して、これまでのコース制を見直し、国際経済コース、経営会計コース、ビジネス情報コースの3コースとした。

国際経済コースは、国際的視野で広く基礎理論を学び、グローバルな発想ができる能力を身につけることを目標にしている。経営会計コースは、経営・簿記・会計を学び、グローバルに活動する企業の現状を把握・分析し、またそのデータを収集・管理・提供する能

力を身につけることを目標にしている。ビジネス情報コースは、情報理論と情報技術を学ぶことで、現在のデジタル化社会の中で氾濫する情報を選択・加工し、適切な情報を発信する能力を身につけることを目標にしている。本学科では、7人の専任教員を各コースに配置し、各コースのゼミナール(基礎・専門)を初めとする主要科目を担当している。全コースとも履修する必修科目と、コース別の必修科目を最低限にとどめ、学生の興味にあわせて自由に選択することができる科目を増やした。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

国文学科で取得できる免許・資格は、中学校教諭二種免許(国語)・図書館司書資格・学校図書館司書教諭資格である。

家政学科では、専攻によって、取得できる免許・資格が異なっている。生活科学専攻で取得できるのは、中学校教諭二種免許(家庭)・図書館司書資格・学校図書館司書教諭資格・フードスペシャリスト資格であり、健康科学専攻で取得できるのは、養護教諭二種免許・医療管理秘書士資格・医療事務士(1級・2級)資格・フードスペシャリスト資格である。

初等教育学科でも、取得できる免許・資格は、コースによって異なっている。幼稚園・保育士コースでは、幼稚園教諭二種免許と保育士資格の両方が取得でき、小学校・幼稚園コースでは、小学校教諭二種免許・幼稚園教諭二種免許が同時取得できる。

日本史学科で取得できるのは、中学校教諭二種免許(社会)・博物館学芸員資格・社会教育主事資格である。

商学科で取得できるのは、秘書士資格・情報処理士資格・ビジネス実務士資格・ウェブデザイン実務士資格・プレゼンテーション実務士資格である。

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

本学では、毎年度初めに、『学生便覧 履修要項』『学生便覧 講義要項』を配布し、オリエンテーション期間中に、学年・学科別に、教務課職員により、履修ガイダンスを実施している。これに加えて、同期間中に、学科専任教員による学科ガイダンスを学年別に行い、指導の徹底を図っている。特に商学科においては、同期間に合宿研修を行い、履修選択指導を徹底している。

選択科目に関しては、学生が自由に選んで履修できるように、時間割を平日5時限の他に土曜日にも3時限組んで、必修科目や資格取得科目と重ならないように配慮している。また、同一科目を曜日と時間帯を分けて複数設定しているものもある。

添付資料3「学生便覧 履修要項」参照。

添付資料4「学生便覧 講義要項」参照。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等)を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

平成21年度入学生の、学科ごとの卒業要件単位数は以下に示すとおりである。

教養科目として、必修科目5科目10単位の他、文化・芸術系、人間・社会系、自然・生命系の3分野から、それぞれ1科目2単位以上を含み、4科目8単位以上、合計9科目18単位以上を修得する。教養科目は全学科ともに共通である。

国文学科では、専門科目として、必修科目15科目20単位、コース別必修科目12科目12単位を含み、合計48単位以上を修得する。卒業要件総単位数は、66単位となる。

家政学科では、専門科目として、必修科目22単位を含み、合計46単位以上を修得する。卒業要件総単位数は、64単位となる。

初等教育学科では、専門科目として、教科専門科目・教職専門科目の中から、合計46単位以上を修得する。卒業要件総単位数は、64単位となる。

日本史学科では、専門科目として、必修科目9科目16単位、コース別必修科目22単位を含み、合計48単位以上を修得する。卒業要件総単位数は、66単位となる。

商学科では、専門科目として、必修科目8科目12単位、コース別必修科目10～14単位を含み、合計54単位以上を修得する。卒業要件総単位数は、72単位となる。

必修単位を卒業要件単位数以上修得し、授業料等の納付金を不足なく納付していれば、卒業することができる。それ以外の卒業要件は課していない。

また、卒業要件の周知に関しては、毎年『学生便覧』を配布し、年度初めに、教務課ガイダンス、学科ガイダンスを実施することで、周知の徹底を図っている。

添付資料3「学生便覧 履修要項」参照。

添付資料4「学生便覧 講義要項」参照。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項ではできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という)が記述して下さい。

#### 国文学科

本学科では、学生がそれぞれに目的を明確に持って学習できるように、コース制を導入した。さらに平成21年度から Semester 制が導入されるのにあわせて、コース制教育の徹底を期して、教育課程の見直しを実施した。

#### 家政学科

本学科では、近年「フードスペシャリスト」受験資格のための教育課程を設定し、また「カラーコーディネーター3級」資格取得支援科目を設ける等、進路支援に向けた教育課程の改善を心がけている。また、毎年度末に現状に即した教育課程の見直しを行っている。具体的には、特に養護教諭二種免許取得に必要な授業が多く組まれているので、学生の負担を軽減したいと考えている。

#### 初等教育学科

本学科では、平成21年度から保育士養成課程を設置するのにあわせて、これまでの教育

課程を大幅に改訂した。

#### 日本史学科

本学科は、平成21年度から、日本史コース、文化・美術史コース、考古学コースの3コース制に移行し、これまでの教育課程を大幅に改訂した。今後もさらにカリキュラムの充実のために見直しを行っていきたいと考えている。

#### 商学科

本学科では、平成19年度にコース制の改編を実施し、カリキュラムを見直した。プレゼンテーション実務士とウェブデザイン実務士の資格取得導入と学生の将来展望に合った科目選択ができるように、必修科目を削減し、選択科目を大幅に増やした。

### 【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

シラバスの作成については、教務委員会でマニュアルとフォーマットを作成し、それをweb上で配布し、それに則って各教科担当者に記述してもらい、全学科・全科目の授業内容が理解しやすく比較しやすいように工夫している。

シラバスは年度初めのガイダンスで配布して、説明を行っている。ガイダンスでは出席を取り、欠席した学生はクラス担任が呼び出して、個別に配布・説明することで、学生への周知の徹底を計っている。

将来的には、冊子型のシラバスのみならず、web上で閲覧できる形も併用することを計画している。

添付資料4「学生便覧 講義要項」参照。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

#### 国文学科

本学科では、講義中の私語はほとんどみられず、学生の履修態度や学業に対する意欲についてはおおむね良好である。ただし、近年、学業に対する意欲の十分でない学生が増加傾向にあることも事実である。それに対応するために、本学科では、1年次の7月と、2年次の5月に全学生を対象に個別面談を実施し、学生のケアに当たっている。また、そのような学習意欲の欠ける学生に対しても、学問に対する興味をかき立て、勉学の習慣を身に付けさせるように、各教員が授業の展開を工夫し、努力している。なお、本学科では、四年制大学への編入学を希望するものが多く、さらに教員や公務員をめざすものもあり、学習意欲の旺盛な学生も多数認められ、そのような学生の学習意欲を損なわないように工夫努力している。

#### 家政学科

本学科では、授業ごとに出席を取っており、また実験実習も多く組まれているため、出

席状況は良好である。特に資格取得に関わる授業への学習意欲は高いと思われる。

#### 初等教育学科

学生の履修態度や学業への意欲等については、個人や学年によって差が大きく、一概には言えないところがある。履修態度では、就職が間近に迫った2年生は、学習態度に熱心さが見られ、授業中の私語も少なく、意欲的に授業に取り組んでいる。それは「教育実習」を体験したり、「教育の観察と参加」を体験したりして教師の仕事の重要性を身をもって体験していることによるものと思われる。

それに引き替え1年生は、教育現場への関心が薄く、授業中の私語等も多く、また授業に遅れて参加する傾向がしばしば見られる。さらに、1年生は、2年生に比べ時間的な余裕があるにもかかわらず、実技(ピアノ・絵画等)の練習にもあまり熱心ではないようである。

幼児教育の現状を理解させ、学習意欲のよりいっそうの向上を図りたいと考える。

#### 日本史学科

本学科の学生は、卒業に必要な単位はもとより、学芸員や教職などの資格講座も多く受講し、積極的に取り組んでいる。しかも授業や与えられた課題にもまじめに取り組み、おおむね良好である。ただわずかではあるが、精神的に問題を抱え、また怠学により授業を休む学生も見受けられるので、適切な指導を随時行っている。

#### 商学科

本学科では、近年、学生の質も着実に向上してきており、基礎ゼミ・専門ゼミの担当教員の指導により、履修態度も良く、学業への意欲も高まっていると判断している。

本学科では、基礎ゼミ・専門ゼミで担当教員が個別に面談し、「学生カルテ」を作成して教員相互で情報交換し、履修態度や学習意欲の向上に役立てている。

参考資料2「学生カルテ」参照。

### 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

本学では、授業改善のために、全学科の全教員(専任・非常勤を問わず)の担当授業について、学生による授業評価(アンケート)を、前期・後期各1回、実施している。アンケートは、匿名で、担当教員と事務職員とによって、授業時に、配布回収している。回収されたデータは、集計された上で、その結果が担当教員に手渡される。

参考資料3「授業アンケート」参照。

(2) 短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等)への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者(以下「学長等」という)は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

FD活動については、本学においては、これまで全学科の学生から履修科目ごとに授業

アンケートを採り、学生からの意見を受け止め、教員個々人はもとより、学科として、全学として、次年度の教育内容に反映させるように努めてきた。

平成20年度には、教務委員会内に、FD小委員会を設け、教員の授業改善をめざした。平成20年度の活動としては、国文学科主催の「パワーポイント講習会」(平成20年11月)、家政学科主催の「FD推進のビデオ鑑賞」(平成20年11月)、「聞き取り調査による授業改善へ向けた研修」(平成21年2月)、初等教育学科主催の「授業アンケートについて」(平成21年2月)、日本史学科主催の「演習授業における教授法の研究」(平成21年3月)、商学科主催の「ゼミ論文の書き方指導」(平成20年11月)、「パワーポイントの基本操作講習会」(平成21年1月)の7企画を実施した。いずれの企画も、多くの教職員が自主的に参加した。

大学全入時代を迎えている今日、在籍学生の実態を踏まえて、表面的・形式的な授業のあり方の是非のチェックだけでなく、学科ごとに、また担当科目ごとに、望ましい授業形態や授業内容のあり方の検討を重ねて、それを日々の教育活動において実践し、短期大学ならではの魅力ある授業展開指導案を提起する等、今後もFD小委員会の活動に期待するところは大きい。その意味で、学生の要望の受け止め方が、学生に迎合するような方向に傾くことなく、教員・学生ともが、理想の授業を確認し合おうという声も上がってきており、本学のFD活動は健全な歩みを見せているものと自負している。

参考資料4「FD小委員会内規」参照。

参考資料5「FD活動報告」参照。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 国文学科

本学科では、毎年度末に、次年度の「学科年間スケジュール」を作成し、それに従って年間15回の定例学科会議と、必要に応じて臨時の学科会議を開き、指導上の問題点等を報告しあい、教員相互の意思の疎通を図っている。非常勤講師にもそれぞれの専門の専任教員の研究室を利用してもらい、意思の疎通を図り、協力体制を整えている。機関誌『あぢさゝ坂』、『文芸<sup>このはな</sup>斯花』、『野州國文學』の選考・編集も非常勤講師の意見も取り入れながら、専任教員全員で当たっている。本学科では、教員間の意思の疎通や協力体制は十分に整っていると考える。

#### 家政学科

本学科では、定例の学科会議を月1回開催し、学科のカリキュラム運営、学生の教育指導等について意思の疎通を図っている。「学生の動向」の議題では、学生の学習態度・編入学・就職・問題行動等の情報交換をし、意思の疎通や協力体制を図っている。また、専任教員と非常勤講師との意思の疎通に関してもおおむね良好である。

#### 初等教育学科

本学科では、定例の学科会議を月1回開催し、教員相互の事務的な連絡を取り合うとともに、学生の授業への出席状況や学習態度、服装の乱れ等について報告をし、その解決に当たるようにしている。本学科の教員間の意思の疎通は、おおむね良好といえる。

### 日本史学科

本学科では、定例学科会議を毎週開催し、授業内容や指導方法などについて協議し、意思の疎通を十分に図っている。専任教員と兼任教員とが一堂に会することはなかなか困難ではあるものの、関連教科の専任教員を通じて、学科の教育方針やさまざまな連絡事項を伝え、協力関係は十分に機能していると考えている。

### 商学科

本学科では、定例の学科会議(原則毎月開催)や臨時の会議によって、教員相互の情報交換と意志疎通を図り、各教員の抱える問題を絶えず全体の問題として共有し、協力して対処できるようにしている。授業の出席状況や学習態度に問題があれば、授業担当者から、直ちにゼミの担当教員に連絡が行き、学生と面談して早期に対処できるようシステム化している。

### 【特記事項について】

(1) この《 教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

平成21年度より、韓国の漢陽女子大学から国文学科へ留学生を受け入れることになったのにあわせて、教養選択科目として「国際文化交流A・B」を新設し、国際理解を深めるための教育に努力している。

日本史学科は、平成20年度より、栃木市の商工会議所と産学協同の事業に取り組んでいる。太平山神社の所蔵する古文書と年中行事を学生と教員とが協力して調査し、地域に根ざした大学として、積極的に町おこしに参画し、また本学科の教育の活性化を図っている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《 教育の内容》の評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 教育の実施体制

### 【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

現在の専任教員数は、下表のとおりである。各学科とも設置基準で定められた専任教員数を満たしている。また、短期大学全体の入学定員に応じて定められた専任教員数は、教養科目(旧・一般教育)に充てており、その基準を満たしている。全体的には、十分な人員配置となっている。

#### 専任教員等の人数

(平成22年5月1日現在)

学科名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔八〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
国文学科	8	1	0	0	9	5		1	0	
家政学科	4	2	2	0	8	5		5	0	
初等教育学科	10	1	1	0	12	8		2	0	
日本史学科	5	0	1	0	6	5		1	1	
商学科	5	0	2	0	7	7		1	0	
(小計)	32	4	6	0	42	30		10	1	
〔ロ〕	8	1	0	0	9		6			教養
(合計)	40	5	6	0	51	30	6	10	1	

〔注意〕1. 上表の〔イ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数をいう。

2. 上表の〔ロ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。

3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄は、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数をいう。

4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。

5. 上表の〔八〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(学芸員)。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(履歴書、研究業績書、担当授業科目名、その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

参考資料6「教員の個人調書(履歴書、教育研究業績一覧、平成22年度担当授業科目名等)」参照。

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

専任教員の採用・昇任については、「國學院大學栃木短期大学教員任用規程」(以下「任用規程」と略称する)に基づいて、適切に行われている。

参考資料7「國學院大學栃木短期大学教員任用規程」参照。

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員の年齢構成表を以下に示す。

専任教員等の年齢構成表(短期大学全体で作成)

(年齢は平成22年4月1日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)							助手等の 平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計人数 (52人)	5人	25人	11人	7人	4人	0人	58.5	38.2	
割合	9.6%	48.1%	21.2%	13.5%	7.7%	0%			

〔注意〕1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で研究活動に直接従事する教職員(学芸員)を含む。

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

本学の専任教員は、授業、研究、学生指導、その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいる。

#### (a) 授業

本学は、1週間あたり6コマを専任教員の授業担当コマ数の基準としている。平成19年度は5.4コマ、20年度は5.3コマ、21年度は5.0コマである。

#### (b) 研究

研究については、参考資料の「教員の個人調書(教育研究業績一覧)」のとおり、個人差はあるが、全体的には意欲的に行われている。平成21年度は科学研究費補助金の申請6件に対し、1件が採択された。これだけ採択されていることは、研究活動が活発に行われている証であろう。また他大学との研究協力者もいる。

#### (c) 学生指導

専任教員は、入学式後のオリエンテーションにおいて、1年生に対して教育課程、コース・専攻、資格取得、進路等について説明、指導している。2年生には学科ガイダンスで、資格取得、就職、編入学等について指導している。本学は学科ごとにクラス制をしいてお

り、1クラスの学生数は15～40人程度で、担任は2年間変わらず、個人的な生活・進路相談等をしている。また、日本史学科・商学科のように、ゼミを通して指導をしている学科もある。本学は、出席を大変重視しており、全学科、定期的に出欠状況を調査している。それをもとに無届で連続3回以上の欠席が続く者には、科目担当者や担任が教務課職員と連携して本人と連絡をとって指導している。また学生の就職や進学については、専任教員のオフィスアワーなどを活用して相談にのっている。とくに就職については、学生委員会主催の「就職のための一般教養試験対策講座」を設け、1年次の後期に専任教員が講師として課外授業をして支援している。さらに編入学については、学科ごとに専任教員が、個別に対応している。

(d) その他教育研究上の業務

学科により、卒業研究を課す、または学科独自のコース別研修や、ゼミ、サークルを通して調査・研究を実施しているところもある。

参考資料6「教員の個人調書(教育研究業績一覧、平成22年度担当授業科目名等)」参照。

参考資料8「オフィスアワー一覧」参照。

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

本学における助手・副手等は、事務系職員の組織に所属し、職務内容は、授業の補助、実験実習の準備・補助、技術支援等と、日常的な事務処理である。国文学科では助手1人、家政学科では栄養食品実験、調理実習、被服関係実験実習、養護・看護実習等の実験実習が多いので、助手4人と副手1人を配置し、また初等教育学科では助手2人を、日本史学科では助手1人と学芸員1人を、商学科では助手1人を配置しており、過不足ないものと認識している。助手等は、教員の研究活動にも貢献している。

(7) 2以上の校地(校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外)において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

本学は、すべて同一校地内にある。

## 【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条(通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む)の規定による短期大学全体の基準面積(基準面積を算出する計算式を含む)を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

## 校舎・校地一覧表

(平成22年5月1日現在)

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
國學院大學栃木短期大学	820人	7,800㎡	29,142㎡	21,342㎡	8,200㎡	45,139㎡	36,939㎡
計	820人	7,800㎡	29,142㎡	21,342㎡	8,200㎡	45,139㎡	36,939㎡

## 基準面積算出表

校舎	文学関係	国文学科	総定員180人	1,300㎡	第31条別表 第2のロ
	家政学関係	家政学科	総定員170人	2,350㎡	第31条別表 第2のイ
	教育学関係	初等教育学科	総定員180人	1,550㎡	第31条別表 第2のロ
	文学関係	日本史学科	総定員170人	1,300㎡	第31条別表 第2のロ
	経済学関係	商学科	総定員120人	1,300㎡	第31条別表 第2のロ
	計			7,800㎡	

校地	学生1人あたり10㎡	820人 × 10㎡	8,200㎡
----	------------	------------	--------

参考資料9「國學院大學栃木短期大学校舎・校地の図面」参照。

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

図書館、睦会館、四十周年記念館(体育館・講堂・食堂)は、本学専有の施設であるが、施設の特質から、本学の教育・研究に支障のない範囲で、併設の中学校・高等学校の生徒に開放している。図書館については、中学校・高等学校の放課後から閉館まで、北館講義室は、高等学校からの申し出を受けて使用を認めている。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

本学のパソコン教室は、第1情報処理室(面積150.00㎡ 収容人員64人)、第2情報処理室(面積150.00㎡ 収容人員64人)の2教室があり、それぞれ65台のパソコン、4台のプリンタ、およびAVシステムを設置している。

学内LANは、今まで情報処理室系(有線LAN)と事務室系(無線LAN)の2系統に分かれていたが、平成21年2月に統合し、2人のコンピュータ技師によって管理している。学内LANはパソコン教室および西1号館、西2号館、西3号館、北館の研究室、事務室、保健室、就職相談室のパソコンに接続していて、講義室でもインターネットが利用できるようになっている。

情報処理室を使用する授業数は、第1情報処理室と第2情報処理室をあわせて、前期1週間に28コマ、後期28コマである。

LL教室は106.25㎡の広さがあり、CALLシステムとして学生用パソコン48台、教員用サーバーパソコン1台、中間液晶ディスプレイ24台が設置され、本21年度から語学学習用のコンピュータ室であるCALL教室として生まれ変わった。LL教室を使用する授業数は1週間に前期8コマ、後期8コマである。設備・備品の点検・整備は、コンピュータ技師によって行われている。

マルチメディア教室(視聴覚教室)は113.00㎡あり、座席数84席、教材提示卓・音響設備一式、電動スクリーン、ビデオプロジェクター、電動カーテンが設置されている。視聴覚教室を使用する授業数は、1週間に3.5コマである。設備・備品の点検・整備は随時行っている。

学生自習室は、これまでとくになかったが、平成21年度から基本図書を備えた部屋を設ける予定である。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合には、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

西3号館の教室に設置されている機器・備品は、おもにビデオデッキ・DVDデッキ・モニターテレビ・スクリーンである。マイク(ワイヤレスマイクを含む)・暗幕、OHP・投影機が備えられている教室もある。西1号館、西2号館の一部教室に備えられている機器・備品は、おもにビデオデッキ・DVDデッキ・スクリーン・暗幕等である。これらの機器・備品は教務課で管理・整備している。

情報処理室に用意されている機器・備品は、ハードディスクムービー2点・デジタルカメラ4点、三脚2点、ボイスレコーダー2点、カードリーダー・ライタ30点、液晶プロジェクター3点、電動スクリーン1点、スクリーン2点、ビジュアルプレゼンター2点等である。家政学科の学生が使用する食物栄養実験室、被服第1・2実験室にはガス水道等の実験設備・備品とビデオデッキとテレビ、養護、調理実習室には実習設備・備品とビデオデッキとテレビがある。初等教育学科の学生が使用する練習室、第1から第6音楽室には、アップライトのピアノ、グランドピアノ、エレクトーン、電子ピアノが備えられている。体育・スポーツの設備に関しては、テニスコート(全天候型6面)・多目的グラウンド・体育館(2F:アリーナ、1F:多目的室)がある。これらの機器・備品の管理は、各学科・各研究室が行っている。

参考資料10「教材・標本・機器および設備一覧」参照。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

#### 校地、校舎の安全性

本学は太平山県立自然公園の麓に位置することから、豊かな自然環境に恵まれており、教育の場として理想的な立地にある。校内は赤松を中心とした緑化がなされ、定期的な剪定作業を実施することによりキャンパス内の視認を高めるとともに、警備職員による校内巡回警備や外来者の受付窓口における受付ならびに許可証の携行を徹底することにより、不審者侵入の防止を図っている。建物の耐震性については、昭和56年以前の旧耐震基準により建築された校舎等7棟を保有することから、平成20年5月10日、11日に耐震診断の現地調査を実施した。その結果に基づいて耐震補強の設計を行った。計画的に耐震補強工事を実施することになっている。

#### 障害者への対応

本学はその立地条件から階段や坂が多い。そのため、障害者の主要教室への移動には、エレベーター等が必要になる。本学では西3号館にエレベーターが2基あり、大事な役割を果たしている。障害者の日常的な学生生活については、学生課職員やボランティア学生がサポートに努めている。現在、「バリアフリー新法」(平成18年12月施行)の基本方針に則って、バリアフリー化を進めている。

#### 運動場

テニスコート3か所6面、多目的グラウンド1面があり、常時整備している。テニスコートは全天候型(タータン)で、体育の授業や部活動で積極的に利用されている。

#### 体育館

昭和42年短期大学開学後、間もなく新築した体育館を老朽化により取り壊し、平成12年に体育館兼講堂(40周年記念館)として新築した。総床面積は6,219㎡で、アリーナ1,180㎡、部室棟35室592㎡、学生食堂700席748㎡、多目的室427㎡を有する。平常は体育の授業や部活動に利用されている他、地域の各種団体等にも一部開放している。また、電動収納式可動席858席を含む2,008人を収容できる講堂として、各種学校行事や講演会等に利用されている。体育館にはトレッドミル、自転車エルゴメータなどの有酸素運動用、およびダンベル(1~5kg)、バランスボール等トレーニング機器が設置されている。また、緊急時に対処すべくAED(自動体外除細動機)が設置されている。

#### 学生の休憩場所

西1号館学生ホール206㎡、西2号館学生ホール323㎡、そして40周年記念館学生食堂や喫茶コーナーが学生の休憩・交流の場となっている。学内は、全域禁煙である。

## 【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

本学の図書館は、開架式である。書物の検索はコンピュータ化され、書名・著者名からの検索が可能である。該当書物の配架位置も表示する。蔵書数は、書物25万冊、マイクロフィルム53種類・3,400シート等の資料を数え、短期大学規模としては質量ともに全国有数である。施設としては、参考資料の「配置図」のとおり、第1閲覧室、第2閲覧室、第3閲覧室、ビデオ視聴コーナー、書庫棟、館長室、司書室等が設置されている。

業務は、図書購入、登録を初めレファレンス・ワークや文献複写、相互貸借、紹介状発行、研究費図書購入、複写サービス等多岐にわたる。

図書館の専有延床面積は3,378㎡で、座席数は第1閲覧室に96席と個人机10席、第2閲覧室は84席と個人机8席、第3閲覧室56席と個人机8席、書庫棟に個人机89席の合計351席である。

図書購入予算は、平成21年度は2,300万円であった。蔵書構成上基本となる叢書、単行書の購入には、現在額で不足はない。図書の選定は、図書委員会を組織し、各学科および教養科目担当からそれぞれ2人の教員と事務局、図書館の職員が参加して、毎月1回委員会を開催して選定を行っている。委員は2年を任期とし、交替することで担当委員の専門分野の本が選ばれることを意図している。学生が使う本、学生に使わせたい本を選定することをモットーとしている。廃棄システムの基準は明文化してはいないが、在庫点検の結果、3年連続して不明の図書は除籍することを原則としている。その他、破損のひどい図書で製本不能なものや、内容が著しく古いと思われるものは廃棄することもある。

司書の人数は、館長を含めて5人である。書誌データの入力、図書装備の外注はいっさいせずに司書の手による。あらゆる図書館業務をこなしながら、図書館学履修者の実習指導も行い、日常の業務を精一杯に努めている。

図書の検索システムは、学園ホームページ上で検索が可能である。2つの閲覧室に端末7台を設置している。「J-BISC」「雑誌記事索引CD版」の使用も可能である。

参考資料11「國學院大學栃木学園図書館 利用規程」参照。

参考資料12「図書館配置図」

(2) 図書館等に備えられている蔵書数(和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等)を下表を例に作成して下さい。

## 図書館蔵書数一覧

(平成22年5月1日現在)

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料
冊(種)	252,619冊	4,585冊	147種	2,756点

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

学生が使う本、学生に使わせたい本を選定することを第一義としているので、学生用の参考図書、関連図書の整備状況は十分である。

本館は、学生利用の便に供するために、学期中には日曜日も開館している。長期休暇中は、日曜日・旧盆・年末年始を除き、原則として全日開館をしている。開館時間は、平日は午前9時30分から午後5時30分まで、土曜日は午前9時30分から午後4時まで、日曜日は午前10時30分から午後3時30分までである。利用者数は、本学学生・教職員、併設校の高校生、中学生を含めて約2,900人である。本学学生は、レポートや授業準備等の多様な課題与えられると、必要な図書が揃っている本館を利用することが最善なので、極めて活発に利用している。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

『学報斯花』に、「図書館だより」を掲載して、本館所蔵の書籍の紹介をしているが、『学報斯花』はweb上でも閲覧できるので、「図書館だより」を通じて学内外への図書館情報の発信は十分に行われていると考える。また新着図書については、閲覧室に一括開架し、あわせて全学掲示板や図書館内の掲示板を利用して学内に周知するように努力している。

他の図書館との関係は、他館の利用を希望する者に対しては紹介状を発行し、また他館から閲覧等の依頼があれば可能な限り受け入れている。しかしながら今後、より前向きに県内各大学との共同利用等も検討しなければならないと考える。また地域住民等へ開放する「地域に開かれた大学の図書館」としての役割も果たさなければならないが、館員数の問題、安全上の配慮から、なお慎重に検討しなければならないと思っている。

参考資料1「学報斯花」参照。

(5) 参考館

(a) 参考館の概要

参考館は博物館施設で、図書館と並ぶ学習資源センターの一つである。昭和61年の日本史学科開設に際し、同学科の学芸員の資格取得課程において、参考資料の展示および授業での施設活用を目的に設置されたものである。当初、北1号館の4階に開館したが、本学園の学生・生徒、さらには一般にも広く公開したいという理念から、昭和63年に、睦会館内に移転し、拡充整備した。平成元年4月、「國學院大學栃木学園参考館」と名称も施設も刷新し、一般公開された。平成5年6月には、博物館法に基づき栃木県教育委員会より、「博物館相当施設」(種別、歴史博物館)の指定を受けた。

現在の参考館は、睦会館の1・2階部分を使用する。1階部分は事務室16m<sup>2</sup>、常設展示室391m<sup>2</sup>、収蔵庫24m<sup>2</sup>、2階部分の収蔵庫262m<sup>2</sup>である。

当館で保管・収蔵している資料は次の表のとおりである。

## 参考館収蔵資料

(平成22年3月現在)

収蔵資料	点 数	展示点数
日本 考古	2,927	806
日本 歴史	776	297
外国 考古・歴史	289	129
民俗	647	61
美術	339	19
陶磁	262	81
民芸・その他	282	49
自然	65	42
合 計	5,587	1,484

## (b) 参考館の運営

参考館の運営は、参考館管理運営委員会(日本史学科長、参考館長、事務局長・事務局次長、考古・歴史・民俗・美術担当の専任教員のうちから4人)が資料の収集・管理・運営についての事項を審議している。その実務は、館長1人、学芸員2人、嘱託職員1人によって運営されている。

## (c) 参考館の事業

平成21年度のおもな活動は、次のとおりである。常設展示の他に企画展「原人・旧人の石器 - 握斧の移り変わり - 」(平成21年11月21日～12月21日)を参考館主催で行った。

## (d) 開館日・利用・入館者数

参考館の開館日は、原則、平日の午前10時から午後4時、土曜日の午前10時から午後1時で、休刊日は日曜、祝祭日および本学園の休暇期間中である。入館料は無料、団体見学に関しては、事前の申し込みが必要である。本年度の開館日数は267日であった。入館者数は次の表のとおりである。

年 度	入 館 者 数(内訳)			
	総数	一般・学生	中高生	学芸員課程受講生
平成19年度	1,275	930	187	158
平成20年度	1,737	937	573	227
平成21年度	770	554	87	139

## (e) 教育・授業における学生等の利用状況

参考館の教育利用については、博物館実習の授業における展示品の写真撮影や資料の取り扱い実習、日本史学科の授業(史学基礎演習・古文書実習・美術史・歴史遺産研究等)、

本学のオープンキャンパスや日本史学科主催の高校生のためのサマースクール、入試説明会、学校見学等、日本史学科との共催の企画展示等を行い、教育・研究に活用するとともに、その成果を広く一般に公開している。

参考資料13「國學院大學栃木学園参考館規程」参照。

参考資料14「参考館建物図面」参照。

参考資料15「國學院大學栃木学園参考館解説書」参照。

**【特記事項について】**

(1) この《教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、この《教育の実施体制》の評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

# 教育目標の達成度と教育の効果

## 【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。  
 なお、この表は平成21年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

平成21年度卒業生の、入学時より卒業までの、各学科の単位認定の状況は次の表のとおりである。

国文学科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	神道と日本文化	講義	67	筆記試験	77.6	22.4	100.0	35.8	29.9	0	0
	国語(ことばと表現)	講義	65	筆記試験	96.9	3.1	100.0	52.3	43.1	0	0
	國語総合教養	講義	67	筆記試験	91.0	9.0	100.0	67.2	23.9	0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	37	筆記試験	75.7	24.3	100.0	35.1	24.3	0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	28	筆記試験	92.9	7.1	100.0	21.4	46.4	0	0
	スポーツ・健康科学	実技	36	筆記試験	100.0	0	100.0	58.3	41.7	0	0
基礎選択科目	スポーツ・健康科学	実技	31	筆記試験	100.0	0	100.0	64.5	32.3	0	0
	文学(文学とメディア)	講義	15	筆記試験	100.0	0	100.0	66.7	20.0	0	0
	文学(近・現代文学鑑賞)	講義	2	レポート	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0	0
	現代社会と倫理	講義	41	平常点	100.0	0	100.0	58.5	34.1	0	0
	世界の宗教	講義	11	筆記試験	72.7	27.3	100.0	27.3	36.4	0	0
	歴史発見	講義	38	レポート	84.2	15.8	100.0	13.2	84.2	0	0
	音楽(オペラ・ミュージカル鑑賞法)	講義	17	平常点	100.0	0	100.0	5.9	82.4	0	0
	日本国憲法	講義	32	筆記試験	93.8	6.3	100.0	21.9	53.1	0	0
	現代政治入門	講義	44	レポート	81.8	18.2	100.0	40.9	29.5	0	0
	市民生活と経済	講義	6	筆記試験	100.0	0	100.0	0	50.0	0	0
	地球環境と人間活動	講義	3	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	33.3	0	0
	教育と社会	講義	2	平常点	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	データの科学	講義	0								
	情報処理	演習	37	平常点	100.0	0	100.0	54.1	27.0	18.9	0
	キャリアプランと職業	講義	0								
	国際文化交流 A	講義	2	筆記試験	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	国際文化交流 B	講義	2	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	生活と数学	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	生命の進化	講義	8	平常点	100.0	0	100.0	37.5	62.5	0	0
	宇宙と人間	講義	39	筆記試験	71.8	28.2	100.0	10.3	46.2	43.6	0
	日本人の起源と進化	講義	53	筆記試験	98.1	1.9	100.0	24.5	73.6	1.9	0
	自然と環境	講義	3	レポート	100.0	0	100.0	33.3	66.7	0	0
	発展選択科目	神道と社会	講義	24	筆記試験	83.3	16.7	100.0	25.0	54.2	20.8
社会文化と倫理		講義	21	平常点	100.0	0	100.0	71.4	19.0	9.5	0
日本国憲法		講義	20	筆記試験	90.0	10.0	100.0	60.0	25.0	15.0	0
政治と人間		講義	42	レポート	92.9	7.1	100.0	23.8	61.9	14.3	0
生命科学と人間		講義	22	筆記試験	81.8	18.2	100.0	22.7	31.8	45.5	0
人類の起源と進化		講義	23	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
日本の歴史と文化		講義	22	レポート	95.5	4.5	100.0	36.4	59.1	4.5	0
シニア イングリッシュ A		演習	2	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
シニア イングリッシュ B		演習	20	筆記試験	90.0	0	90.0	10.0	25.0	55.0	10.0
シニア イングリッシュ C		演習	22	筆記試験	100.0	0	100.0	27.3	31.8	40.9	0
フランス語 A		演習	7	筆記試験	85.7	0	85.7	71.4	14.3	0	14.3
フランス語 B		演習	6	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	33.3	33.3	0
中国語 A		演習	17	筆記試験	100.0	0	100.0	23.5	35.3	41.2	0
中国語 B		演習	19	筆記試験	100.0	0	100.0	52.6	31.6	15.8	0
専門科目	スポーツ・健康科学	実技	25	レポート	100.0	0	100.0	76.0	24.0	0	0
	日本文学概説	講義	67	筆記試験	83.6	16.4	100.0	47.8	38.8	13.4	0
	日本語概説	講義	65	筆記試験	87.7	12.3	100.0	47.7	33.8	18.5	0
	日本文学通史	講義	67	筆記試験	77.6	22.4	100.0	40.3	49.3	10.4	0
	日本語文法入門	講義	58	筆記試験	93.1	6.9	100.0	43.1	48.3	8.6	0
	日本語文法	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0
	漢文入門	講義	67	筆記試験	89.6	10.4	100.0	20.9	43.3	35.8	0
	日本語表現法	講義	67	筆記試験	100.0	0	100.0	10.4	61.2	28.4	0
	文学基礎研究法	講義	65		100.0	0	100.0	49.2	38.5	12.3	0
	卒業研究	演習	67		100.0	0	100.0	74.6	22.4	3.0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	万葉集講読	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	源氏物語講読	講義	43	筆記試験	97.7	2.3	100.0	44.2	37.2	18.6	0
	平家物語講読	講義	35	筆記試験	91.4	8.6	100.0	45.7	45.7	8.6	0
	近世文学講読	講義	13	レポート	61.5	38.5	100.0	76.9	15.4	7.7	0
	近代文学講読	講義	14	平常点	78.6	0	78.6	50.0	21.4	7.1	21.4
	現代文学講読	講義	44	レポート	84.1	13.6	97.7	79.5	11.4	6.8	2.3
	児童文学講読	講義	19	平常点	100.0	0	100.0	89.5	5.3	5.3	0
	時代文学史(上代・中古)	講義	11	筆記試験	81.8	18.2	100.0	45.5	36.4	18.2	0
	時代文学史(中世・近世)	講義	36	筆記試験	100.0	0	100.0	66.7	27.8	5.6	0
	時代文学史(近代・現代)	講義	40	筆記試験	77.5	22.5	100.0	62.5	32.5	5.0	0
	日本文学演習(源氏物語)	演習	13	平常点	100.0	0	100.0	92.3	7.7	0	0
	日本文学演習(平家物語)	演習	5	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	日本文学演習(夏目漱石)	演習	35	筆記試験	100.0	0	100.0	82.9	17.1	0	0
	日本文学演習(芥川と太宰の文学)	演習	4	平常点	100.0	0	100.0	50.0	25.0	25.0	0
	日本文学演習(比較文学)	演習	11	レポート	100.0	0	100.0	27.3	45.5	27.3	0
	日本語学演習(古代語)	演習	22	筆記試験	100.0	0	100.0	63.6	27.3	9.1	0
	日本語学演習(古代語)	演習	13	平常点	100.0	0	100.0	84.6	15.4	0	0
	日本語学演習(近・現代語)	演習	14	レポート	100.0	0	100.0	35.7	64.3	0	0
	創作文芸入門(児童文学・絵本)	講義	28	レポート	100.0	0	100.0	75.0	21.4	3.6	0
	創作文芸入門(短歌・俳句・詩)	講義	4	レポート	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0	0
	創作文芸入門(小説・随筆)	講義	5	レポート	100.0	0	100.0	0	80.0	20.0	0
	創作文芸入門(小説・随筆)	講義	25	レポート	96.0	4.0	100.0	28.0	68.0	4.0	0
	創作文芸演習(児童文学・絵本)	演習	25	平常点	100.0	0	100.0	96.0	4.0	0	0
	創作文芸演習(詩・短歌)	演習	5	レポート	80.0	20.0	100.0	40.0	60.0	0	0
	創作文芸演習(俳句・連句)	演習	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	創作文芸演習(小説・随筆)	演習	9	レポート	88.9	11.1	100.0	44.4	44.4	11.1	0
	創作文芸演習(小説・随筆)	演習	6	レポート	83.3	16.7	100.0	66.7	33.3	0	0
	民俗文芸講読(伝承文芸)	講義	39	レポート	74.4	25.6	100.0	64.1	33.3	2.6	0
	民俗文芸講読(郷土文芸)	講義	24	レポート	50.0	50.0	100.0	25.0	45.8	29.2	0
	日本民俗学概説	講義	34	レポート	82.4	17.6	100.0	52.9	38.2	8.8	0
	日本芸能文化論	講義	22	筆記試験	90.9	9.1	100.0	68.2	31.8	0	0
	日本歌謡史	講義	22	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	口承文芸	講義	6	筆記試験	100.0	0	100.0	83.3	16.7	0	0
	民俗文芸演習	演習	12	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	漢文学概説	講義	32	筆記試験	68.8	31.3	100.0	9.4	40.6	50.0	0
	漢文学講読	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	42.9	57.1	0	0
	日本文学特殊研究	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	日本語学講読	講義	5	筆記試験	100.0	0	100.0	80.0	20.0	0	0
	書道(1年)	講義	51	平常点	100.0	0	100.0	92.2	5.9	2.0	0
	書道(2年)	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	日本語史	講義	31	筆記試験	83.9	16.1	100.0	25.8	45.2	29.0	0
	日本語学各論	講義	25	平常点	100.0	0	100.0	76.0	16.0	8.0	0
	言語学	講義	24	筆記試験	79.2	20.8	100.0	25.0	16.7	58.3	0
	日本語・日本文学情報処理	実習	17	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	古文書学	講義	6	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
日本史概説	講義	0									
歴史民俗遺産概説(有形)	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0	
児童心理学	講義	13	レポート	92.3	7.7	100.0	23.1	76.9	0	0	
宗教学概論	講義	3	筆記試験	66.7	0	66.7	33.3	33.3	0	33.3	
日本文化史	講義	0									
美術史	講義	23	平常点	100.0	0	100.0	60.9	39.1	0	0	
有職故実	講義	3	レポート	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0	
教師論	講義	13	レポート	76.9	23.1	100.0	38.5	38.5	23.1	0	
教育原理	講義	16	平常点	100.0	0	100.0	81.3	18.8	0	0	
教育心理学	講義	15	レポート	93.3	6.7	100.0	66.7	33.3	0	0	
教育制度論	講義	11	レポート	100.0	0	100.0	72.7	27.3	0	0	
国語科教育法	講義	13	レポート	76.9	23.1	100.0	30.8	53.8	15.4	0	
道徳教育の研究	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	54.5	27.3	18.2	0	
特別活動	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	18.2	27.3	54.5	0	
視聴覚教育	講義	38	平常点	100.0	0	100.0	68.4	31.6	0	0	
生徒・進路指導論	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	91.7	8.3	0	0	
教育相談	講義	11	筆記試験	90.9	9.1	100.0	63.6	36.4	0	0	
総合演習	演習	11	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
教育実習	講義	13	平常点	100.0	0	100.0	69.2	30.8	0	0	
教育実習	実習	9		100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
介護論	講義	15	筆記試験	46.7	53.3	100.0	13.3	26.7	60.0	0	
生涯学習概論	講義	29	筆記試験	100.0	0	100.0	44.8	44.8	10.3	0	
図書館概論	講義	28	筆記試験	100.0	0	100.0	71.4	28.6	0	0	
図書館経営論	講義	26	平常点	100.0	0	100.0	65.4	26.9	7.7	0	
図書館サービス論	講義	28	筆記試験	100.0	0	100.0	57.1	39.3	3.6	0	
情報サービス概説	講義	26	レポート	96.2	3.8	100.0	50.0	46.2	3.8	0	



種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門科目	スポーツ・健康科学	実技	0									
	生活経営学	講義	56	筆記試験	96.4	3.6	100.0	35.7	57.1	7.1	0	
	家族関係	講義	37	レポート	100.0	0	100.0	51.4	48.6	0	0	
	保育学A	講義	50	レポート	98.0	2.0	100.0	34.0	58.0	8.0	0	
	保育学B	講義	6	レポート	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0	
	住居学	講義	52	レポート	94.2	5.8	100.0	51.9	36.5	11.5	0	
	社会福祉	講義	21	平常点	100.0	0	100.0	42.9	57.1	0	0	
	流通・金融論	講義	0	平常点								
	家庭情報処理	実習	38	筆記試験	97.4	0	97.4	81.6	15.8	0	2.6	
	栄養学	講義	56	筆記試験	98.2	1.8	100.0	42.9	42.9	14.3	0	
	栄養学	講義	31	筆記試験	93.5	6.5	100.0	51.6	38.7	9.7	0	
	栄養学実験	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	50.0	42.9	7.1	0	
	栄養学実験	実習	17	平常点	100.0	0	100.0	64.7	29.4	5.9	0	
	食品衛生学	講義	22	レポート	100.0	0	100.0	31.8	50.0	18.2	0	
	食品学	講義	56	筆記試験	100.0	0	100.0	55.4	30.4	14.3	0	
	食品加工学	講義	46	筆記試験	100.0	0	100.0	54.3	23.9	21.7	0	
	食品学実験	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	75.0	19.6	5.4	0	
	食品学実験	実習	28	平常点	100.0	0	100.0	82.1	17.9	0	0	
	食品評価・鑑別論演習	講義	13	筆記試験	100.0	0	100.0	46.2	53.8	0	0	
	食品評価・鑑別論演習	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	63.6	36.4	0	0	
	食品流通論	講義	23	筆記試験	100.0	0	100.0	65.2	34.8	0	0	
	調理学	講義	56	筆記試験	92.9	7.1	100.0	28.6	60.7	10.7	0	
	調理実習	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	19.6	55.4	25.0	0	
	調理実習	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	12.5	75.0	12.5	0	
	調理実習	実習	29	平常点	100.0	0	100.0	24.1	69.0	6.9	0	
	調理実習	実習	27	平常点	100.0	0	100.0	29.6	51.9	18.5	0	
	被服材料学	講義	56	筆記試験	87.5	12.5	100.0	51.8	21.4	26.8	0	
	被服材料学実験	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	51.8	32.1	16.1	0	
	被服整理学	講義	50	筆記試験	94.0	6.0	100.0	46.0	42.0	12.0	0	
	被服整理学実験	実習	9	平常点	100.0	0	100.0	77.8	22.2	0	0	
	被服構成学	講義	52	平常点	100.0	0	100.0	59.6	40.4	0	0	
	立体構成実習	実習	56	平常点	100.0	0	100.0	28.6	60.7	10.7	0	
	立体構成実習	実習	8	平常点	100.0	0	100.0	87.5	12.5	0	0	
	立体構成実習	実習	7	平常点	85.7	0	85.7	85.7	0	0	14.3	
	立体構成実習	実習	5	平常点	100.0	0	100.0	80.0	0	20.0	0	
	平面構成実習	実習	20	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	平面構成実習	実習	11	平常点	100.0	0	100.0	90.9	9.1	0	0	
	平面構成実習	実習	9	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	平面構成実習	実習	5	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	被服心理学	講義	56	レポート	100.0	0	100.0	25.0	53.6	21.4	0	
	色彩論	講義	52	筆記試験	98.1	1.9	100.0	65.4	30.8	3.8	0	
	色彩論	講義	16	筆記試験	100.0	0	100.0	62.5	37.5	0	0	
	服飾デザイン	実習	15	平常点	93.3	0	93.3	6.7	40.0	46.7	6.7	
服飾手芸	実習	11	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0		
服飾手芸	実習	5	平常点	100.0	0	100.0	20.0	80.0	0	0		
衛生学	講義	56	筆記試験	94.6	5.4	100.0	64.3	30.4	5.4	0		
専門科目	家庭看護学	講義	40	筆記試験	82.5	17.5	100.0	5.0	27.5	67.5	0	
	解剖生理学	講義	48	筆記試験	45.8	54.2	100.0	4.2	50.0	45.8	0	
	薬理概論	講義	46	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	精神保健	講義	37	筆記試験	94.6	5.4	100.0	13.5	78.4	8.1	0	
教職課程科目	教師論	講義	7	平常点	100.0	0	100.0	42.9	57.1	0	0	
	教師論	講義	30	平常点	100.0	0	100.0	36.7	53.3	10.0	0	
	教育原理	講義	36	平常点	100.0	0	100.0	58.3	41.7	0	0	
	教育心理学	講義	32	レポート	100.0	0	100.0	12.5	87.5	0	0	
	教育制度論	講義	32	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	家庭科教育法	講義	6	レポート	100.0	0	100.0	16.7	83.3	0	0	
	道德教育の研究	講義	32	平常点	100.0	0	100.0	93.8	6.3	0	0	
	特別活動	講義	32	筆記試験	100.0	0	100.0	34.4	50.0	15.6	0	
	視聴覚教育	講義	32	平常点	100.0	0	100.0	59.4	40.6	0	0	
	生徒・進路指導論	講義	32	筆記試験	96.9	3.1	100.0	68.8	25.0	6.3	0	
	教育相談	講義	32	レポート	96.9	3.1	100.0	18.8	81.3	0	0	
	教育相談	講義	0									
	総合演習	演習	38	筆記試験	97.4	0	97.4	81.6	15.8	0	2.6	
	総合演習	演習	6	平常点	100.0	0	100.0	33.3	66.7	0	0	
	総合演習	演習	9	レポート	100.0	0	100.0	88.9	11.1	0	0	
	総合演習	演習	18	レポート	100.0	0	100.0	27.8	72.2	0	0	
	教育実習	講義	6	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	養護実習	講義	27	筆記試験	100.0	0	100.0	29.6	66.7	3.7	0	
	教育実習	実習	6		100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
	養護実習	実習	27		100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
介護論	講義	7	筆記試験	71.4	28.6	100.0	14.3	28.6	57.1	0		

教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
養護教諭課程科目	介護論	講義	47	筆記試験	97.9	2.1	100.0	17.0	46.8	36.2	0
	予防医学	講義	46	筆記試験	84.8	15.2	100.0	15.2	58.7	26.1	0
	学校保健	講義	27	筆記試験	88.9	11.1	100.0	51.9	29.6	18.5	0
	養護概説	講義	30	平常点	100.0	0	100.0	10.0	26.7	63.3	0
	養護概説	講義	27	筆記試験	100.0	0	100.0	11.1	48.1	40.7	0
	健康相談活動	講義	27	筆記試験	100.0	0	100.0	70.4	29.6	0	0
	微生物学	講義	46	筆記試験	87.0	13.0	100.0	43.5	39.1	17.4	0
	免疫学	講義	27	筆記試験	96.3	3.7	100.0	96.3	3.7	0	0
	看護学	講義	47	筆記試験	89.4	10.6	100.0	0	40.4	59.6	0
	看護学	講義	47	筆記試験	80.9	19.1	100.0	4.3	42.6	53.2	0
	看護学	講義	27	筆記試験	92.6	7.4	100.0	37.0	48.1	14.8	0
	看護学	講義	27	筆記試験	96.3	3.7	100.0	18.5	74.1	7.4	0
	看護実習	実習	47	筆記試験	97.9	2.1	100.0	6.4	36.2	57.4	0
	看護実習	実習	47	筆記試験	89.4	10.6	100.0	34.0	46.8	19.1	0
	看護実習	実習	27	筆記試験	96.3	3.7	100.0	14.8	70.4	14.8	0
	看護実習	実習	27	筆記試験	96.3	3.7	100.0	29.6	59.3	11.1	0
臨床実習	実習	46		100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
司書課程科目	生涯学習概論	講義	2	筆記試験	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	図書館概論	講義	2	筆記試験	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	図書館経営論	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	図書館サービス論	講義	2	筆記試験	50.0	0	50.0	50.0	0	0	50.0
	情報サービス概説	講義	1	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
レファレンスサービス演習	演習	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
司書課程科目	情報検索演習	演習	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	図書館資料論	講義	2	平常点	50.0	0	50.0	50.0	0	0	50.0
	専門資料論	講義	2	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	資料組織概説	講義	2	平常点	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	資料組織概説	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	資料組織演習	演習	2	平常点	50.0	0	50.0	50.0	0	0	50.0
	資料組織演習	演習	1	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	児童サービス論	講義	2	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	図書及び図書館史	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	情報機器論	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	学校経営と学校図書館	講義	0								
	学習指導と学校図書館	講義	0								
	読書と豊かな人間性	講義	0								
	情報メディアの活用	講義	0								
	図書館実習	実習	1		0	0	0	0	0	0	100.0
リベラルアーツ	フードスペシャリスト論	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	13.3	73.3	13.3	0
	フードコーディネーター論	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	40.0	26.7	0

初等教育学科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	神道と日本文化	講義	33	筆記試験	69.7	30.3	100.0	36.4	33.3	30.3	0
	国語(ことばと表現)	講義	33	筆記試験	100.0	0	100.0	87.9	6.1	6.1	0
	国語総合教養	講義	33	筆記試験	81.8	18.2	100.0	36.4	60.6	3.0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	27	平常点	100.0	0	100.0	3.7	29.6	66.7	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	6	筆記試験	100.0	0	100.0	0	0	100.0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	0								
	スポーツ・健康科学	実技	33	筆記試験	100.0	0	100.0	54.5	45.5	0	0
	スポーツ・健康科学	実技	0								
基礎選択科目	文学(文学とメディア)	講義	6	レポート	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	文学(近・現代文学鑑賞)	講義	0								
	現代社会と倫理	講義	8	レポート	100.0	0	100.0	62.5	37.5	0	0
	世界の宗教	講義	0								
	歴史発見	講義	0								
	歴史発見	講義	0								
	音楽(理論と表現)	講義	33	筆記試験	30.3	69.7	100.0	33.3	48.5	18.2	0
	日本国憲法	講義	32	筆記試験	87.5	12.5	100.0	46.9	25.0	28.1	0
	現代政治入門	講義	12	レポート	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	市民生活と経済	講義	0								
	地球環境と人間活動	講義	8	筆記試験	100.0	0	100.0	50.0	37.5	12.5	0
	教育と社会	講義	0								
	データの科学	講義	0								
情報処理	演習	33	平常点	100.0	0	100.0	30.3	54.5	15.2	0	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
基礎選択科目	キャリアプランと職業	講義	0								
	生活と数学	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	83.3	16.7	0	0
	生命の進化	講義	13	平常点	100.0	0	100.0	15.4	46.2	38.5	0
	宇宙と人間	講義	2	筆記試験	50.0	50.0	100.0	0	0	100.0	0
	日本人の起源と進化 自然と環境 (植物の分類と生態)	講義	14	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
発展選択科目	神道と社会	講義	0								
	社会文化と倫理	講義	0								
	日本国憲法	講義	0								
	政治と人間	講義	0								
	生命科学と人間	講義	0								
	人類の起源と進化	講義	0								
	日本の歴史と文化	講義	0								
	シニアイングリッシュA	演習	0								
	シニアイングリッシュB	演習	0								
	フランス語A	演習	0								
	フランス語B	演習	0								
	中国語A	演習	0								
	中国語B	演習	0								
スポーツ・健康科学	実技	0									
専門科目	教科専門 国語	講義	33	レポート	97.0	3.0	100.0	12.1	78.8	9.1	0
	児童文学	講義	0								
	書道	実習	30	平常点	100.0	0	100.0	86.7	13.3	0	0
	教科専門 社会(世界史)	講義	5	筆記試験	100.0	0	100.0	20.0	80.0	0	0
	(日本史概説)	講義	5	レポート	100.0	0	100.0	40.0	60.0	0	0
	(人文地理)	講義	0								
	教科専門 算数	講義	19	平常点	100.0	0	100.0	73.7	26.3	0	0
	教科専門 理科	講義	22	筆記試験	100.0	0	100.0	36.4	45.5	18.2	0
	教科専門 生活	講義	27	平常点	100.0	0	100.0	18.5	66.7	14.8	0
	教科専門 図画工作	講義	33	平常点	100.0	0	100.0	27.3	66.7	6.1	0
	教科専門 図画工作	講義	27	平常点	100.0	0	100.0	37.0	55.6	7.4	0
	教科専門 音楽(器楽)	実習	31	実技試験	71.0	29.0	100.0	16.1	64.5	19.4	0
	教科専門 音楽(声楽)	実習	32	実技試験	68.8	28.1	96.9	21.9	53.1	21.9	3.1
	教科専門 音楽(小学校)	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	教科専門 音楽(幼稚園)	講義	19	実技試験	73.7	26.3	100.0	47.4	26.3	26.3	0
	教科専門 体育	講義	33	筆記試験	93.9	6.1	100.0	57.6	33.3	9.1	0
	教科専門 体育	講義	22	筆記試験	81.8	18.2	100.0	9.1	45.5	45.5	0
	教科専門 家庭	講義	20	筆記試験	95.0	5.0	100.0	30.0	55.0	15.0	0
	教科教育法 国語	講義	30	筆記試験	100.0	0	100.0	23.3	73.3	3.3	0
	教科教育法 社会	講義	33	筆記試験	97.0	0	97.0	45.5	33.3	18.2	3.0
	教科教育法 算数	講義	14	平常点	100.0	0	100.0	64.3	21.4	14.3	0
	教科教育法 理科	講義	29	平常点	100.0	0	100.0	44.8	44.8	10.3	0
	教科教育法 生活	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	66.7	25.0	8.3	0
	教科教育法 図画工作	講義	31	平常点	100.0	0	100.0	32.3	61.3	6.5	0
	教科教育法 音楽	実習	31	筆記試験	100.0	0	100.0	54.8	32.3	12.9	0
	教科教育法 体育	講義	18	筆記試験	94.4	5.6	100.0	22.2	72.2	5.6	0
	教科教育法 家庭	講義	33	筆記試験	93.9	6.1	100.0	30.3	48.5	21.2	0
	教師論	講義	33	筆記試験	100.0	0	100.0	72.7	27.3	0	0
	教育原理	講義	33	筆記試験	75.8	24.2	100.0	72.7	27.3	0	0
	保育学	講義	32	筆記試験	96.9	3.1	100.0	46.9	34.4	18.8	0
	日本教育史	講義	1	レポート	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	西洋教育史	講義	0								
	教育心理学	講義	33	筆記試験	66.7	33.3	100.0	18.2	42.4	39.4	0
	児童心理学	講義	32	レポート	100.0	0	100.0	31.3	68.8	0	0
	教育制度論	講義	29	筆記試験	82.8	17.2	100.0	34.5	34.5	31.0	0
	道徳教育の研究	講義	31	筆記試験	77.4	19.4	96.8	54.8	19.4	22.6	3.2
	特別活動	講義	30	筆記試験	93.3	6.7	100.0	40.0	50.0	10.0	0
	保育課程論	講義	31	平常点	96.8	0	96.8	35.5	32.3	29.0	3.2
	教育方法論	講義	2	平常点	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	視聴覚教育	講義	30	平常点	100.0	0	100.0	56.7	43.3	0	0
	保育方法論	講義	31	平常点	96.8	0	96.8	32.3	32.3	32.3	3.2
	児童臨床心理学	講義	32	筆記試験	100.0	0	100.0	37.5	46.9	15.6	0
幼児心理学	講義	31	筆記試験	96.8	0	96.8	51.6	35.5	9.7	3.2	
教育相談	講義	32	筆記試験	100.0	0	100.0	25.0	53.1	21.9	0	
幼児・児童との対話	講義	7	平常点	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0	
幼稚園教育特殊講義	講義	21	平常点	100.0	0	100.0	52.4	47.6	0	0	
総合演習	演習	8	平常点	100.0	0	100.0	75.0	25.0	0	0	
総合演習	演習	8	平常点	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0	
総合演習	演習	7	平常点	100.0	0	100.0	57.1	28.6	14.3	0	
総合演習	演習	7	平常点	100.0	0	100.0	57.1	0	42.9	0	
教育実習	講義	31	筆記試験	90.3	9.7	100.0	58.1	29.0	12.9	0	

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	教育実習	実習	29		100.0	0	100.0	62.1	37.9	0	0
	介護論	講義	31	筆記試験	51.6	48.4	100.0	12.9	9.7	77.4	0
	保育内容健康	講義	33	平常点	90.9	9.1	100.0	36.4	39.4	24.2	0
	保育内容人間関係	講義	21	筆記試験	95.2	4.8	100.0	61.9	38.1	0	0
	保育内容環境	講義	31	平常点	100.0	0	100.0	54.8	45.2	0	0
	保育内容言葉	講義	21	筆記試験	100.0	0	100.0	61.9	23.8	14.3	0
	保育内容表現(造形)	講義	27	平常点	100.0	0	100.0	22.2	77.8	0	0
	保育内容表現(音楽)	講義	27	実技試験	100.0	0	100.0	59.3	40.7	0	0

日本史学科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	神道と日本文化	講義	54	筆記試験	75.9	24.1	100.0	48.1	31.5	20.4	0
	国語(ことばと表現)	講義	53	筆記試験	90.6	9.4	100.0	43.4	45.3	11.3	0
	国語(ことばと表現)	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	0	0	100.0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	47	筆記試験	87.2	12.8	100.0	27.7	48.9	23.4	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	2	筆記試験	50.0	50.0	100.0	0	0	100.0	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	5	筆記試験	100.0	0	100.0	20.0	40.0	40.0	0
	スポーツ・健康科学	実技	54	筆記試験	94.4	5.6	100.0	53.7	37.0	9.3	0
	スポーツ・健康科学	実技	0	筆記試験							
基礎選択科目	文学(文学とメディア)	講義	18	筆記試験	83.3	0	83.3	38.9	44.4	0	16.7
	文学(近・現代文学鑑賞)	講義	2		100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	現代社会と倫理	講義	20	平常点	90.0	10.0	100.0	70.0	25.0	5.0	0
	現代社会と倫理	講義	17	レポート	100.0	0	100.0	88.2	5.9	5.9	0
	世界の宗教	講義	2	筆記試験	50.0	50.0	100.0	0	50.0	50.0	0
	歴史発見	講義	0								
	音楽(オペラ・ミュージカル鑑賞)	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	33.3	0	66.7	0
	日本国憲法	講義	39	筆記試験	92.3	7.7	100.0	17.9	71.8	10.3	0
	現代政治入門	講義	34	レポート	91.2	8.8	100.0	47.1	44.1	8.8	0
	市民生活と経済	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	地球環境と人間活動	講義	8	筆記試験	100.0	0	100.0	62.5	37.5	0	0
	教育と社会	講義	0								
	データの科学	講義	0								
	情報処理	演習	25	平常点	100.0	0	100.0	48.0	44.0	8.0	0
	キャリアプランと職業	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	0	0	100.0	0
	生活と数学	講義	0								
	生命の進化	講義	13	平常点	100.0	0	100.0	61.5	38.5	0	0
	宇宙と人間	講義	28	筆記試験	89.3	10.7	100.0	32.1	50.0	17.9	0
日本人の起源と進化	講義	52	レポート	94.2	5.8	100.0	48.1	48.1	3.8	0	
自然と環境(植物の分類と生態)	講義	0									
発展選択科目	神道と社会	講義	24	レポート	95.8	4.2	100.0	37.5	41.7	20.8	0
	社会文化と倫理	講義	24	平常点	100.0	0	100.0	79.2	20.8	0	0
	日本国憲法	講義	27	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	59.3	7.4	0
	政治と人間	講義	24	レポート	91.7	8.3	100.0	37.5	41.7	20.8	0
	生命科学と人間	講義	23	筆記試験	100.0	0	100.0	34.8	52.2	13.0	0
	人類の起源と進化	講義	24	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	日本の歴史と文化	講義	0								
	シニアイングリッシュA	演習	25	筆記試験	84.0	0	84.0	24.0	48.0	12.0	16.0
	シニアイングリッシュC	演習	24	筆記試験	100.0	0	100.0	37.5	29.2	33.3	0
	フランス語A	演習	4	筆記試験	100.0	0	100.0	25.0	50.0	25.0	0
	フランス語B	演習	4	筆記試験	100.0	0	100.0	0	75.0	25.0	0
	中国語A	演習	21	筆記試験	100.0	0	100.0	28.6	47.6	23.8	0
中国語B	演習	22	筆記試験	100.0	0	100.0	59.1	36.4	4.5	0	
スポーツ・健康科学	実技	24	レポート	100.0	0	100.0	37.5	29.2	33.3	0	
専門科目	史学入門	講義	54	筆記試験	88.9	11.1	100.0	53.7	24.1	22.2	0
	東洋史概説	講義	54	筆記試験	88.9	11.1	100.0	55.6	27.8	16.7	0
	西洋史概説	講義	54	筆記試験	98.1	1.9	100.0	13.0	70.4	16.7	0
	古文書学	講義	54	筆記試験	94.4	5.6	100.0	44.4	50.0	5.6	0
	史学基礎演習	演習	54	レポート	90.7	9.3	100.0	51.9	44.4	3.7	0
	史学基礎演習	演習	54	レポート	100.0	0	100.0	68.5	25.9	5.6	0
	日本文化史	講義	54	筆記試験	96.3	3.7	100.0	61.1	35.2	3.7	0
	卒業研究	演習	54		100.0	0	100.0	59.3	37.0	3.7	0
	日本古代史概説	講義	20	筆記試験	95.0	5.0	100.0	60.0	25.0	15.0	0
	日本中世史概説	講義	31	筆記試験	96.8	3.2	100.0	67.7	25.8	6.5	0
	日本近世史概説	講義	30	筆記試験	83.3	16.7	100.0	16.7	53.3	30.0	0
	日本近代史概説	講義	25	筆記試験	92.0	8.0	100.0	32.0	60.0	8.0	0

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	古文書学	講義	46	筆記試験	95.7	4.3	100.0	82.6	8.7	8.7	0
	考古歴史遺産概説 (日本)	講義	51	レポート	100.0	0	100.0	94.1	2.0	3.9	0
	考古歴史遺産概説 (世界)	講義	48	平常点	100.0	0	100.0	50.0	45.8	4.2	0
	歴史民俗遺産概説 (無形)	講義	24	平常点	100.0	0	100.0	45.8	45.8	8.3	0
	歴史民俗遺産概説 (有形)	講義	28	平常点	100.0	0	100.0	35.7	35.7	28.6	0
	古代史料講読	講義	10	筆記試験	80.0	20.0	100.0	70.0	10.0	20.0	0
	中世史料講読	講義	30	平常点	100.0	0	100.0	73.3	23.3	3.3	0
	近世史料講読	講義	30	筆記試験	90.0	10.0	100.0	60.0	30.0	10.0	0
	近代史料講読	講義	21	平常点	100.0	0	100.0	23.8	76.2	0	0
	古文書学演習	演習	38	平常点	100.0	0	100.0	63.2	34.2	2.6	0
	考古歴史遺産研究	講義	42	平常点	100.0	0	100.0	90.5	4.8	4.8	0
	歴史民俗遺産研究	講義	0								
	東洋歴史遺産研究	講義	16	筆記試験	100.0	0	100.0	68.8	25.0	6.3	0
	西洋歴史遺産研究	講義	8	筆記試験	87.5	12.5	100.0	50.0	37.5	12.5	0
	考古学フィールドワーク	講義	15	平常点	100.0	0	100.0	93.3	0	6.7	0
	歴史民俗フィールドワーク	講義	16	平常点	100.0	0	100.0	75.0	18.8	6.3	0
	東洋文化遺産実習	演習	8	平常点	87.5	12.5	100.0	75.0	12.5	12.5	0
	地域史研究	講義	0								
	有職故実	講義	15	レポート	93.3	6.7	100.0	26.7	66.7	6.7	0
	美術史	講義	13	レポート	92.3	0	92.3	61.5	23.1	7.7	7.7
	歴史情報処理	実習	12	平常点	83.3	8.3	91.7	83.3	8.3	0	8.3
	考古歴史遺産研究	講義	44	平常点	100.0	0	100.0	90.9	6.8	2.3	0
	東洋史概説	講義	44	筆記試験	95.5	0	95.5	40.9	50.0	4.5	4.5
	西洋史概説	講義	47	平常点	91.5	0	91.5	17.0	59.6	14.9	8.5
	西洋歴史遺産研究	講義	7	筆記試験	85.7	14.3	100.0	57.1	28.6	14.3	0
	文化財学	講義	12	筆記試験	100.0	0	100.0	25.0	75.0	0	0
	文化財の保護	講義	17	レポート	94.1	5.9	100.0	29.4	52.9	17.6	0
	専・人文地理学	講義	12	筆記試験	91.7	8.3	100.0	16.7	41.7	41.7	0
	自然地理学	講義	23	筆記試験	95.7	0	95.7	39.1	47.8	8.7	4.3
	日本地誌	講義	25	筆記試験	68.0	24.0	92.0	28.0	28.0	36.0	8.0
教・宗教学概論	講義	4	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0	
教・倫理学	講義	8	レポート	100.0	0	100.0	62.5	37.5	0	0	
教・政治学	講義	12	レポート	91.7	0	91.7	58.3	33.3	0	8.3	
教・経済原論	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	83.3	16.7	0	0	
教職課程科目	教師論	講義	16	レポート	93.8	0	93.8	31.3	56.3	6.3	6.3
	教育原理	講義	45	平常点	95.6	0	95.6	77.8	13.3	4.4	4.4
	教育心理学	講義	16	筆記試験	87.5	12.5	100.0	37.5	62.5	0	0
	教育制度論	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	社会科教育法	講義	12	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	41.7	25.0	0
	道德教育の研究	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	91.7	8.3	0	0
	特別活動	講義	12	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	50.0	16.7	0
	視聴覚教育	講義	41	平常点	95.1	0	95.1	48.8	46.3	0	4.9
	生徒・進路指導論	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	50.0	41.7	8.3	0
	教育相談	講義	12	平常点	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	総合演習	演習	12	平常点	100.0	0	100.0	50.0	41.7	8.3	0
	教育実習	講義	13	平常点	92.3	0	92.3	76.9	15.4	0	7.7
	教育実習	実習	11		100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	介護論	講義	15	筆記試験	60.0	33.3	93.3	6.7	20.0	66.7	6.7
学会員課程科目	生涯学習概論	講義	33	筆記試験	100.0	0	100.0	36.4	54.5	9.1	0
	博物館概論	講義	34	筆記試験	97.1	2.9	100.0	11.8	76.5	11.8	0
	博物館経営・情報論	講義	32	筆記試験	100.0	0	100.0	46.9	53.1	0	0
	博物館資料論	講義	32	筆記試験	100.0	0	100.0	28.1	59.4	12.5	0
	博物館実習	実習	33	筆記試験	97.0	3.0	100.0	42.4	57.6	0	0
	博物館実習	実習	33	平常点	100.0	0	100.0	51.5	42.4	6.1	0
社会教育専攻課程科目	社会教育計画	講義	4	筆記試験	100.0	0	100.0	50.0	50.0	0	0
	社会教育演習	演習	3	筆記試験	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	国際化と社会教育	講義	4	筆記試験	100.0	0	100.0	75.0	25.0	0	0
	同和問題と社会教育	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	社会教育行政	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	健康教育	講義	3	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0

商学科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
科目	神道と日本文化	講義	38	筆記試験	76.3	23.7	100.0	36.8	39.5	23.7	0
	国語(ことばと表現)	講義	38	筆記試験	94.7	5.3	100.0	26.3	57.9	15.8	0

教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
教養科目	國術総合教養	講義	38	筆記試験	97.4	2.6	100.0	52.6	44.7	2.6	0
	フレッシュマン イングリッシュ	演習	38	筆記試験	78.9	21.1	100.0	15.8	42.1	42.1	0
	フレッシュマン イングリッシュ		0								
	スポーツ・健康科学	実技	38	筆記試験	100.0	0	100.0	55.3	34.2	10.5	0
	スポーツ・健康科学	実技	0								
基礎選択科目	文学(文学とメディア)	講義	16	筆記試験	93.8	6.3	100.0	43.8	50.0	6.3	0
	文学(近・現代文学鑑賞)	講義	0								
	現代社会と倫理	講義	35	平常点	100.0	0	100.0	74.3	20.0	5.7	0
	世界の宗教	講義	0								
	歴史発見	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	音楽(オペラ・ミュージカル鑑賞法)	講義	3	平常点	66.7	0	66.7	0	33.3	33.3	33.3
	日本国憲法	講義	9	筆記試験	77.8	0	77.8	11.1	55.6	11.1	22.2
	現代政治入門	講義	35	レポート	85.7	14.3	100.0	48.6	34.3	17.1	0
	市民生活と経済	講義	1	筆記試験	0	100.0	100.0	0	0	100.0	0
	地球環境と人間活動	講義	5	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	教育と社会	講義	0								
	データの科学	講義	32	筆記試験	87.5	12.5	100.0	68.8	18.8	12.5	0
	キャリアプランと職業	講義	1	平常点	100.0	0	100.0	0	100.0	0	0
	生活と数学	講義	0								
	生命の進化	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	0	0	100.0	0
	宇宙と人間	講義	16	筆記試験	50.0	50.0	100.0	0	31.3	68.8	0
	日本人の起源と進化	講義	23	筆記試験	91.3	8.7	100.0	82.6	13.0	4.3	0
	自然と環境 (植物の分類と生態)	講義	19	レポート	100.0	0	100.0	57.9	42.1	0	0
自然と環境 (フィールドワーク)	講義	0									
発展選択科目	神道と社会	講義	8	レポート	87.5	0	87.5	37.5	0	50.0	12.5
	社会文化と倫理	講義	10	平常点	90.0	0	90.0	50.0	30.0	10.0	10.0
	日本国憲法	講義	8	筆記試験	87.5	12.5	100.0	12.5	37.5	37.5	12.5
	日本国憲法	講義	0								
	政治と人間	講義	7	レポート	100.0	0	100.0	42.9	42.9	14.3	0
	生命科学と人間	講義	6	筆記試験	83.3	0	83.3	16.7	33.3	33.3	16.7
	人類の起源と進化	講義	8	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	データ分析と総合	講義	8	平常点	100.0	0	100.0	50.0	37.5	12.5	0
	シニアイングリッシュB	演習	8	筆記試験	75.0	0	75.0	37.5	25.0	12.5	25.0
	シニアイングリッシュC	演習	8	平常点	75.0	0	75.0	0	50.0	25.0	25.0
	フランス語A	演習	5	筆記試験	100.0	0	100.0	40.0	20.0	40.0	0
	フランス語B	演習	5	筆記試験	60.0	0	60.0	40.0	0	20.0	40.0
	中国語A	演習	3	筆記試験	100.0	0	100.0	0	33.3	66.7	0
	中国語B	演習	3	筆記試験	100.0	0	100.0	0	33.3	66.7	0
	スポーツ・健康科学	実技	15	レポート	100.0	0	100.0	80.0	20.0	0	0
専門科目	基礎ゼミナール	演習	6	平常点	100.0	0	100.0	83.3	16.7	0	0
	基礎ゼミナール	演習	6	レポート	100.0	0	100.0	33.3	66.7	0	0
	基礎ゼミナール	演習	6	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	基礎ゼミナール	演習	7	平常点	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0
	基礎ゼミナール	演習	7	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	基礎ゼミナール	演習	6	平常点	100.0	0	100.0	83.3	0	16.7	0
	基礎ゼミナール	演習	0								
	専門ゼミナール	演習	1	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	専門ゼミナール	演習	4	レポート	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	専門ゼミナール	演習	6	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	専門ゼミナール	演習	8	平常点	100.0	0	100.0	87.5	12.5	0	0
	専門ゼミナール	演習	5	レポート	100.0	0	100.0	80.0	20.0	0	0
	専門ゼミナール	演習	14	平常点	100.0	0	100.0	71.4	28.6	0	0
	基礎経済学	講義	38	筆記試験	97.4	2.6	100.0	36.8	63.2	0	0
	基礎経営学	講義	38	筆記試験	97.4	2.6	100.0	42.1	52.6	5.3	0
	金融の基礎	講義	20	筆記試験	90.0	10.0	100.0	50.0	45.0	5.0	0
	金融の基礎	講義	20	筆記試験	90.0	10.0	100.0	20.0	45.0	35.0	0
	日本経済	講義	15	平常点	100.0	0	100.0	40.0	60.0	0	0
	国際経済	講義	15	筆記試験	86.7	13.3	100.0	26.7	66.7	6.7	0
	経済史の基礎	講義	16	筆記試験	100.0	0	100.0	56.3	43.8	0	0
	企業と簿記	講義	10	筆記試験	80.0	20.0	100.0	40.0	40.0	20.0	0
	企業と簿記	講義	12	筆記試験	100.0	0	100.0	91.7	8.3	0	0
	企業と簿記	講義	11	筆記試験	100.0	0	100.0	18.2	9.1	72.7	0
	企業と会計	講義	18	筆記試験	100.0	0	100.0	50.0	22.2	27.8	0
	税務会計	講義	17	筆記試験	100.0	0	100.0	88.2	5.9	5.9	0
	会社法	講義	18	筆記試験	100.0	0	100.0	38.9	44.4	16.7	0
	情報科学	演習	38	筆記試験	97.4	2.6	100.0	23.7	60.5	15.8	0
ネットワークング原理	講義	27	筆記試験	100.0	0	100.0	81.5	14.8	3.7	0	
プレゼンテーション概論	演習	16	平常点	100.0	0	100.0	75.0	18.8	6.3	0	
Webデザイン	演習	21	筆記試験	71.4	28.6	100.0	33.3	23.8	42.9	0	
現代経済システム	講義	0									

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況(%)			最終の評価(%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門科目	財政の基礎	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	商業史	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0
	貿易論	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	71.4	28.6	0	0
	経済統計	講義	8	筆記試験	100.0	0	100.0	87.5	12.5	0	0
	消費と環境	講義	7	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	国際金融	講義	3	平常点	100.0	0	100.0	66.7	33.3	0	0
	ビジネス外書講読	演習	2	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	ビジネス外書講読	演習	2	平常点	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	ビジネス外書講読	演習	4	平常点	100.0	0	100.0	75.0	25.0	0	0
	簿記演習	演習	9	筆記試験	100.0	0	100.0	55.6	22.2	22.2	0
	簿記演習	演習	11	筆記試験	90.9	9.1	100.0	81.8	18.2	0	0
	簿記演習	演習	9	筆記試験	100.0	0	100.0	33.3	11.1	55.6	0
	経営管理	講義	18	筆記試験	100.0	0	100.0	16.7	72.2	11.1	0
	マーケティング	講義	17	筆記試験	100.0	0	100.0	35.3	52.9	11.8	0
	人事管理論	講義	23	筆記試験	100.0	0	100.0	21.7	60.9	17.4	0
	会計情報システム	講義	7	筆記試験	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0
	管理会計	講義	0								
	流通と社会	講義	17	レポート	82.4	17.6	100.0	35.3	64.7	0	0
	秘書学概論	講義	27	筆記試験	74.1	7.4	81.5	18.5	25.9	37.0	18.5
	秘書実務	講義	32	筆記試験	93.8	3.1	96.9	28.1	50.0	18.8	3.1
	文書実務	講義	16	筆記試験	100.0	0	100.0	75.0	25.0	0	0
	ビジネス実務総論	講義	32	レポート	96.9	3.1	100.0	56.3	40.6	3.1	0
	ビジネス実務演習	演習	21	平常点	100.0	0	100.0	85.7	14.3	0	0
	システムアドミニストレータ入門	講義	3	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	システムアドミニストレータ演習	講義	15	筆記試験	80.0	20.0	100.0	0	86.7	13.3	0
	ネットワーク組織論	講義	18	レポート	100.0	0	100.0	94.4	5.6	0	0
	プログラミング	演習	30	筆記試験	93.3	6.7	100.0	26.7	56.7	16.7	0
	プログラミング	演習	24	筆記試験	100.0	0	100.0	75.0	20.8	4.2	0
	Webプログラミング	演習	17	筆記試験	52.9	41.2	94.1	11.8	35.3	47.1	5.9
	システム分析設計	講義	33	平常点	97.0	0	97.0	39.4	33.3	24.2	3.0
	ビジネスソフト実習	実習	11	平常点	100.0	0	100.0	18.2	72.7	9.1	0
	マルチメディア演習	演習	24	平常点	95.8	0	95.8	75.0	12.5	8.3	4.2
	CG(コンピュータグラフィックス)	演習	14	平常点	100.0	0	100.0	57.1	42.9	0	0
	プレゼンテーション演習	演習	7	平常点	71.4	0	71.4	28.6	42.9	0	28.6
	プレゼンテーション演習	演習	7	平常点	71.4	0	71.4	28.6	42.9	0	28.6
	情報機器利用プレゼンテーション演習	演習	6	平常点	83.3	0	83.3	66.7	16.7	0	16.7
	Webデザイン演習	演習	16	筆記試験	81.3	18.8	100.0	18.8	68.8	12.5	0
	色彩論	講義	1	筆記試験	100.0	0	100.0	100.0	0	0	0
	色彩論	講義	0	筆記試験							

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 国文学科

本学科の単位認定は、定期試験・受講態度・出席状況等を総合的に判断して行われており、学生の単位取得状況も表のとおり、おおむね良好である。担当教員による評価方法や評価基準についても、特に不公平は生じていないと考えている。また本学科では、四年制大学(主に國學院大学)への編入学を希望する学生のために、専用の講座を開講しているので、編入学希望者は取得しなければならない単位数がかなり多くなっているが、それでも受講生の単位認定状況は良好であると考えている。

#### 家政学科

本学科の単位認定は、一般的に、講義科目は定期試験において筆記試験を行い、実験実習科目は普段の出席状況や課題レポート等によって評価されることが多い。成績不良の学生については、欠席が多い、レポートを提出しない等の理由が多いので、早期の指導を心がけている。学生の単位取得状況および担当教員による評価の現状は、良好である。

### 初等教育学科

本学科の単位認定は、主に定期試験の他、平常の授業時における試験、提出物、出席率等を総合的に判断して行うようにしている。このうち特に出席状況を重視している。教科に関する専門科目の中には、実技による認定が必要な科目があり、学生の一部に練習不足があるために認定に長時間を要することがある。単位の認定方法に特に問題はなく、学生の単位認定状況についてもおおむね良好である。

### 日本史学科

本学科の単位認定は、定期試験や授業時における発表やレポート、さらに出席状況等を総合的に判断してなされており、適正に行われている。

### 商学科

本学科の単位認定は、定期試験、授業時小テスト、レポート、報告内容等を考慮し、適正に行われている。基礎ゼミ・専門ゼミでの指導、担当教員によるきめ細かな指導、単位認定方法の事前の明示、授業外での担当教員による補習授業等によって、単位の取得状況はおおむね良好である。また単位の認定方法も評価も適切に行われている。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学科によって、また科目によって、若干の偏りがあることは否めないが、全学的に見て、現在、単位認定状況は適正であると受け止めている。今後、いっそう、その単位取得した学生の努力が、対外的に見ても、十分に担保されていることの確認をしていきたいものと思っている。

現在、本学では、優(80点以上)、良(60点以上80点未満)、可(50点以上60点未満)、不可(50点未満)の4段階で評定し、不可を除いて、各科目の単位取得者として認定している。その評定の算定の方法としては、試験・レポートだけでなく、授業形態によっては、平常点評価による科目も存在する。そのように、試験・レポートを課して評価する方法に拠っても、全科目とも、出席状況や参加姿勢を加味した評定結果となっており、その配慮はよく行き届いている。

履修者の大方が単位取得でき、適正なバランスの評価となっている。評価の姿勢は、大学の多くがそうであるように、絶対評価制によっているが、おのずから、相対的な配慮もなされた評価結果となっているものと認識している。

なお、以上に述べたところは、本学の単位認定や取得・評価等に関する現況であるが、今後に向けては、近年教育現場で採用されている個々人の到達度を評価する到達度評価の視点についても、検討したいと思っている。

## 【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

「学生の満足度」の調査については、平成19年度より教務委員会で検討し、平成20年度が

ら実施しており、本年度も実施された。

毎年2回、各授業の最終回に、授業評価アンケートと一緒に調査している。アンケートは匿名で、担当教員と事務職員とによって行われる。回収されたアンケートは集計され、その結果は5点満点で数値化され、科目担当教員に返される。

参考資料3「授業アンケート」参照。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 国文学科

本学科では、ほとんどの教員が、担当する授業に関して、作品や作文(課題や授業内容についての感想等)を提出させている。そして、その内容の質や丁寧さ等を見ながら、自分の授業の浸透状況や学生の満足度の合いをチェックしている。また、各教員は、満足度調査の結果を真摯に受け止め、十分に授業改善に生かしていると考えている。

#### 家政学科

本学科では、授業に関する学生アンケートの集約結果が出た後、学科会議において、学科長から、全学の平均値と学科の平均値とを伝え、さらに各自の値と比較してもらい、授業改善に努めてもらうように促している。本学科では、独自に『家政学科自己点検・評価報告書』を作成しており、各教員はその個人の部で「授業の評価」をしており、学生の満足度に十分配慮した授業を行っているものと考えている。

#### 初等教育学科

本学科では、授業に関する学生アンケートについて、学科会議において、各教員の集計結果について報告しあっている。全体的にみて、学生は授業の現状について「ほぼ満足している」と言うことである。さらに学生がどのような授業を期待しているのか、また教師としてどのような技能が必要なのかを調べ、満足度を高めるように努力している。

#### 日本史学科

本学科の授業に関する学生アンケートの集計結果によれば、「満足度と総合評価」項目の平均は5点満点中4.0~4.5の間であり、日常的に懇切丁寧な行き届いた授業が行われていることに対する学生の評価であると認識している。

#### 商学科

本学科では、学生アンケート結果を各教員が個別に分析し、学生の満足度を高める努力をしている。基礎ゼミ・専門ゼミで学生の面接を行い、授業の満足度に対する聞き取り調査を実施している。結果は、高い評価を得ていると判断している。

参考資料16「平成20年度家政学科自己点検・評価報告書」参照。

参考資料3「授業アンケート」参照。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の満足度を測るに先立って、学生が、適正な判断力を持って満足・不満足 of 表明ができるよう、その基本姿勢を養成しておかなければならない。そのうえで、どのような学

生がどのような点に満足し、不満を覚えているのかを把握する姿勢が必要である。多様な学生を受け入れている現在、画一的な満足度を測定することは、いたずらに無難さを求める結果を招くのではないかとの危惧を抱いての視点である。

授業に対する満足度については、その授業内容について調査するのか、あるいは授業担当者について調査するのにより結果は異なってくる。さらにその科目が、必修科目か、選択科目かによっても異なる。現在、全学的に見て、そのいずれについても、学生たちは、一定の満足度を持って学習にいそしんでいるものと認識している。今後、学生たちが、いっそう高い次元の満足度を要求し、全教員がそれに応えるようになっていくことを期待している。

### 【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

退学、休学、留年等の学科ごとの状況は次のとおりである。

#### 国文学科

国文学科の退学者等一覧表

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	67	74	61	
うち退学者数	2	9	2	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	0	0	0	
卒業者数	65	65		

#### 家政学科

家政学科の退学者等一覧表

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	75	62	49	
うち退学者数	4	6	1	
うち休学者数	0	1	1	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	1	0	0	
卒業者数	70	56		

## 初等教育学科

## 初等教育学科の退学者等一覧表

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	54	39	42	
うち退学者数	4	6	2	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	2	0	0	
卒業者数	48	33		

## 日本史学科

## 日本史学科の退学者等一覧表

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	62	59	46	
うち退学者数	5	5	6	
うち休学者数	0	1	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	0	0	0	
卒業者数	57	54		

## 商学科

## 商学科の退学者等一覧表

(平成22年3月31日現在)

区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	41	40	50	
うち退学者数	4	3	0	
うち休学者数	0	1	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	0	1	0	
卒業者数	36	37		

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者(復学者を含む)及び留年者に対する指導(ケア)の現状について学科等ごとに記述して下さい。

## 国文学科

本学科の平成21年度の退学者は、2年生2名、1年生2名の合計4名である。退学理由の割合は、病気治療(体調不良)が2名、家庭の経済事情によるものが2名であった。退学理由の近年の傾向として、体調不良(精神的なものを含む)や、修学意志の欠如、経済的なものが増えてきている。保護者と緊密に連絡を取り合い、担任や教務課職員による個人面談等によって、可能な限り学業が続けられるように指導している。取得単位数不足のために進級できずに留年する学生については、担任はもとより学科の教員全体で、きめ細

やかに指導するように心がけている。

#### 家政学科

本学科の平成21年度の退学者は、2年生2名、1年生1名の合計3名である。その理由は進路変更、修学の意志なし、体調不良等である。入学後に、友達ができなかったり、勉学についていけず自信を失い精神的に不適應を起こしたり、教職への適性に疑問を持ったりすることが原因となる場合が多いようである。退学の前兆として欠席が多くなるという傾向が窺われるので、教科の担当者や担任が早いうちに細やかな指導にあたり、退学者が出ないように努めている。

#### 初等教育学科

平成21年度における退学者は2年生4名、1年生3名の合計7名である。退学の理由としては、入学前に自分が予想した学生生活と現実とに大きな違いがあり、そのために修学意欲をなくしたから、というのがほとんどである。教員になるつもりで入学してきたが、実際に体験してみるとその仕事に興味を持てなくなり、他の仕事に就くように気持ちが変わったり、さらにアルバイト等がきっかけで授業を休みがちになり、それで修学意欲をなくしてそのまま退学してしまう学生も多い。このような学生に対しては、教務課を通じて保護者と連絡を取り、直接に本人と面談をして意思を確認し、慰留に努めているが、本人の意思が固く退学に至る場合が多い。また留年者については、担任教員や教務課職員が、面談をした上で直接に指導・助言を行い、留年を繰り返さないように注意を喚起している。

#### 日本史学科

本学科の平成21年度の退学者は、1年生6名である。退学の理由としては、病気治療と進路変更及び家庭の経済事情による。前者に対しては、カウンセリングの専門的知識を有する職員と教務課職員、そして担任が協力して対応してきた。また保護者とも常に緊密な連絡を取りながら、登校させるために大いに努力した。しかし結果的には努力の甲斐なく退学に至ったものである。

#### 商学科

本学科の平成21年度の退学者は、2年生1名である。理由は進路変更によるものである。本学科では、担任と基礎ゼミ・専門ゼミの担当教員が密接に学生と接触し、問題が起これば早期に把握し、学科の教職員全体で協力して指導するようにしている。基礎ゼミと専門ゼミの担当教員との間では、「学生カルテ」を用い、学生の履修状況、将来の希望、生活状況等、面接によって得た情報を申し送りすることで、学習・生活・就職指導を入学時から卒業時まで一貫して行うようにしている。

参考資料2「学生カルテ」参照。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

#### 国文学科

大学全入の時代となり、さまざまな問題をかかえて入学してくる学生も多い。早めに学生の抱える問題に気づき適切な指導をするために、本学科では、定例の学科会議において、すべての学生の修学状況(特に出席状況)について、各教員から報告をしてもらっている。

その報告に基づいて、問題のある学生については、面談等をして、早期にその問題を解決するように努力している。今後もよりいっそう、指導体制を整えていきたいと考えている。

#### 家政学科

退学等に至る傾向は、学習意欲に欠け、通常の授業を欠席したり、レポートを提出しなかったり、定期試験を欠席したりするが多い。そこで、本学科では、担任による面接等を通じて、進路を自覚させ、学習意欲を促すように心がけている。

#### 初等教育学科

本学科の学生が退学や休学に至る原因として、予想と現実のギャップが大きいということがその大半を占めている。それは、教員になるのに必要な知識の習得には相当の努力を要するという認識の欠けている学生が多いということを表している。今後は、各分野の教員と事務職員とが連携し、迅速で緊密な指導や助言を通して、学生が卒業まで修学意欲を失わずに勉学を続けていくことができるように導いていきたいと考えている。

#### 日本史学科

近年、精神的な問題を抱えた学生の入学が顕著となっていることは否めない。それだけ、教職員が学生の動向を常に把握し、問題が顕在化する前に対応することが求められているように思われる。

#### 商学科

本学科では、基礎ゼミ・専門ゼミでの指導や学生面談を通して、学生の修学や生活に関わる問題を早期に把握し、学科全教員の共通認識のうえで対処するように努めているが、それでも、さまざまな問題から退学・休学をしてゆく者もいる。これからも、よりいっそう、指導体制を整え、退学者・休学者を減らすよう努力をしていきたいと考えている。

### (4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

短期大学の時代は終わった、という声は、巷においても聞かれるところである。しかし、私ども國學院大學栃木短期大学は、母体である國學院大学との関係からも、平成の現代にあっても、短期大学の存在意義を確認して、現在もその教育業務に取り組んでいる。現時点での、本短期大学の存在意義は、高校卒業者が、今後、どう生きるかに迷い悩んだとき、その進みたいと思う人生の道に向けてのbetweenの場となることと位置づけている。

ある程度のスキルを身に付け、その一方で教養も貯え、現代の日本社会において自信を持って生きていける一人になりたいという志望理由が、本学教職員に、その存在意義を教えてくれたのであった。高校だけで就職することの不安、四年制大学で専門を限ってしまうことへの不安、それが本学学生の入学直前の思いであることが確認できたからである。

本学教職員は、現在、各学科の専門科目関係の指導以上に、学生各人の適正を見極め、適切な職域を決めて、それぞれの職場へと送り出すことを、第一の使命としている。適切な四年制大学を決めて、それぞれ各四年制大学の三年生への編入学についても、同じく第一の使命としている。

ただ、せっかく受け入れても、退学を申し出ている学生も数えられる。事情を十分に確認して、退学後の進路について一定の指導を加え、学長が直接面談して許可することを原則としている。現在、その退学・休学の願いの中で、最も憂慮しているのは、家庭の経済

的事情によるものである。授業料の延期の特例等、可能な限りの便法を講じて食い止めている。

もちろん、怠学による退学・休学・留年者がいないわけではない。すでに、私ども、日本という国にあっては、残念ながら、引きこもりの若者が多く存在する時代に入ってしまった。中・高校生の不登校者に対しては、いわゆるサポート校までが認められる時代になっている。短期大学生のなかにも、その種の不安を抱える者もまた、認められる。それら学生に対しては、家庭訪問をするなど、状況に応じた学習指導を考え、画一的な教育だけの時代ではないことを理解して、この時代に当たらなければならないと思っている。

### 【資格取得の取組みについて】

(1) 《教育の内容》の【教育課程について】(3)(26ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

平成20年度卒業生の、学科ごとの免許・資格の取得状況は、次の通りである。なお、表中の「取得割合」の数値は、卒業生全体における割合を示した。

#### 国文学科

(平成21年度卒業生 67人)

	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
中学校教諭二種免許(国語)	19	9	47%
図書館司書資格	34	22	65%
学校図書館司書教諭資格	3	0	0%

#### 家政学科

(平成21年度卒業生 56人)

	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
中学校教諭二種免許(家庭)	7	6	86%
養護教諭二種免許	34	27	79%
図書館司書資格	2	0	0%
学校図書館司書教諭資格	0	0	0%
フードスペシャリスト資格	17	9	53%
医療管理秘書士資格	49	45	92%
医療秘書士資格		0	0%
医療事務士1級資格		14	29%
医療事務士2級資格		29	60%

## 初等教育学科

(平成21年度卒業生 33人)

	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
小学校教諭二種免許	33	28	85%
幼稚園教諭二種免許	33	28	85%

## 日本史学科

(平成21年度卒業生 54人)

	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
中学校教諭二種免許(社会)	18	11	61%
博物館学芸員資格	40	32	80%
社会教育主事資格	4	3	75%

## 商学科

(平成21年度卒業生 38人)

	取得をめざした学生数	取得者数	取得割合
秘書士資格	25	17	68%
情報処理士資格	29	29	100%
ビジネス実務士資格	22	20	91%
ウェブデザイン実務士資格	7	7	100%
プレゼンテーション実務士資格	1	0	0%

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

## 国文学科

日本語能力検定試験等の導入を考えている。

## 家政学科

栄養士・栄養教諭の資格の導入を検討している。

## 初等教育学科

本年度から保育士の資格の導入した。

## 日本史学科

とくにない。

## 商学科

とくにない。

## 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

### 国文学科

専門就職の状況は、宗教関係 1 人。就職者13人に対して専門就職者は 1 人で、割合は 8 %となる。

### 家政学科

専門就職の状況は、臨時採用を含む養護教諭・家庭科教諭・学校図書館司書等の学校教育関係 7 人、医療事務 9 人、臨時採用を含む地方公務員 2 人、食品系企業 2 人である。就職者32人に対して専門就職者は20人で、割合は63%となる。

### 初等教育学科

専門就職の状況は、臨時採用を含む幼稚園教諭18人、臨時採用を含む小学校教諭 7 人である。就職者28人に対して専門就職者は25人で、割合は89%となる。

### 日本史学科

専門就職の状況は、教育関連企業に 1 人である。就職者10人に対して専門就職者は 1 人で、割合は10%となる。

### 商学科

専門就職の状況は、建設業 1 人、製造業 4 人、運輸業 1 人、卸・小売業 2 人、医療・保健衛生業 2 人、サービス業 5 人、地方公務員 1 人である。就職者16人に対して専門就職者は16人で、割合は100%となる。

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

本学の卒業生は、学科によって、就職先や編入学先に一定の傾向が認められる。国文学科・日本史学科・商学科は、その卒業生のうちの相当数が國學院大学の日本文学科・史学科・経済学部へ編入学していくところから、それら編入学先からの評価は、直ちに教務事務連絡事項として寄せられてきているが、現在までのところ、本学卒業生は、受け入れてくれた大学側の各学科から一定の評価を受けており、むしろ歓迎されていて、極めて望ましい関係となっている。

家政学科のうちの養護教諭志望者や初等教育学科の卒業生は、直ちに教育現場に赴くものが、近時は限られてきてはいるが、一定の築かれた伝統があるところから、寄せられた求人にも多くの卒業生が意欲的に応じている。もちろん、全学科とも、現在は、幅広く、公務員や一般企業に、その職場を求めて挑戦している。

本学では、これまで、就職指導については、寄せられた求人に応じる態勢にとどまっていたが、平成19年度からは、学生支援室を設置し、担当職員が積極的にその指導にあたっている。現在、職場開拓についても、一部進行させており、今後いっそう、開拓した職場との信頼関係を築いていきたいと思っている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート(卒業後評価等)」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

本学には、卒業生22,185人を会員とする同窓会「<sup>このはなかい</sup>斯花会」があり、毎年総会及び懇親会が催されており、毎年多くの卒業生が参加してくれている。平成20年度より、この会を利用して、卒業生に対する「学生時代についてのアンケート」を実施している。そのアンケート結果を見ると、本学の卒業生のほとんどは、学生時代を本学で過ごすことができ良かったと感じているようであり、本学に対して誇りを持っていることがわかる。

また本学から國學院大学に編入学した学生に対しては、「斯花会」の支部として「若木斯花会」が組織化されており、学科を越えた学生相互の交流が図られている。毎年2月に、新しく編入学する学生の歓迎会と、その年に四年制大学を卒業する学生の送別会を兼ねて、教職員も交えて懇親会を開催している。この会を通じて、先輩は後輩から、履修・資格取得や進路に関する相談等を受けている。

さらにまた初等教育学科では、「初教このはな会」という同窓会組織が作られ、年に2回程度の総会や研修会を開催している。この会は、卒業生相互の交流を図るだけでなく、地域の教育活動の動向の情報交換等も行っている。

参考資料17「卒業生アンケート」参照。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 国文学科

本学科の卒業生は、地方出身者が多く、地味だが真面目に良く努力するといった良い評価を、就職先や編入学先から、長年受けている。社会から高く評価されていると思う。

#### 家政学科

本学科の卒業生は、教職に就く者が多く、「真面目である」「品格がある」との評判をよく耳にする。

#### 初等教育学科

本学科の卒業生の多くが就職している幼稚園や小学校では、園長や校長から、園児や児童に対し誠意を持って接し、信頼がおけるとの、高い評価を得ている。

#### 日本史学科

本学科の卒業生は、四年制大学の編入学先や就職先から、おおむねまじめで勤勉かつ責任感を持った人物であるとの高い評価を得ている。

#### 商学科

本学科の卒業生の高い就職率から、地域社会において本学科の卒業生が非常に良い評価を得ていることがわかる。また、編入学した学生についても、主な編入学先である國學院大学経済学部の教員から、毎年良い評価を受けている。

#### 学長

本学の卒業生は、本学所在地の北関東にはもとより、東北を初めとする全国に、ほぼ2

万1千人が、職業人となり家庭人となって、この日本という国を支えている。42年にわたって巣立っていった卒業生は、各地域の職場において、その真摯な仕事ぶりと意欲的な活躍とによって、一定の評価を得ている。とりわけ教職界に進出した卒業生は、いま、その教職現場にあっては経験豊かな教師として重要なポストにあり、本学の新卒業生の採用に向けて指導と協力とを惜しむことなく寄せてくれている。創設当初2学科であった本学が、漸次3学科を増設して都合5学科になったことは、ひとえに本学に対する地域社会からの期待の高さゆえであると思われる。それら卒業生は、地域自治体や地元企業に迎えられて、十分に地域社会に貢献しているものと自負している。

### 【特記事項について】

(1) この《教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 学生支援

### 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

本学では、入学志願者に対し、建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標等について、『学校案内』、『学報<sup>こほな</sup>斯花』、ホームページ、受験雑誌等の媒体、またオープンキャンパス、高等学校訪問等を通して明示している。とくに『学校案内』において、理事長・学長が、建学の精神・設置学科と教育目標、望ましい学生像について、またその教育の理想が、修学、生活、人間形成にどのように寄与しているかを平易な言葉で説明している。

添付資料2「国学院大学栃木短期大学学校案内」参照。

参考資料1「学報<sup>こほな</sup>斯花」参照。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法(推薦、一般、AO入試等)をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

本学の入学者選抜に関する方針・方法については、『学校案内』『学生募集要項』の高等学校への送付、高等学校教員対象進学説明会、全国進学相談会、オープンキャンパス、高等学校訪問、『学報<sup>こほな</sup>斯花』、ホームページ、ポスター、受験雑誌等によって明示している。

添付資料2「国学院大学栃木短期大学学校案内」参照。

参考資料1「学報<sup>こほな</sup>斯花」参照。

参考資料18「国学院大学栃木短期大学学生募集要項」参照。

(3) 広報及び入試事務についての体制(組織等)の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

本学の入試広報は、広報委員会が企画・立案し、入試事務は、学生課が中心となって行っている。受験生およびその関係者からの問い合わせに対しては、手紙・葉書等の郵便物、電話、FAX、メール等で、学生課職員が適宜対応している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

入学試験実施の流れおよび選抜方法の概要は、次のとおりである。

### 対話型A O入試

登録期間：平成21年7月1日～9月10日 平成21年10月7日～10月16日

(一次面談日計6日) (二次面談日計7日)

\* 一次面談において選抜された登録者は、各学科の課題を作成し、二次登録を行い、二次面談が実施される。さらに選考された者は、受付期間内に志願票を提出する。

登録者志願票受付期間：平成21年10月7日～10月16日

合格発表10月22日 / 入学手続締切日10月31日

### 一般推薦入試

願書受付期間：平成21年10月21日～11月2日 / 試験日：11月5日

合格発表：11月7日 / 入学手続締切日：11月20日

\* 選考方法は、試験場で記述する小論文(60分 / 600字以上800字以内)と面接による。

指定校推薦入試(附属高等学校特別選抜入試を含む)

願書受付期間：平成21年10月21日～11月2日 / 試験日：11月5日

合格発表：11月7日 / 入学手続締切日：11月20日

\* 選考方法は、調査書と面接による。

### 卒業生子女入試

願書受付期間：平成21年10月21日～11月2日 / 試験日：11月5日

合格発表：11月7日 / 入学手続締切日：11月20日

\* 選考方法は、志望理由書、課題レポート、面接による。

### 自己推薦入試

願書受付期間：平成21年11月10日～12月3日 / 試験日：12月5日

合格発表：12月8日 / 入学手続締切日：12月21日

\* 選考方法は、調査書、試験場で記述する「志望理由を含む自己推薦文」(60分/600字以上800字以内)と面接による。

### 社会人入試

願書受付期間：平成21年11月10日～12月3日 / 試験日：12月5日

合格発表：12月8日 / 入学手続締切日：12月21日

\* 選考方法は、調査書、試験場で記述する「志望理由を含む自己推薦文」(60分 / 600字以上800字以内)と面接による。

### センター型入試(A日程)

願書受付期間：平成22年1月8日～2月4日 / 試験日：2月6日

合格発表：2月9日 / 入学手続締切日：2月20日

\* 選考方法は、調査書、面接、センター試験における成績(得点)による。

### センター型入試(B日程)

願書受付期間：平成22年2月12日～3月5日 / 試験日：3月6日

合格発表：3月9日 / 入学手続締切日：3月19日

\* 選考方法は、調査書、センター試験における成績(得点)による。

### センター型入試(C日程)

願書受付期間：平成22年3月10日～3月23日 / 試験日：3月24日

合格発表：3月25日 / 入学手続締切日：3月31日

\* 選考方法は、調査書、センター試験における成績(得点)による。

奨学生入試

願書受付期間：平成22年1月8日～2月4日 / 試験日：2月6日

合格発表：2月9日 / 入学手續締切日：2月20日

\* 選考方法は、学科試験、面接、調査による。

A方式入試

願書受付期間：平成22年1月8日～2月4日 / 試験日：2月6日

合格発表：2月9日 / 入学手續締切日：2月20日

\* 選考方法は、学科試験、面接、調査書による。

B方式入試

願書受付期間：平成22年2月12日～3月5日 / 試験日：3月6日

合格発表：3月9日 / 入学手續締切日：3月19日

\* 選考方法は、学科試験、面接、調査書による。

C方式入試

願書受付期間：平成22年3月10日～3月23日 / 試験日：3月24日

合格発表：3月25日 / 入学手續締切日：3月31日

\* 選考方法は、調査書、試験場で記述する小論文(60分 / 600字程度)と面接による。

国学院大学受験者対象入試(B日程)

願書受付期間：平成22年2月12日～3月5日 / 試験日：3月6日

合格発表：3月9日 / 入学手續締切日：3月19日

\* 選考方法：( ) 調査書、面接、國學院大学における受験結果(得点)による。

( ) 調査書、面接、センター試験における受験結果(得点)による。

( ) 調査書、面接、学科試験(2科目)による。

国学院大学受験者対象入試(C日程)

願書受付期間：平成22年3月10日～3月23日 / 試験日：3月24日

合格発表：3月25日 / 入学手續締切日：3月31日

\* 選考方法：( ) 調査書、面接、國學院大学における受験結果(得点)による。

( ) 調査書、面接、センター試験における受験結果(得点)による。

( ) 調査書、面接、小論文による。

入試事務については、『学生募集要項』に記載されていることを、忠実に実行しており、志願者に疑義を持たれることはないと確信している。

なお、「漢陽女子大学編入学生試験要項」に基づいて、編入学試験を実施し、3人の留学生を国文学科2年次に受け入れた。

参考資料18「国学院大学栃木短期大学学生募集要項」参照。

参考資料19「漢陽女子大学編入学生試験要項」参照。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者および入学手続き者に対して、とくにAO入試と推薦入試による早期合格者については、早期合格者および早期合格者の在籍高等学校からの要請に応じて、入学後の授業に係わる読書等の事前学習課題を与え、授業情報を提供している。

参考資料20「事前学習課題」参照。

(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

入学式の当日、学科ごとに、入学者と保護者と教職員の懇談会を開催し、授業や学生生活の概要を説明し、質疑応答の時間を設けている。

入学式の翌日から6日間、入学者を対象としたオリエンテーションを実施している。オリエンテーションの内容は、各学科の教員による授業内容に関するガイダンス、教務課主催による授業履修のためのガイダンス、学生課主催による学生生活全般のためのガイダンスを行っている。

## 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

毎年4月の学期初めに、『学生便覧』2冊を配布し、学年ごとに学習および科目選択、資格取得について、学科所属教員のガイダンス(90分)、教務課ガイダンス(90分)を実施している。

添付資料3「学生便覧 履修要項」参照。

添付資料4「学生便覧 講義要項」参照。

(2) 学習や科目選択のための印刷物(学生便覧等を除く)があれば参考資料としてご準備下さい。

とくにない。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

基礎学力の不足している学生については、時間外の個別指導を教室や研究室で実施している。また定期試験の不合格者に対しては、別に補講や個別指導を徹底している。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

クラス担任制により、学習上の問題や悩みの相談に当たっている。また全教員がオフィスアワーを設定して、学生に対する個別の授業・学習相談に応じている。学生支援室を開設し、学生の学習上の問題に対し、指導助言するための体制を強化した。さらに、学生相談室を設けており、教職員が役割分担してさまざまな悩みの相談に当たっている。相談室は月曜日から金曜日の間の午前11時から午後15時30分まで開室しており、教職員1人が待機して学生たちの相談に対応している。

参考資料8「オフィスアワー一覧」参照。

参考資料21「学生相談室相談員担当表」参照。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

各学科において、必修の基礎科目から選択の応用科目へと、発展段階的なカリキュラムが構築されており、優秀学生の学習意欲に対応した個別指導も実施されている。

### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を示して下さい。

学生生活を支援するための教職員組織としては、学生委員会、学生課、学生支援室が設けられている。その活動内容は、学生生活全般、福利厚生、健康指導、就職支援、アルバイト斡旋、奨学金支援、課外活動支援等多岐にわたっている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

#### クラブ活動の現状

本学のクラブ活動は、文化およびスポーツを通して学生相互の親睦を図り、学問・精神・健康の向上を目的に行われている。クラブ数は文化系42団体、体育系14団体が設立され、在学生の約70%が所属して活動している。全体の運営の円滑化のために学生委員会と学生課がその指導と支援に当るが、本学学生会(学友会)を初めとする56団体には、指導教職員が教授会の議決を経て任命され、健全な活動を支援している。なお、下記の表中のNo.23とNo.53は、休部中である。

平成21年度学内団体一覧

	団体名	創立	指導教員名	部長名	在籍数		
					女	男	合計
1	E S S部	S61.5	山本博子・金柿玲子	国2-1-10 遠藤幸江	4	4	8
2	E F C時事問題研究会	H3.5	秋山誠一	商2-2-4 高橋翼	10	17	27

	団体名	創立	指導教員名	部長名	在籍数		
					女	男	合計
3	囲碁研究会	H16. 5	寺崎宣昭	商2-1-12 菊地一宏	8	16	24
4	映画研究会	S51. 4	鍛代敏雄	史2-2-19 松尾大地		18	18
5	演劇部	S41.11	林田孝和	国2-1-5 五十嵐絵莉菜	6		6
6	華道部	S44. 7	飯塚富貴子・仁戸部幸子	家2-2-24 柳田香奈美	2		2
7	近世史研究会	H2. 4	坂本達彦	史2-1-5 伊藤理紗	6	6	12
8	近代史研究会	H2. 4	田中正弘	史2-2-9 寺川洋平	7	9	16
9	考古学研究会	H2. 4	小林青樹	史2-2-23 森田真奈美	23	11	34
10	紅茶とハーブティーの会	H15. 4	千明守	国2-2-7 寺内彩子	24		24
11	古代史研究会	H2. 4	酒寄雅志	史2-1-10 大武菜津美	3	3	6
12	ことのは会	H16.10	南芳公	国2-1-2 新井里枝子	3	2	5
13	斯花わーくす	H13.10	山内見和	家2-2-29 吉川苑子	4		4
14	古文書研究会	S62. 4	田中正弘	史2-2-25 安田雄介		6	6
15	コーラス部	S51. 4	小川裕二	初2-1-18 小林奈津美	20		20
16	茶道部	S43. 5	杉田洋子・近藤京嗣	家2-1-4 有我早織	16	1	17
17	室内楽研究会	S51. 4	早川富美子	初2-1-13 神山雅代	11		11
18	児童教育研究会	H17. 5	正木孝昌	初2-1-14 河内勇貴	13	4	17
19	写真部	S41. 4	北村奉正	国2-2-21 原田遼	6	1	7
20	書道部	S41. 4	林田孝和・田中茂男	国2-2-1 高橋麻利子	14		14
21	心理研究会	S45. 5	渡辺千歳・佐藤秋子	家2-2-23 宮崎映理子	9		9
22	箏曲部	S43. 5	早川富美子・丹野佳子	家2-2-28 横山三奈	6		6
23	短歌研究会	H4. 7	田中憲二・千勝三喜男				
24	中国語研究会	H10.11	松本隆晴	史2-2-5 須田雄介		7	7
25	中世史研究会	H2. 4	鍛代敏雄	史2-1-2 鈴木勇氣	4	9	13
26	東洋史研究会	H2. 4	松本隆晴	史2-2-22 森下和樹	6	4	10
27	人形劇部	S45. 4	栗原和子	家2-1-13 太田絵里加	19	3	22
28	博物館学研究会	S61. 4	小林青樹・戸田正勝	史2-2-19 松尾大地	21	20	40
29	美術工芸部	S41. 4	鷲崎直子・杉浦左知	商2-1-15 小林沙緒里	10		10
30	フォークソング部	S49. 4	佐藤圭一	商2-2-19 吉澤雅人	30	12	42
31	文芸部	S41. 5	岡本岱	国2-1-37 関根歩美	3	5	8
32	ペン字研究会	S42. 1	塚越義幸・田中茂男	国2-1-2 新井利枝子	12	1	13
33	簿記・会計研究会	H2. 6	室井一夫	商2-2-9 平形香名	5		5
34	マジック研究会	H17.12	千明守	国2-1-4 有賀信太郎	10	4	14
35	漫画アニメーション部	S61. 4	田沼真弓	国2-1-35 鈴木美紀子	14	2	16
36	推理小説研究会	H10. 6	村山昌俊	国2-1-33 杉戸航也	2	4	6
37	みたらし会	H3. 4	坂口耕史	家2-1-15 角田亜由美	20	1	21
38	みるく倶楽部	H17. 2	湯川晴美	家2-1-12 大島成美	21		21
39	民俗学研究会	S41. 6	林田孝和・小林吉一	国2-2-24 星彩音	7	1	8
40	物と伝承の会	S61. 4	小林青樹	史2-2-28 若松邦生	20	16	36
41	落語研究会	S57. 7	中塩聖司	国2-1-8 井上裕史	6	5	11
42	空手部	H16. 7	春日洋・天海則之・大出知由	史2-2-1 鈴木美穂	12	1	13
43	弓道部	S41. 6	石坂昌園	国2-2-26 増淵彰美	11		11
44	剣道部	S48. 4	前田シン子	家2-2-7 田中沙織	5	1	6
45	ソフトボール部	H14. 4	小林青樹	国2-2-15 中山幸広	16	12	28
46	卓球部	S41.11	村山昌俊	国2-2-32 八高英恵	10	1	11
47	ダンス部	S62. 4	永田晴子	国1-1-20 酒井菜津美	18		18
48	テニス部	S41. 6	石山育朗	商2-1-10 小野慎太郎	8	6	14
49	軟式野球同好会	H21. 7	寺崎宣昭	商1-2-11 中山賢士	11	20	31
50	バスケットボール部	S59. 7	大山尚	史2-1-11 大武仁	28	7	35
51	バドミントン部	S61. 4	石山育朗	家2-1-22 栗原佑巳加	31	9	40
52	バレーボール部	S47. 4	白山実・高森良友	初2-2-8 新井田美沙	22	5	27
53	ハンドボール部	S58. 4	田中力				
54	フットサル部	H16. 5	堀江則之	商2-1-13 菊地洋司	3	16	19
55	陸上競技部	H3. 6	石坂昌園・小曾戸聖	国1-2-2 武田千隼	2	1	3
56	学生会本部	S41. 4	石坂昌園・高森良友	商2-2-4 高橋翼	32	8	40
					281	612	893

### 学生会の現状

学生同士の課外活動の運営・支援については、学生会が行っている。学生会の委員は、公募による委員、クラスの代表委員、クラブの代表等によって組織され運営している。委員の互選により会長、副会長、会計、書記等が置かれている。

学生会の活動内容は、4月のオリエンテーション期間中のクラブ紹介、5月の体育祭、11月の斯花祭を主催し、また、夏期のオープンキャンパスにおいても学校紹介等の支援を行っている。

学園行事(斯花祭)の実施状況とその指導体制および学生の活動状況

本学の大学祭である斯花祭は、学生会により斯花祭実行委員会が組織され、11月に開催されている。クラブやサークルを初め、各ゼミナールや有志等が積極的に参加している。芸術系の発表会・演奏会、養護等の特殊スキルの実践的な体験講習会、調査・研究の報告会、展示パネル、各種の模擬店等、日頃の学習の成果を、高校生や卒業生、保護者、他大学の学生、さらには一般市民等へ広く公開し、本学の教育情報発信の基点となっている。以下に平成21年度斯花祭の参加団体一覧を掲載する。

平成21年度斯花祭部門別参加団体一覧

展示部門(17)

参加団体	内容
写真部《金賞》	写真展示・立体写真・ポートレート
書道部《銀賞》	斯花書道展
映画研究会	「キルビル」に見る映画考察
華道部	華道展(草月流)
近世史研究会	飛騨・高山について
近代史研究会	夏季研究旅行記
古代史研究会	京都・奈良の研究
古文書研究会	歌舞伎について
初等教育学科1年有志	エプロンシアター・作品展示他
中国語研究会	ニコライ堂、神田明神、東京国立博物館
中世史研究会	中世の文化と織田家臣団のくじ
東洋史研究会	ニコライ堂、神田明神、東京国立博物館
美術工芸部	作品展示・七宝焼体験・七宝焼販売
ピーナッツハウス	新型インフルエンザについて
漫画アニメーション部	イラスト展示・冊子販売
推理小説(ミステリ)研究会	作品展示・部誌販売
民俗学研究会	人を神に祀るー群馬県新田の里の社寺

公演部門(10)

箏曲部《金賞》	琴の演奏会
マジック研究会《銀賞》	マジックショー・トリックアート美術館
演劇部	公演「神に向かって中指を立てる」
ことのは会	絵本・詩集の朗読
コーラス部	「地平線のかなたへ・手紙」他
茶道部	お茶会
室内楽研究会	金管・木管・打楽器アンサンブル他
ダンス部	ダンスショー
人形劇部	公演「こびとのくつや」
フォークソング部	ライブ演奏

模擬店部門(19)

みるく倶楽部《金賞》	スバゲッティー・オムライス・ケーキ
考古学研究会《銀賞》	焼きうどん
博物館研究会・物と伝承の会《銀賞》	焼きそば
片柳寮有志	おにぎり
弓道部	パスタ
剣道部	カレー
紅茶とハーブティーの会	和風喫茶
国文学科創作文芸2年有志	作品販売
斯花わーくす	お菓子・アクセサリー
ソフトボール部	チョコバナナ

参加団体	内容
卓球部	クッキー
バスケットボール部	おでん
バドミントン部	たこ焼き
バレーボール部	からあげ・ポテト
フットサル部	とん汁
ペン字研究会	ロールクレープ
みたらし会	おしるこ
文芸部	駄菓子・部誌販売
落語研究会	ラーメン・和菓子

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

学生の休息・相互親睦・研鑽の場として、学生ホールと各クラブの部室棟を設けている。生活の場としては、食堂の完備、学用品・日用品を販売する売店、寮生の昼食のためのホール、憩いの場となるラウンジを設けている。そして、校地山麓を利用した心身のリフレッシュの場として、森林浴効果もある「思索の森」を設けている。さらに健康・精神生活の場として、保健室の充実、学生相談室の拡充等に配慮している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)の概要を示して下さい。

#### 学生寮の状況

学生寮については、学園が維持管理する女子寮を2棟設置(片柳寮、二杉寮)している。学寮の運営は、学生課長を担当者として寮委員会が設けられ、毎週連絡会をもち、各寮には常駐の寮監1人の他に、職員2人を配置している。

現在の学生寮の規模と入寮学生数を掲出する。

平成19年度～21年度の入寮者一覧

		1年生	2年生	計	合計
19年度	二杉寮	13	7	20	56
	片柳寮	20	16	36	
20年度	二杉寮	8	9	17	45
	片柳寮	11	17	28	
21年度	片柳寮	26	16	42	42
学年計		78	65	143	143

#### 下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制

本学では、学生課が下宿やアパートを斡旋する場合と、不動産屋をリストアップして紹介するものがある。

#### 通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置)

本学と最寄りの駅である栃木駅との間は、関東バスによる直通バスが運行されている。また、自転車通学者のために、学内に無料の駐輪場を十分に用意している。さらに、自動車通学者については、本学が地域住民に呼びかけて、廉価で駐車場を借りられるように斡旋している。

(5) 平成21年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

日本学生支援機構等の外部奨学金制度

平成21年度の日本学生支援機構奨学金受給者

平成21年度日本学生支援機構奨学金受給者数

は、右の表のとおりである。

短期大学独自の奨学金

	第一種	第二種	計
1年生	25	70	95
2年生	29	59	88
合計	54	129	183

本学では、一定額を定期的に与える奨学金制度は設けていない。しかし、家庭の経済基盤の急変や天災による救済支援のために、「佐々木奨学金」の制度が設けられている。また日々の生活支援としては、「学生金庫」の制度を設け、緊急の場合1万円を限度として無利子で貸し付けている。平成21年度の学生金庫利用者数は、5人である。

平成21年度からは、成績優秀者育英制度を設け、1年次成績優秀者の2年生を対象とし、全学で10人以内に奨学金として年額30万円を給付することとなった。また、学生表彰制度を設け、前記の優秀者に次ぐ学生10人に対し、賞状を授与し、報奨金5万円を支給することとした。

参考資料22「國學院大學栃木短期大学成績優秀者育英制度に関する規程」参照。

参考資料23「國學院大學栃木短期大学学生表彰制度に関する規程」参照。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

健康診断は、学校保健法に基づき学生個人の健康管理と増進を目的に、毎年4月のオリエンテーション期間中に実施している。健康診断必須検査項目は、身長、体重、視力、聴力、内科検診で、過去3年間の受診率は100%である。

学生の日常的な健康管理については、保健室において、保健担当教員・養護教諭・学校医が担当している。保健室には、養護教諭が常駐し、学生の生活管理の相談、個々のニーズに応じた支援が行われている。突発的な事故・傷病に対しては、医療機関へ送るまでの付添いや救急措置をするための整備がなされている。

メンタルケアやカウンセリングについては、心理学研究室教員とその任に対応できる経験者が担当している。早期に対処するために、担任や授業担当教員が学科長および事務長に学生の状況を報告し、心理学研究室教員と相談し適切なメンタルケアができる体制づくりを推進している。また学生相談室には、必ず心的な支援を行える教職員の委員を配置し、カウンセリングにあたっている。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

本学の「個人情報保護に関する規程」に基づいて、「國學院大學栃木短期大学学生カード」は教学部事務局において学生課長と教務課長が厳重に保管し、「進路希望調査票」については学生支援室が管理している。学生からの各種の相談に関しては、とくに学生支援室と学生相談室での相談記録は守秘義務を有するものとして厳正に管理している。また学

生の名簿や住所録については、非公開とし、学生の個人情報を保護している。

参考資料24「個人情報保護に関する規程」参照。

参考資料25「國學院大學栃木短期大学学生カード」参照。

参考資料26「進路希望調査票」参照。

### 【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成19年度～21年度 国文学科の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

区分		19年度		20年度		21年度	
a 卒業者数		84人		66人		67人	
b 就職希望者数	b/a	49人	58.3(%)	47人	71.2(%)	31人	46.3(%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	7人	14.3(%)	7人	14.9(%)	4人	12.9(%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	27人	55.1(%)	15人	31.9(%)	9人	29.0(%)
e 就職未定者	e/b	15人	30.6(%)	25人	53.2(%)	18人	58.1(%)
f 進学・留学希望者数	f/a	28人	33.3(%)	19人	28.8(%)	25人	37.3(%)
g その他	g/a	7人	8.3(%)	0人	0(%)	11人	16.4(%)

平成19年度～21年度 家政学科の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

区分		19年度		20年度		21年度	
a 卒業者数		84人		72人		56人	
b 就職希望者数	b/a	73人	86.9(%)	64人	88.9(%)	48人	85.7(%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	15人	20.5(%)	18人	28.1(%)	8人	16.7(%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	41人	56.2(%)	31人	48.4(%)	24人	50.0(%)
e 就職未定者	e/b	17人	23.3(%)	15人	23.5(%)	16人	33.3(%)
f 進学・留学希望者数	f/a	5人	6.0(%)	6人	8.3(%)	5人	8.7(%)
g その他	g/a	6人	7.1(%)	2人	2.8(%)	3人	5.4(%)

## 平成19年度～21年度 初等教育学科の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

区分		19年度	20年度	21年度
a 卒業者数		86人	48人	33人
b 就職希望者数	b/a	74人 86.0(%)	41人 85.4(%)	30人 90.9(%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	28人 37.8(%)	12人 29.3(%)	9人 30.0(%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	44人 59.5(%)	26人 63.4(%)	19人 63.3(%)
e 就職未定者	e/b	2人 2.7(%)	3人 7.3(%)	2人 6.7(%)
f 進学・留学希望者数	f/a	7人 8.1(%)	5人 10.4(%)	0人 0(%)
g その他	g/a	5人 5.8(%)	2人 4.2(%)	3人 9.1(%)

## 平成19年度～21年度 日本史学科の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

区分		19年度	20年度	21年度
a 卒業者数		60人	57人	54人
b 就職希望者数	b/a	24人 40.0(%)	25人 43.9(%)	22人 40.7(%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	5人 20.8(%)	8人 32.0(%)	0人 0(%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	11人 45.8(%)	11人 44.0(%)	10人 45.5(%)
e 就職未定者	e/b	8人 33.3(%)	6人 24.0(%)	12人 54.5(%)
f 進学・留学希望者数	f/a	32人 53.3(%)	29人 50.9(%)	30人 55.6(%)
g その他	g/a	4人 6.7(%)	3人 5.2(%)	2人 3.7(%)

## 平成19年度～21年度 商学科の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

区分		19年度	20年度	21年度
a 卒業者数		42人	37人	38人
b 就職希望者数	b/a	32人 76.2(%)	23人 62.2(%)	28人 73.7(%)
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	8人 25.0(%)	5人 21.7(%)	3人 10.7(%)
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	21人 65.6(%)	16人 69.6(%)	13人 46.4(%)
e 就職未定者	e/b	3人 9.4(%)	2人 8.7(%)	12人 42.9(%)
f 進学・留学希望者数	f/a	9人 21.4(%)	13人 35.1(%)	8人 21.1(%)
g その他	g/a	1人 2.4(%)	1人 2.7(%)	2人 5.3(%)

過去3か年の進路状況に関し、平成19年度は卒業生356人のうち、就職希望者は252人で、就職決定者は207人、決定率82%である。平成20年度は卒業生280人のうち、就職希望者は200人で、就職決定者は149人、決定率75%である。平成21年度は卒業生248人のうち、就職希望者は159人で、就職決定者は99人、決定率63%である。

進学者の割合は、平成19年度は23%、平成20年度は26%、平成21年度は27%であり、四年制大学への編入学や専門学校への進学は、25%前後とほぼ一定している。進路未決定者の割合は、平成19年度は20%、平成20年度は23%、平成21年度は34%である。

#### 国文学科

就職先の業種は、教育関連・小売業・サービス業関係・印刷・公務員等である。平成18年度以降、進学決定者数が就職決定者数を上まわっている。本年度の四年制大学への編入学者は22人(33%)であった。

#### 家政学科

就職先の業種は、医療事務関係および臨時採用を含めた養護教諭が多く、就職決定者の半数を占める。ただし、養護教諭の場合は、ほとんどが臨時採用か非常勤採用であり、専任採用が大幅に減少している点が、ここ数年の状況である。なお進学者は、5～10人前後である。

#### 初等教育学科

本学科の卒業生は、平成19年度～平成21年度では、就職希望者の85%以上が幼稚園、小学校及び学童保育や支援学級などの教育施設、福祉施設へ就職している。数名が、一般企業への就職を果たしている。進学者は、平成19年度、20年度には8～10%の希望者がおり、全員が進学しているが、平成21年度は、進学希望者はいなかった。

#### 日本史学科

就職先の業種は、教育関連・サービス業や小売業等のばらつきが認められる。進学は、卒業生数割合の55%ほどである。國學院大学への編入学が23名と多いが、推薦枠30名を満たしていないことは、残念である。

#### 商学科

就職先の業種は、製造業・建設業・小売業・サービス業等と、偏りなく多様であるが、近年、就職決定者数の割合はほぼ90%と安定していたが、21年度は世界的金融危機の影響によって約60%で、より一層の就職対策の必要性を感じている。なお進学者は10人前後だが、平成21年度は漸減し、卒業生に対する割合は21%である。

参考資料27「進路一覧(業種別進路一覧、都道府県別就職者数一覧、進路未決定者数一覧、学科別・業種別進路一覧)」参照。

(2) 学生の就職を支援する組織や体制(教員組織、事務組織のいずれも)の現状を記述して下さい。

本学卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校の教育職、一般企業への就職、そして開学時からの母体である國學院大学を中心とする四年制大学への編入学、これら3者にほぼ大別される。したがって、そのための進路支援は、就職支援と進学支援の両面から推進している。

就職支援は、学生委員会が当たっている。学生委員会は、「就職のための一般教養対策講座」を開設している。また初等教育学科では、「私立幼稚園教諭採用試験対策指導」を実施し、家政学科では、「教員採用試験支援講座」を開いている。そして学生課は商学科教員と連携して、就職支援講座「キャリアプランと職業」、就職ガイダンス、インターンシップ、就職適性検査、就職模擬試験、エントリーシート対策テスト等を組織的に推進している。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

就職支援と進学支援を目的として、学生課が運営する学生支援室を西1号館2階に設けている。平日は午前9時から午後5時(土曜は午後1時)までを利用時間としている。学生支援室内には、一般企業・幼稚園・医療福祉等に分類した求人票ファイル、先輩の就職試験受験報告書、各種公務員試験実施要項、就職情報誌、編入学関係資料、参考図書等が配架され、閲覧が可能である。求人票と編入学実施大学一覧は、学生ホールに掲示板を設けて公開している。またパソコンを設置して、学生が自ら目的の企業や大学を検索し情報を入手し、求人先にエントリーすることができる環境を整えている。学生支援室には、専任職員を配置して、情報収集と企業等との連携を図るとともに、学生の個別面談を実施し、個々の希望に対応した就職支援および進学支援の強化に努めている。

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### 学長

全学科を通して、就職先と、その業種の多様化が年々感じとれてはいたが、殊に平成21年度にあっては顕著である。併せて、学校斡旋による就職決定者の比率が減少していて、多角的な職業開拓の取り組みが必要である。もちろん、初等教育学科・家政学科は、この厳しい時代のなか、一定の成果を挙げている。日本史学科・国文学科、続いて、商学科も進学希望者の比率が高く、進路指導は、個別指導を尊重していかなければならなくなってきた。その方向の確認をして取り組んでいきたい。

#### 国文学科

本学科では、四年制大学への編入学がほぼパーフェクトに近い実績を上げている。それに比べ、就職の方は、19年度が49人中34人(決定率69%)、20年度が47人中22人(決定率46%)、21年度が31人中13人(決定率42%)とやや不振である。就職先を地域別にみると、栃木県内は19年度が15人、臨時採用・契約社員を含めると20人で、20年度が13人、21年度7人、臨時採用を含めると8人、全就職決定者の62%をしめる。県内の就職指導に力を注いでいきたい。一般的に行われている学生の会社訪問はもちろん大切だが、栃木という地域性を考慮して、県内企業への大学からの積極的な働きかけが必要であると考えます。

#### 家政学科

本学科では、就職者は養護教諭(臨時採用を含む)・医療事務関係がもっとも多い。他に家庭科教諭(臨時採用)・学校教育事務・J A 飲食宿泊業等もいる。本学科で学習したことを活

かすことのできる職についている者が多いといえる。教員採用試験の現役合格率は、決して高くはないが、卒業後に、臨時採用の教員として働きながら、採用試験を受けて毎年十数人が合格している。本学の卒業生の努力と実力は、大いに認められるべきである。一方、卒業時における進路未決定者が、過去3か年間の平均が20%以上であることは、大きな課題である。今後は、就職への意欲をさらに喚起するとともに、公務員や一般企業等への就職も選択肢として広めていきたい。

#### 初等教育学科

平成19年度～平成21年度にかけての就職状況は、卒業生のほとんどが幼稚園教諭や小学校教諭として就職している。就職地域は、栃木県が一番多く、近隣の茨城県、群馬県、埼玉県である。小学校教諭として就職希望するには、採用試験と採用人数が厳しい県よりも、埼玉県、東京と、神奈川県、千葉県などの採用者数が多い県への就職を希望する卒業生が増えることが望まれるが、教員採用試験が重なっており、どうしても栃木県およびその近隣県への希望者が多くなっている。

平成21年度では、幼稚園に就職した者は60%、小学校に就職した者は10%、特別支援学校等に就職した者は7%、その他一般企業等が13%である。

#### 日本史学科

過去3か年における就職希望者は、40%前後で推移し、その内、半数が就職を決定した。平成21年度の就職先は多岐にわたるが、就職を決定した者は10人で、その内8人が正規雇用である。また今年度は、出身地の地方公務員に男子1名が就職したが、近年ないことで特筆すべきことである。

#### 商学科

19年度・20年度の就職率は、いずれも90%に達していたが、21年度の本学科の就職状況は、サブプライムローン危機の影響による日本経済の不況、失業率の急増のあおりを受け、悪化した。本学科では独自に、SPI試験対策を実施し、また基礎ゼミで将来の進路について面接・指導し、職業意識を喚起している。2年次の専門ゼミでは就職活動中に絶えず相談に応じ、進行状況の調査をして、適切に就職指導をしている。また研究室に、就職サイト、就職セミナー等の情報を掲示している。今後は、新規企業の開拓が必要と思われるが、景気悪化への対策の強化が必要である。また就職後の離職率、就業期間、離職理由等についても制度化して調査する必要がある。

参考資料27「進路一覧(業種別進路一覧、都道府県別就職者数一覧、進路未決定者数一覧、学科別・業種別進路一覧)」参照。

(5) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

過去3か年において、進学希望者はほぼ一定数で推移している。本学では姉妹法人の國學院大学3年次に、国文学科・日本史学科・商学科から推薦編入学の特典が認められている。また近年、各学科から、全国の国公立大学へも編入学している。

進学実績は、平成19年度は國學院大学が57人、その他が24人、平成20年度は國學院大学が51人、その他が19人、平成21年度は國學院大学が53人、その他が4人である。

進学支援においては、教務課と教職員による教務委員会が組織的に対応している。1年次には、編入学の可能な四年制大学の説明会を、教職員が学科ごとに実施している。過去の編入学実績や入試問題の傾向、編入学後の単位認定等の情報提供を中心に行っている。また、2年次には、編入学のための特別講座や支援講座を開講するとともに、編入学担当教員による個別指導を実施している。そこでは、希望学生全体への試験対策、編入学希望大学に対応した個別の面接試験対策や小論文試験添削等の指導を行っている。さらに、編入学が決定した学生に対しては、編入学後の勉学や学生生活が円滑に進むようにガイダンスを開催している。

参考資料28「編入学・進学等一覧」参照。

### 【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況(平成19年度～21年度)

種別	19年度	20年度	21年度	計
留学生(人)	0	0	3	3
社会人(人)	0	1	1	2
帰国子女(人)	0	0	0	0
障害者(人)	1	0	0	1
長期履修学生(人)	0	0	0	0
科目等履修生(人)	11	5	6	22

学習支援と生活支援の方法と体制については、直接的に、支援する専門の教職員は選任していないが、事例が発生した場合には、それぞれの状況に応じて対応している。具体的な支援には、学生課・教務課、学生が所属する学科の教職員で対応している。とくに平成19年度には、身体障害の学生を受け入れたが、本人と保護者と関係教職員との意思の疎通を図り、支援体制を確立した。

### 【特記事項について】

(1) この《学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

学生の個人情報保護への取組みについては、本学の「個人情報保護に関する規程」に

基づき、学生の個人情報である住所・電話番号・成績・進路等、学生課および教務課を中心にその保護を厳重に遵守し、非公開を原則としている。とくに名簿等は、ナンバーを付して保管している。

また成績不良者への支援については、教務課が組織的に実施している追試験・再試験はもとより、授業担当の教員による個別指導によって、成績不良者を減らしている。長期欠席者に対する援助は、基本的には授業時に受講生の出欠をとり、教務課が各教員から欠席回数の多い学生の情報を取りまとめている。さらに長期欠席者については、本人または保護者に連絡し、個人面談を実施して、本人の意思を確認して授業への出席を指導している。

さらに学生に対する表彰制度としては、2年間の学業優秀者には、卒業式において、各学科1人ずつ佐々木賞(賞状とトロフィー)を授与し、表彰している。平成21年度からは、表彰制度を設け、1年次の成績優秀者10人に賞状を授与し、報奨金5万円を支給している。

参考資料23「國學院大學栃木短期大学学生表彰制度に関する規程」参照。

参考資料24「個人情報保護に関する規程」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

# 研究

## 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

専任教員の研究実績は、下表のとおりである。過去3か年(平成19年度～21年度)の専任教員の研究状況は、個人差があるが、全体としては意欲的に行われている。

平成19年度～21年度 専任教員の研究実績表

学科名	氏名	職名	研究業績					国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	展覧会 演奏会等	その他			
国文学科	中村 幸弘	学 長	5	12	3	0	3	有	有	
	林田 孝和	教 授	1	6	0	0	4	無	有	
	岡本 岱	教 授	1	0	12	0	0	無	有	
	田中 憲二	教 授	1	0	0	0	0	無	有	
	千明 守	教 授	2	2	1	0	3	無	有	
	塚越 義幸	教 授	2	3	4	2	0	有	有	
	南 芳公	教 授	1	2	0	0	10	無	有	
	村山 昌俊	教 授	1	1	0	0	0	無	有	
家政学科	大山 尚	准教授	1	0	0	0	1	無	有	
	北村 奉正	教 授	0	1	2	0	6	無	有	
	山内 見和	教 授	0	0	0	0	0	無	有	
	湯川 晴美	教 授	2	1	5	0	1	有	有	
	田中 宗彦	教 授	0	23	12	0	1	有	有	
	小川 浩子	准教授	2	1	0	0	0	無	有	
	亀井 佑子	准教授	2	2	10	0	1	有	有	
	人見 亮子	講 師	0	0	0	0	0	無	有	
初等教育学科	永田 晴子	講 師	1	1	3	0	1	有	有	
	大西 秀彦	教 授	0	0	0	0	2	無	有	
	小川 澄江	教 授	0	3	1	0	0	無	有	
	小川 裕二	教 授	0	0	0	23	2	無	有	
	坂口 耕史	教 授	0	1	0	0	0	無	無	
	杉浦 佐知	教 授	1	0	0	13	0	無	有	
	田中 力	教 授	0	0	0	0	0	無	有	
	正木 孝昌	教 授	1	0	0	0	0	無	有	
	鷺崎 直子	教 授	0	0	0	19	7	有	有	
	渡辺 千歳	教 授	0	1	0	0	1	無	有	
	栗原 和子	准教授	0	0	0	0	0	無	有	
	後藤 正人	准教授	0	1	4	0	1	無	有	
早川富美子	准教授	0	3	1	3	3	無	有		
石川 昌紀	講 師	0	1	5	0	2	無	有		

学科名	氏名	職名	研究業績					国際的 活動の有無	社会的 活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	展覧会 演奏会等	その他			
日本史学科	田中 正弘	教授	2	1	2	0	3	無	有	
	鍛代 敏雄	教授	3	1	6	0	8	無	有	
	酒寄 雅志	教授	5	4	2	0	3	有	有	
	松本 隆晴	教授	0	2	0	0	1	有	有	
	小林 青樹	准教授	1	11	6	0	0	有	有	
	佐多 芳彦	准教授	1	6	0	0	1	無	有	
	坂本 達彦	講師	2	3	0	0	3	無	有	
商学科	秋山 誠一	教授	1	3	2	0	1	無	有	
	河田美恵子	教授	12	0	0	0	8	無	有	
	寺崎 宣昭	教授	0	1	0	0	1	無	有	
	中塩 聖司	教授	0	2	0	0	1	無	有	
	室井 一夫	教授	0	0	0	0	0	無	有	
	堀江 則之	講師	0	3	0	0	2	無	有	
	吉田真理子	講師	0	3	0	0	1	無	無	
教養科目担当	飯田 学而	教授	1	0	0	1	0	無	無	
	石山 育朗	教授	0	6	9	0	0	無	有	
	金柿 玲子	教授	0	0	0	0	0	無	有	
	佐藤 圭一	教授	0	0	2	0	3	無	有	
	田沼 眞弓	教授	0	3	1	0	0	無	無	
	前田シン子	教授	0	0	1	0	0	無	有	
	山本 博子	教授	0	2	1	0	0	無	無	
	渡邊 敏一	教授	0	1	1	0	0	無	有	
太田 映子	准教授	0	1	0	0	0	無	無		

参考資料29「過去3か年の教員個人の研究業績書(教育研究業績書、社会的活動)」参照。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

教員個人の研究活動の公開については、ホームページ上の学科の教員紹介で個人プロフィールを公開している。また、本学の『國學院大學栃木短期大学紀要』(以下『紀要』と略称する)に、研究活動の公開を行うように計画している。

参考資料30「國學院大學栃木短期大学紀要」参照。

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。

過去3か年(平成19年度～21年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況を以下の一覧表に示す。

## 外部研究資金の申請・採択状況(平成19年度～21年度)

(件数)

外部資金調達先等		19年度			20年度				21年度			
		申請	採択	研究協力者	申請	採択	研究分担者	研究連携者	申請	採択	研究協力者	研究連携者
科学研究費補助金		4	1	3	7	1	1	2	6	1	3	1
その他の外部研究資金	(財)アサヒビール 学術振興財団				1	1						
	総務省戦略的情報通信 研究開発推進制度				1	1			1	1		

参考資料31「過去3か年の科学研究費の申請・採択等」参照。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

日本史学科では、平成20年度から、栃木市の商工会議所と産学協同の事業の一環として、太平山神社の所蔵する古文書と年中行事を学生と教員が協力して調査・研究を行っている。地域の歴史文化遺産を教育に活用することで、地域社会に文化的に貢献できる知識と技術を習得するための共同研究である。また、産官学連携事業「蔵の街ネットワーク」とちぎの良さ再発見調査として、平成21年度「『とちぎ』と太平山」総合調査を実施した。栃木市のランドマークである太平山の歴史遺産を研究して、「栃木の良さ再発見」に努めた。

## 【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

本学の研究費の内訳は、研究旅費、研究用機器備品費、研究用消耗備品・研究用消耗品および研究用図書費である。学会出張は「國學院大學栃木学園教職員旅費規程」に則り、国内で年1回、実費が支給されている。研究用機器備品費は、主にパソコン等の購入に当てている。研究用図書費は、専任教員1人当たり年間11万円を限度に予算を計上し、実費が支給されている。

参考資料32「研究に係る経費の内訳(平成19年度～21年度)」参照。

参考資料33「國學院大學栃木学園教職員旅費規程」参照。

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

本学では、研究成果を発表する機会を確保するために、次の研究紀要・論文集等を刊行

している。

参考資料30「國學院大學栃木短期大學紀要」参照。

参考資料34「野州國文學」参照。

参考資料35「栃木史学」参照。

参考資料36「國學院商学」参照。

参考資料37「野州叢書 1 日本文学における生と死」参照。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

教員の研究に係わる機器や備品については、各研究室の必要性等を勘案して、整備を行っている。平成21年度においては、研究室パソコンのバージョンアップをはじめ、研究用の備品・消耗品に要する経費として、1,445,000円を支出した。また、研究用図書費については、平成21年度は2,984,000円を支出した。

参考資料32「研究に係る経費の内訳(平成19年度～21年度)」参照。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

専任教員には、1～3人程度で研究分野が同じ者を1室としての研究室が、計35室用意されている。非常勤の場合は、共用の教員室が設けられている。研究室には、机、椅子、電話、パソコン、ロッカー、空調等が完備している。実験室としては、理科実験室・栄養食品実験室・被服学実験室等がある。また、平成21年より保育実習室を新設した。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

本学の教員の研修日は、週2日取れるように努力している。しかし、会議等必要に応じて研修日でも出校することがある。研究時間については、近年、会議や事務処理、講義以外での学生相談・支援、クラブ活動等の時間が増加してはいるが、十分に確保されている。

### 【特記事項について】

(1) この《研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 社会的活動

### 【社会的活動(国際的活動は別項で記述)への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

高等教育機関の使命は、教育と研究を通して、知の創造と伝承を行うものであり、教育と研究そのものが社会貢献であることはいうまでもない。しかしながら、社会的趨勢は、研究成果のより有効で積極的な社会的還元を促している。短期大学においても、研究成果の地域社会への還元について、具体的な提案や行動が強く求められている。本学では、社会的活動に取り組み、「開かれた短大」をめざすことによって、地域社会の活性化と持続的発展に寄与することを基本理念としている。

社会的活動の取組みとして、本学では年8回の「公開講座」を実施している。また、初等教育学科による定期演奏会や地域の小学校との交流、日本史学科による市内の古墳の発掘調査や古文書整理では、学生も参加して取り組んでいる。専任教員は、国や自治体の各種委員会・審議会等の委員として積極的に活動している。図書館は、他大学との共同利用や、地域社会に開放するシステムを模索している。参考館は、無料で一般に公開している。さらに教育センターでは、本学主催の公開講座や展示会等を催し、地域社会から好評を博している。

本学では、学生の社会的活動への取組みを、授業では修得できない貴重な学習体験として、短期大学教育に位置づけている。また、地域社会と連携して社会的活動の機会を増やし、積極的に取り組むことで、教育や研究活動の成果を発表し、情報を発信するセンターの役割を果たしていくように努めている。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人の受け入れについては、平成11年度から、入学試験に「社会人入試」枠を設け、その結果、平成18年度には2人、平成20年度には1人が入学している。

社会人入学生については、修学環境を整え、学業支援を積極的に行っているが、資格取得の支援や進路支援も大事であり、支援体制を整えている。社会人入学生が、安心して勉学のできる環境を作る努力をしている。今後も社会人の入学を増やす方策を検討している。

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学では、各学科の教員による大学主催の公開講座を、昭和61年から毎年秋に開講してきた。地域社会からの要望を受けて、平成11年度から日本文学と古文書についての公開講座を開講し、さらに平成13年度から日本史学科が、平成16年度から国文学科が独自の公開講座を開講している。日本史学科の学外公開講座は宇都宮市教育委員会の後援を、他の公

開講座はすべて栃木市教育委員会の後援を得て行われている。

公開講座の多くは、教育センターで開講しているが、日本史学科主催の学外公開講座は宇都宮市で開講している。各公開講座の受講者は50～200人である。各公開講座ではアンケートを実施し、次回の講座に活かしている。

日本史学科は、毎年夏季休暇中に高校生のためのサマースクールを3日間行っている。

参考館では、地域の収蔵品を中心に、斯花祭の期間にあわせて無料の特別展示を行っている。

教育センターでは、岡野弘彦前学長他数名の寄贈による「近代短歌文庫」を講座受講者に公開している。また、絵画展示会や短歌教室を開催している。

正規授業の開放として、科目等履修生(聴講生を含む)の制度がある。平成19年度は科目等履修生11人(聴講生4人)、平成20年度は科目等履修生5人(聴講生4人)、平成21年度は科目等履修生8人(聴講生7人)である。地域の生涯学習に貢献するものとして、平成20年度から、国文学科による「オープンカレッジ」がスタートした。平成20年度は120名、平成21年度は227名が地域から受講している。

過去3か年の公開講座等の実施状況は、以下のとおりである。

#### 公開講座

年度	講座名	担当	期間
平成19年度	古文書を読む - 刃傷松の廊下の記録を読む - (春) - 箱館戦争の「外務省記録を読む」 - (秋)	日本史学科	5月23日～6月27日(全5回) 10月17日～11月21日(全5回)
	日本史学科公開講座 歴史にみる文明と文化 (学内) 歴史にみる文明と文化 (学外)	日本史学科	5月26日～6月23日(全5回) 10月20日～12月1日(全3回)
	公開講座 社会人のための教養講座	全学	9月29日～11月24日(全6回)
	国文学科公開講座 日本文学における 生 と 死	国文学科	1月26日～3月8日(全6回)
平成20年度	古文書を読む - 江戸幕府の法令とその伝達 - (春) - 幕末維新期の御触書と風説留 - (秋)	日本史学科	5月21日～6月25日(全5回) 9月17日～10月22日(全5回)
	国文学科オープンカレッジ 建礼門院右京大夫集を読む	国文学科	5月13日～7月1日(全8回)
	日本史学科公開講座 歴史にみる文明と文化 (学内) 歴史にみる文明と文化 (学外)	日本史学科	5月24日～6月21日(全5回) 10月18日～11月8日(全3回)
	公開講座 社会人のための教養講座	全学	9月29日～11月1日(全6回)
	国文学科公開講座 「ことばと文学」	国文学科	1月31日～3月14日(全6回)
平成21年度	古文書を読む - 幕末の「御用留」を読む - (春) - 幕末の「旅行用心集」を読む - (秋)	日本史学科	5月27日～7月1日(全5回) 10月7日～11月11日(全5回)
	国文学科オープンカレッジ おくのほそ道を読む	国文学科	5月14日～7月2日(全8回)

年度	講座名	担当	期間
平成21年度	日本史学科公開講座 歴史のなかの人間(学内) 歴史のなかの人間(学外)	日本史 学科	5月23日～6月20日(全5回) 10月3日～10月31日(全3回)
	公開講座 『源氏物語』の魅力さをさぐる	全学	10月3日～11月7日(全6回)
	国文学科公開講座 日本文学における“笑い”	国文学科	1月23日～3月13日(全6回)

## 参考館企画展示

年度	企画展示テーマ	期間	展示品
平成19年度	京洛風俗図屏風展	11月16日～12月6日	館蔵資料の展示
平成20年度	企画展 現代絵馬の世界 - 絵馬に願いを込めて -	11月8日～11月22日	館蔵資料と借用資料の展示
	京洛風俗図屏風展	11月23日～11月31日	館蔵資料の展示
平成21年度	原人・旧人の石器 - 握斧の移り変わり -	11月21日～12月21日	寄託資料の展示

## 教育センター企画展示・短歌教室

年度	展示・教室名	期間
平成19年度	春季短歌教室	4月24日～7月3日(全6回)
	松本哲男・相田みつを展	5月9日～6月30日
	秋季短歌教室	9月25日～3月4日(全8回)
平成20年度	前期「短歌教室」	4月22日～7月15日(全7回)
	米陀寛・松本哲男作品展	5月8日～6月30日
	後期「短歌教室」	9月30日～3月3日(全10回)
	企画展 現代絵馬の世界 - 絵馬に願いを込めて -	平成21年1月8日～2月14日
平成21年度	春季短歌教室	4月21日～7月28日(全8回)
	第1回栃木の作家と棟方志功	6月1日～7月11日
	秋季短歌教室	9月29日～3月2日(全10回)

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

本学は、各学科の特性を活かしながら、教員の研究成果や学生の勉学の成果を、地域社会の活性化に還元することが重要な使命であると考えている。そこで、初等教育学科では、音楽担当の専任教員と初等教育学科の全学生が参加し、日頃の研究と勉学の成果を年1回「定期演奏会」で発表し、一般公開している。「定期演奏会」は、学生による合唱と器楽演奏、専任教員の独唱が中心で、昭和54年に始まり平成21年度で32回目を迎えている。会場は栃木市文化会館が恒例化している。

平成18年度からは、岩舟町立小野寺南小学校からの依頼により、「表現活動鑑賞会&交流」と名付けられた専任教員と学生が参加する交流を行っている。初等教育学科の音楽担当の専任教員と学生50人ほどが小野寺南小学校を訪問し、学生による表現活動の鑑賞や、

児童との音楽づくり、遊びや給食をともにしている。

日本史学科では、専任教員と学生が参加して、大平町歴史民俗資料館の依頼による古文書の整理や、市内圓通寺にある古墳の発掘調査、新潟県の縄文時代の山下遺跡の調査を新潟県立歴史博物館と提携して行い、またそれらの成果を参考館で公開している。

平成19年度から、本学は栃木市における産学官連携事業を推進するための「栃木商工会議所産学官連携事業推進委員会」に参加した。

平成20年度には、産学官連携事業は「蔵の街トライアングルネットワーク」として組織化され、6つの推進研究テーマのうち、製粉加工技術研究グループ「おいしいソバ粉を作ろう」では家政学科教員が、連携拠点事業グループ「地域資源を活用して、栃木のよさをアピールしよう」のうち、「歴史的建造物を活用する街の活性化」では、初等教育学科の美術担当教員と学生が、「とちぎの良さ再発見」では、日本史学科教員と学生、家政学科教員と学生が、テーマにそった調査研究を行い、その成果を発表した。この事業は平成21年度へと継続し、調査から具体的事業に発展する予定である。

#### 初等教育学科「定期演奏会」

回	期 日	会 場	演 目	入場者数
第30回	平成19年12月1日	栃木市文化会館	混声合唱と器楽合奏による『クリスマス・ソング』 1)もろびとこぞりて 2)あら野のはてに 3)あわてんぼうのサンタクロース等	700人
第31回	平成21年1月18日	栃木市文化会館	混声合唱と器楽合奏による 1)怪獣のパラード 2)時代等	700人
第32回	平成22年2月11日	栃木市文化会館	混声合唱と器楽合奏による 1)上を向いて歩こう 2)夜空ノムコウ	500人

#### 初等教育学科「表現活動鑑賞会 & 交流」

回	期 日	交 流 先	参 加 学 生 数
第1回	平成18年7月12日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科2年生45人
第2回	平成19年2月27日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生52人
第3回	平成19年7月13日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生52人
第4回	平成20年2月26日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生50人
第5回	平成20年7月26日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生48人
第6回	平成21年2月17日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科2年生25人
第7回	平成21年9月25日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生38人
第8回	平成22年2月25日	岩舟町立小野寺南小学校	初等教育学科1・2年生17人

## 日本史学科古文書・発掘調査実習

年度	活動内容	期間	参加人数	提携先
平成19年度	新潟県山下遺跡の調査	8月3日～8月12日	専任教員1人 学生10人	新潟県立歴史博物館
	白石家古文書の整理	7月18日～7月20日 12月11日～12月13日	専任教員4人 学生70人	大平町歴史民俗資料館
	圓通寺古墳の発掘調査	8月21日～8月29日	専任教員1人 学生50人	栃木市圓通寺
平成20年度	高田藤八家文書の整理	7月15日～7月17日	専任教員3人 学生35人	参考館
	圓通寺古墳の発掘調査	8月21日～8月29日	専任教員1人 学生40人	栃木市圓通寺
	太平山神社文書の整理	12月15日～12月16日	専任教員3人 学生41人	太平山神社
平成21年度	太平山神社文書の整理	8月7日～8月9日	専任教員3人 学生38人	太平山神社
	塚田家文書の整理	12月21日～12月22日	専任教員3人 学生21人	塚田家
	圓通寺古墳の発掘調査	9月15日～9月22日	専任教員3人 学生35人	栃木市圓通寺

## 【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

学生の社会的活動は、大別すると学生が個人として行っているものと、クラブ活動等の一環として行っているものがある。個人として行う社会的活動には、献血がある。献血は日本赤十字社栃木県支部の依頼により、教職員や学生の有志が献血に協力している。毎年6月末に日本赤十字社栃木県支部の献血車が本学に来て、献血を行っている。

本学で地域社会との交流を推進するクラブは、文化系クラブを中心としている。文化系クラブは、日頃の練習の成果を発表することで地域の人たちと交流し、あるいはボランティア活動として地域に貢献している。また本学ではボランティア活動を目的とするクラブ「みたらし会」があり、さまざまなボランティアを行っている。

## 学生の社会的活動

年度	サークル名	期日	活動内容	会場
平成19年度	みたらし会	7月	栃木市そのべ児童館夏休みボランティア	栃木市そのべ児童館
	みたらし会	8月	栃木市そのべ児童館夏休みボランティア	栃木市そのべ児童館
	みたらし会	10月	栃木市文化祭	栃木市文化会館
	みたらし会	10月	「街を遊ぶ忍者ごっこin栃木」	栃木蔵の街観光館
	みたらし会	10月	あゆみ園運動会	県立栃木養護学校
	みたらし会	10月	とちぎ協働まつり	栃木市総合運動公園
	みたらし会	10月	第28回市民健康まつり	福田屋百貨店栃木店
	みたらし会	12月	クリスマス会	栃木市保健福祉センター

年度	サークル名	期日	活 動 内 容	会 場
平成 19 年度	コーラス部 室内楽研究会	12月	第30回定期演奏会	栃木市文化会館
	人形劇部	12月	第30回定期公演会	栃木市文化会館小ホール
	書道部	1月	斯花書展校外展	栃木市文化会館展示室
	箏曲部	2月	二杉幼稚園コンサート	國學院大學栃木二杉幼稚園
平成 20 年度	人形劇部	7月	食育についてのパネルシアター	栃木市大宮地区公民館
	みたらし会	10月	あゆみ園運動会	県立栃木特別支援学校
	みたらし会 人形劇部	10月	とちぎ協同まつり	栃木市総合運動公園
	室内楽研究会	10月	栃木[蔵の街]音楽祭りレーコンサート	栃木市文化会館
	みたらし会	10月	栃木市文化祭	栃木市文化会館
	みたらし会	11月	栃木まつりに参加	栃木山車会館
	みたらし会	12月	クリスマス会	栃木市勤労者総合福祉センター
	人形劇部	12月	第31回定期公演会	栃木市文化会館小ホール
	コーラス部 室内楽研究会	1月	第31回定期演奏会	栃木市文化会館
	書道部	1月	斯花書展校外展	栃木市文化会館展示室
箏曲部	3月	二杉幼稚園コンサート	國學院大學栃木二杉幼稚園	
平成 21 年度	みたらし会	11月	放課後子ども教室	栃木市第六地区コミュニティーセンター
	みたらし会	11月	栃木市文化祭	栃木市文化会館
	人形劇部	12月	第32回定期公演会	おおひら町民ホール
	みたらし会	12月	クリスマス会	栃木市保健福祉センター
	コーラス部 室内楽研究会	2月	第32回定期演奏会	栃木市文化会館
	箏曲部	3月	二杉幼稚園コンサート	國學院大學栃木二杉幼稚園

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学では学生の社会的活動について、学生の安全性を最大限に考慮しながら、積極的に支援している。学生は、社会的活動を通して、授業では学ぶことのできない情報や技術を習得し、社会人としての役割や規範等も学習することができる。

過去3か年の学生の社会的活動をみると、本学の学生は積極的に取り組んでいると評価できる。学生の社会的活動が、地域社会の活性化に貢献している。今後は、さらに多数の学生が自発的に社会的活動に取り組むことができるように、地域のさまざまな機関や団体等と緊密に連携を取りながら、支援していきたい。

## 【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学 長期・短期を含む)の状況を記述して下さい。

本学と学術・文化交流協定を結んでいる、漢陽女子大学日語通訳科から、韓国と日本国で結ばれている韓日大生交流事業により、韓国の大学へ留学する日本人の短期留学生2名を本学から迎え入れる招請があり、推薦することにした。留学は、漢陽女子大学日語通訳科に所属し、日語通訳科の学科長が指定する科目を受講することが条件であるため、本学国文学科学生を対象とし、公募とした。その結果、複数の者が応募したため、審査を行い、2名を派遣することとした。期間は、3月1日から、8月28日である。

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成19年6月に韓国・漢陽女子大学の日語通訳科の教員・学生が研修の一環として来学し、本学学生と交流したことを契機に、平成19年11月に、漢陽女子大学と「教育・学術交流に関する協定」を結んだ。平成20年度には、学長他、国文学科の教員、事務職員が推進役として、提携した協定の事業に取り組んでいる。前年度に続き、漢陽女子大学日語通訳科の教員3名と学生39名が6月26日、27日に来校し、国文学科の学生と教員との交流会を行った。平成21年度には、漢陽女子大学日語通訳科の教員3名と学生38名が6月22日から24日まで、2泊3日の予定で来校した。本年度は、前年までの交流をさらに発展させ、6月23日・24日の1泊2日、学園教職員の家庭がホストファミリーとなりホームステイを行った。

参考資料19「漢陽女子大学生編入学試験要項」参照。

参考資料38「日本国國學院大學栃木短期大学と韓国漢陽女子大学の教育・学術交流に関する協定書」参照。

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

研究および教育のグローバル化の中で、教職員の留学・海外研修は、その重要性を高めている。本学では教職員の短期留学制度として、勤続20年の教職員に海外研修の機会を設けている。過去3か年での該当者は1人である。

平成19年度に文部科学省の科学研究費補助金によって、海外で調査等を行った教員は2人、平成20年度は3人、平成21年度は1人である。その目的・期間・派遣先は、次の表のとおりである。

年 度	氏 名	目 的	期 間	派 遣 先
平成19年度	小林青樹	調 査	7月23日～7月26日	韓国
	酒寄雅志	調 査	12月22日～12月29日	中国
	酒寄雅志	調 査	2月26日～3月5日	韓国

年 度	氏 名	目 的	期 間	派 遣 先
平成20年度	永田晴子	研究報告	7月25日～8月7日	スイス
	小林青樹	調 査	9月21日～9月24日	韓国
	酒寄雅志	調 査	12月21日～12月28日	中国
平成21年度	小林青樹	調 査	10月21日～10月28日	韓国

### 【特記事項について】

(1) この《社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、高大連携の活動として、併設の高等学校の要請に応じて、出前授業を行ってきている。平成20年度、21年度には、併設の中学校から「総合授業」の一環として、年3回、計3人の出前授業の要請があり、国文学科、家政学科、日本史学科の教員を派遣した。

日本史学科と商学科は、出前授業の講座と担当者一覧である「國學院大學栃木短期大学日本史学科出張講座」「國學院大學栃木短期大学商学科出張講座」を作成し、近隣の高校からの要請に応じている。

平成17年度に、栃木県下の高等教育機関が協同して、地域住民と連携し、地域の活性化事業に参画し、魅力ある栃木県づくりに貢献する目的で「大学コンソーシアムとちぎ」が結成され、本学も参加している。

参考資料38「日本国國學院大學栃木短期大学と韓国漢陽女子大学の教育・学術交流に関する協定書」参照。

参考資料39「大学コンソーシアムとちぎ」参照。

参考資料40「國學院大學栃木短期大学日本史学科出張講座」参照。

参考資料41「國學院大學栃木短期大学商学科出張講座」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 管理運営

### 【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

本学園は法人の沿革(本報告書2頁)に記したとおり、昭和35年4月、学校法人國學院大学が高等学校を設置したことに創まる。高等学校の順調な発展に伴い、昭和38年3月11日、所轄庁の認可を得て学校法人國學院大學栃木学園を設立し、高等学校の経営を継承した。この法人は、高等学校創立の経緯に基づき、地域の特色を活かして組織された理事会ならびに評議員会によって運営されている。管理運営は法人の目的たる事業の発展を期すために私立学校法等を遵守し、所轄庁の指導を受けながら理事長がリーダーシップを取り、法人の運営はもとより設置する学校の経営についても建学の精神の顕現発揚発展に努め今日に至っている。

近年、私立学校法は平成16年5月12日に一部改正が公布され、平成17年4月1日に施行された。改正の骨子の一つは監事制度であるが、この法人は設立時から監事は理事会ならびに評議員会に出席し、私立学校法第37条第3項の職務を遂行している。また評議員会議長は常任として理事会にも出席し、理事会の業務の執行状況等を認識し、評議員会を円滑に運営している。他の改正事項もその趣旨に則り、平成17年3月10日ならびに同年7月4日、所轄庁の認可を得て、学校法人國學院大學栃木学園寄附行為(以下「寄附行為」と略称する)を変更し、適切に法人運営を行っている。

昭和41年の短期大学創設時より、教職員組織に学監職(学則第49条)を置き、学長を補佐し、短期大学を統轄している。この学監任用については、任用規程第2項で理事会の議を経て、本法人の理事のうちから教育職の経歴を持つ者を理事長が任命すると規定されている。現在は理事長が兼務している。したがって理事長は学監として教授会に出席し、理事会と教授会の意思の疎通を図りつつ円滑に教授会が運営されるようにしている。教員等の人事に関する事項は、任用規程に基づき理事会の議を経て理事長が任命している。

添付資料6「学校法人國學院大學栃木学園寄附行為」参照。

添付資料7「國學院大學栃木短期大學学則」参照。

参考資料6「國學院大學栃木短期大学教員任用規程」参照。

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の理事会の開催状況(主な議案、理事の出席状況等を含む)を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成22年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

理事会開催状況(平成19年度～21年度)

## 理事会開催状況(平成19年度～21年度)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	4	1	任期満了に伴う理事長選任	13	11～14
19	5	29	平成18年度事業報告・平成18年度決算 理事選任(栃木市議会議長改選) 評議員選任(栃木市議会副議長改選) 人事(短大名誉教授称号授与・学園職員採用)	13	
19	7	3	設置する学校の運営状況報告	13	
19	9	11	学則変更(学費)	13	
19	12	4	学則変更(短大保育士養成課程設置) 学校法人運営調査委員による現地調査結果報告 校地変更(借用校地賃貸借解除) 韓国漢陽女子大学との教育・学術交流協定締結	13	
20	2	15	学園規程(就業規則変更・資産運用、公益通報者保護規程制定) 高等学校学則変更・幼稚園園則変更	13	
20	3	27	平成19年度補正予算 平成20年度事業計画・平成20年度予算・借入金 人事(短大教員新規採用・昇任、中学教員・幼稚園教員昇任) 評議員選任	13	
20	5	27	平成19年度事業報告・平成19年度決算 短大学則変更(入学定員変更) 事業計画の一部変更 人事(短大名誉教授称号授与)	13	
20	7	3	設置する学校の運営状況報告	12	
20	9	9	学則変更(学費) 短大初等教育学科保育士養成	13	
20	12	3	学則変更(短大保育士養成課程・留学生)	13	
21	2	13	人事(短大学長・学科長、高校・中学)	13	
21	3	26	平成20年度補正予算 平成21年度事業計画・平成21年度予算・借入金 評議員選任 人事(短大教員新規採用・昇任) 土地購入(幼稚園運動場敷地等) 学園規程変更(給与規程・退職金支給規程等) 中学校学則変更 校地・校舎用途変更(短大学生寮)	13	
21	5	29	平成20年度事業報告 平成20年度決算報告 平成21年度給与改定基本事項	13	
21	7	3	短大学則変更(入学定員変更)	13	
21	9	9	短大学則変更(入学定員変更・学生寮) 学則変更(学費) 学園規程変更(設置する学校から入学する生徒の学費等減免規程)	13	
21	12	3	学園規程変更(資産運用規程)	13	
22	2	13	学園規程変更(退職金支給規程・短期大学教員任用規程・短期大学特別専任教員規程・役員旅費規程・教職員旅費規程)	13	



添付資料6「学校法人國學院大學栃木学園寄附行為」参照。

参考資料42「学校法人國學院大學栃木学園役員・評議員名簿」参照。

参考資料43「学校法人國學院大學栃木学園理事会議事録」参照。

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

とくにない。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成21年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事の選任および職務については、寄附行為第8条において、選任方法とその職務は平成17年4月1日の私立学校法の一部改正に則った職務を行うものと明確に規定されている。監事の選任については、「監事は、この法人の理事、職員(学長・校長等・教員その他の職員を含む)又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。」と規定し、監査される者のみで選任されることのないようにするとともに、評議員との兼職禁止も明示した。

監事の職務についても、法人の財産の状況ならびに理事の業務の執行状況を監査するとともに、理事会・評議員会への監査報告書の作成・提出ならびに監査の結果、不正の行為または法令もしくは寄附行為に反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣・理事会・評議員会に報告することを義務づけている。

#### 平成21年度の監事の業務執行状況

##### 財産状況の監査

法人の財務状況については、公認会計士の会計監査時に、意見を交換するなど連携を図りながら、平成21年5月22日、公認会計士・理事長・事務局より、法人の財務状況ならびに法人の業務の執行状況や事業実績について説明を受け、質疑を経て、5月29日の法人理事会・評議員会において、適正に執行されている旨報告した。さらに平成21年度期中の12月9日にも、同様の手続きを経て監査を実施し、理事会・評議員会で適宜意見を述べている。

##### 理事の業務執行状況の監査

平成21年度開催された全ての理事会(6回)・評議員会(2回)に出席し、状況に応じて説明を求め、意見を述べている。関係法令ならびに寄附行為に則り、本学園の目的たる事業および理事会で決定された業務について理事から説明を受け、必要ある時は関係書類を調査するなどして業務の執行状況を監査した。

添付資料6「学校法人國學院大學栃木学園寄附行為」参照。

(5) 平成21年度の評議員会の開催状況(主な議案、評議員の出席状況等を含む)を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

### 平成21年度の評議員会開催状況

#### 評議員会開催状況(平成21年度)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	5	29	平成20年度事業報告 平成20年度決算報告 短大学則変更(入学定員変更)	39	34～42
22	3	26	事業計画変更(高校耐震設計) 平成21年度補正予算 平成22年度事業計画 平成22年度予算 借入金 耐震補強工事実施(高校本館・東館)	39	

#### 評議員会についての寄附行為上の規定

寄附行為第19条から28条において、定員(34人以上42人以内)・選任条項・任期・開催手続・決議手続・決議事項・諮問事項・解任等について明確に規定されている。評議員会は理事会の行う学校法人の業務の決定に際して、その決定が適切なものであるかを判断し、的確な意見を述べることとしている。また、諮問機関としての位置づけを原則としているが、寄附行為において重要事項の決定には議決を要することとしている。

事業計画・予算については、寄附行為上は決議事項となっているが、平成20年度からは私立学校法に則り諮問事項として、予め評議員会の意見を聞くこととした。また事業の実績・決算についても、評議員会に報告し、法人業務全体の状況について評議員会が十分把握できるように規定している。

#### 評議員の選任条項(寄附行為第19条・第20条)

評議員は、理事会において選任する。

定数：34人以上42人以内、現員：39人

選任条項	現員
1. この法人の設置する学校に五年以上引続き勤務している教職員のうちから選任される者八人	8人
2. この法人の設置する学校を卒業した者で年齢二十五歳以上の者のうちから選任される者三人	3人
3. この法人に関係のある功労者並びに学識経験者のうちから選任される者四人以上七人以内	6人
4. この法人の理事長の推薦する者四人	4人
5. 栃木市長の推薦する者三人	3人
6. 神社関係者のうちから選任される者三人	3人
7. この法人の理事(第7条第6号の理事を除く)	12人

添付資料6「学校法人國學院大學栃木学園寄附行為」参照。

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

とくがない。

### 【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

平成19年4月に本職を拝命した。本学は、いま、さまざまな困難に直面しているが、とくに、入学志願者数の低迷は重大である。そこで平成20年度の入学試験では、国学院大学受験者対象入学試験を、平成21年度の入学試験には、センター型入学試験や奨学生入学試験を導入するなど、新たな試みを行った。また、平成19年度後期からは、学生支援室を設けて、学生の生活、修学、就職の支援に力を入れた。さらに、平成21年度には、セメスタ制を実施する一方、教員と学生との関係をいっそう緊密にするための斯花アワーを設けるなど、教学の責任者として、できうる限りの実務の推進に努めてきた。各種委員会や学科長会等の意見を受けとめ、さらに教授会の審議を経て、国学院大学栃木短期大学学則(以下「学則」と略称する)第7章第49条に「学長は、本学を統率し、これを代表とする。」や、学校教育法第92条第3項に「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」との規定に基づいて、実施の判断を下している。なお、大学の運営は、教学部と一体となることから始まるものと考え、事務室にも席を設けて諸事務の決裁に当たっている。

添付資料7「国学院大学栃木短期大学学則」参照。

参考資料44「国学院大学栃木短期大学教職員の人事に関する規程」参照。

参考資料45「斯花アワー計画書」参照。

(2) 教授会についての学則上の規定(教授会で議すべき事項等を含む)、平成21年度における開催状況(主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む)を年月日の順に記述して下さい。

なお、学則を添付して下さい。

教授会は、学則第51条の規程の審議事項について審議する。「国学院大学栃木短期大学教授会規程」第1条に則り、学長・学監・専任の教授をもって構成し、これに事務局長を加えて開催されている。ただし、通常は専任の准教授・講師および図書館長・事務局課長を加えて専任会議として会議を行っている。また、定例会、臨時会、審議事項、議決方法、議事録等の事務について定めている。なお、審議事項については、(1)学科課程に関する事項、(2)入学ならびに成績査定および卒業に関する事項、(3)学則および教学に関する諸規程の制定・改廃に関する事項、(4)教員の進退に関する事項、(5)学生の訓育ならび

に賞罰に関する事項、(6)その他学事に関する重要事項と規程している。

平成20年度の教授会ならびに専任会議は、8月を除いて毎月開催され、計12回を数え、教員の出席率は極めて高い。

以下、平成21年度の教授会ならびに専任会議の開催状況を示す。

教授会ならびに専任会議の開催状況(平成21年度)

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	4	15	1. 国文・家政・日本史学科教育実習に関する件 2. 奨学生に関する件 3. 1年生親睦旅行に関する件 4. 学生の異動に関する件 5. 科目等履修生に関する件	60	60
21	5	20	1. 平成22年度入学試験に関する件 2. 学生の異動に関する件 3. 紀要投稿に関する件	60	60
21	6	10	1. 国文・家政・日本史学科教育実習に関する件 2. 初等教育学科教育実習に関する件 3. 入試問題作成委員に関する件 4. 学生の異動に関する件	60	60
21	7	8	1. 夏季休暇中諸行事に関する件 2. クラブ創設に関する件 3. 学生の異動に関する件	60	60
21	9	16	1. 初等教育学科教育実習に関する件 2. 入学定員の変更に関する件 3. 平成22年度学生納付金に関する件 4. 学園創立49周年記念式典に関する件 5. 1年生秋季研修旅行に関する件 6. 学生の異動に関する件	57	60
21	11	6	1. 一般・指定校、卒業生子女、優先入学試験判定に関する件 2. 自己推薦・社会人入学試験に関する件 3. 斯花祭に関する件 4. 学生の異動に関する件	56	60
21	12	7	1. 自己推薦・社会人入学試験判定に関する件 2. 平成22年度学年暦に関する件 3. 学生の異動に関する件	53	60
22	1	13	1. 平成22年度A方式・奨学生・センター型入学試験に関する件 2. FD委員会の設置に関する件 3. 平成22年度開設講座に関する件 4. 平成22年度学年暦に関する件 5. クラブ創設に関する件	59	60
22	2	8	1. A方式・センター型・奨学生入学試験判定に関する件 2. B方式・センター型・国学院大学受験者対象入学試験に関する件 3. 再入学に関する件 4. 委員会に関する件 5. 学生の異動に関する件	59	60
22	2	26	1. 平成21年度卒業判定に関する件 2. B方式・センター型・国学院大学受験者対象入学試験に関する件	58	60

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
22	3	8	1. B方式・センター型・国学院大学受験者対象入学試験判定に関する件 2. C方式・センター型・国学院大学受験者対象入学試験に関する件 3. 第43回卒業式に関する件 4. 平成22年度入学式・オリエンテーションに関する件 5. 平成22年度学年暦に関する件 6. 平成22年度カリキュラムに関する件	59	60

添付資料7「國學院大學栃木短期大學学則」参照。

参考資料46「國學院大學栃木短期大学教授会規程」参照。

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成21年度の開催状況等を記述して下さい。

本学「諸委員会規程及び委員長連絡会議内規」により、大学の業務、教務およびその他の大学の運営に関して、必要な事項を調査、審議または処理するため委員会を設けている。委員会の委員は、国文学科・家政学科・初等教育学科・日本史学科・商学科の各学科および教養科目担当の教員から選出し、教授会の承認を受けている。なお、委員長および副委員長は、委員の互選により選出している。また、委員長が必要と認める場合は、委員以外の者の会議への出席を要請し、その意見を聴くことができると規定している。あわせて必要に応じて専門部会を置くことができると規定している。

なお委員会として組織化は行っていないが、学生の学業上あるいは生活上の相談を教職員が分担して当たっている。また本学卒業生の同窓会である<sup>このはなかい</sup>斯花会の幹事も教職員が務めている。

以下に、委員会のおもな業務、委員数、平成21年度の開催数を示す。

委員会名	主な業務	委員数	開催数
将来構想委員会	短期大学の将来計画の全般について審議する。	8	2
教務委員会	教務に関し、次に掲げる事項について審議する。 1. 学年暦の編成に関する事。こと。 2. 教育課程の編成に関する事。こと。 3. 時間割の編成に関する事。こと。 4. 講義要項に関する事。こと。 5. 履修要項に関する事。こと。 6. その他、教学に関する事。こと。	14	8
学生委員会	学生の厚生および指導に関し、次に掲げる事項について審議する。 1. 学生の福利および厚生に関する事。こと。 2. 学生の団体の指導および助言に関する事。こと。 3. 学生の生活および進路の相談に関する事。こと。 4. その他、学生の生活全般に関する事。こと。	14	7
広報委員会	広報に関し、次に掲げる事項について審議する。 1. 広報紙誌の編集および発行に関する事。こと。 2. 公開講座に関する事。こと。 3. 本学ホームページに関する事。こと。 4. その他、広報活動全般に関する事。こと。	14	11

委員会名	主 な 業 務	委員数	開催数
入試委員会	入学者の選考を実施するために、次に掲げる事項について審議する。 1．入学試験の制度に関する事。           2．入学試験実施の準備および管理に関する事。           3．入学試験問題の作成および校正に関する事。           4．入学試験答案の採点に関する事。           5．その他、入学試験全般に関する事。	14	8
図書委員会	図書館および紀要に関し、次に掲げる事項について審議する。 1．図書館の運営に関する事。           2．選書に関する事。           3．紀要の編集および発行に関する事。	13	9
委員長連絡会議	各委員会の業務遂行状況の報告、相互の情報交換を通して、本学の活性化のための新たな構想や方策を審議する。	14	2

参考資料47「諸委員会規程及び委員長連絡会議内規」参照。

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。

「大学全入時代」を迎え、短期大学は非常に厳しい環境にある。本学も高等教育機関としての短期大学の使命を再確認し、あわせて今日の社会が求めるものに着目して、教育体制の再構築が必要であると考えている。その具体的な方策として、各学科ともにコース制の導入、カリキュラムの改善等を行ってきた。また学生募集活動の強化、入試制度の改革等にも積極的に取り組んできたが、なお入学定員の確保が難しい状況にある。

今後ますます教育内容の充実と学生支援体制の強化を図るとともに、取得可能な資格講座等を増やして、学生にとって魅力ある短期大学にしたいと、教職員が一丸となって真剣に取り組んでいるところである。

### 【事務組織について】

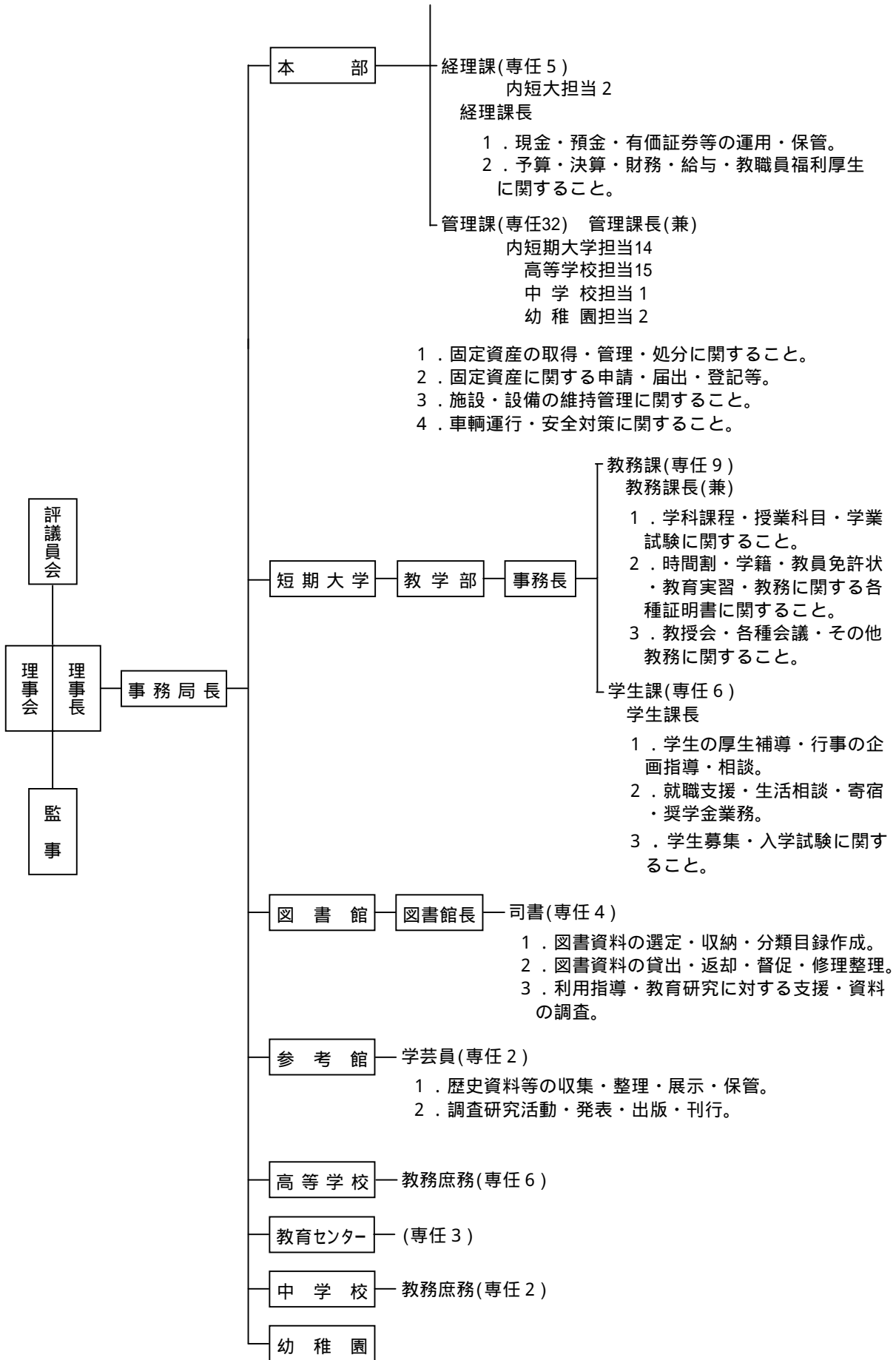
(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

#### 法人全体の事務組織図

(平成22年5月1日現在)

庶務課(専任6)  
庶務課長(兼)

- 1．法人理事会等法人関係の会議・行事・渉外に関する事。
- 2．教職員の任命・発令・文書・諸規程に関する事。
- 3．高等学校の事務に関する事。



(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。

事務職員の任用については、訪問調査時に説明する。

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

1. 國學院大學栃木学園事務局組織及び職務分掌規程
2. 國學院大學栃木学園経理規程
3. 國學院大學栃木学園稟議規程
4. 國學院大學栃木学園公印取扱規程
5. 國學院大學栃木学園文書取扱規程
6. 國學院大學栃木学園文書保存規程
7. 國學院大學栃木学園固定資産および物品調達規程
8. 國學院大學栃木学園固定資産および物品管理規程
9. 國學院大學栃木学園錬成館使用規程
10. 國學院大學栃木学園睦会館使用規程

参考資料48～57 参照。

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類(学籍簿等)の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

決裁処理については、本学稟議規程に基づいて、案件の概要・経緯・責任体制等を明らかにして決裁処理が行われている。公印、学籍簿等の重要書類については、文書取扱規程、公印取扱規程等に基づいて厳正に管理を実施している。防災については、通報システムの整備、避難誘導訓練等の整備を進めている。不審者対策として、警備職員による日常的な巡回警備を行い、研究室等の鍵は事務室で一括集中管理し、盗難に備えている。本学のPCネットワークのセキュリティ対策の基本は、ネットワーク上の各サーバ、各パソコンにインストールされたセキュリティ対策ソフトによる。PCネットワークの管理は、コンピュータ技士が行っている。最近、個人情報漏洩や不正アクセスによる被害、コンピュータウイルスへの感染などが問題となっているので、本学でもいっそう厳重な情報セキュリティ対策が必要であると考えている。

参考資料50「國學院大學栃木学園稟議規程」参照。

参考資料51「國學院大學栃木学園公印取扱規程」参照。

参考資料52「國學院大學栃木学園文書取扱規程」参照。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者(事務局長等)が現状を率直に記述して下さい。

事務職員は、教員・学生と密接に係わって、円滑に業務を推進している。とくに学生に

対しては、できるだけ接触の機会を多くして、多様化する学生のニーズに親切丁寧に対応し、常に学生から信頼を得られるよう心がけている。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント(SD)活動(業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等)の現状を記述して下さい。

本学では限られた人員で効率的な業務が行えるように、部署ごとに業務の見直しと事務処理の改善に取り組んでいる。また、事務職員のレベル向上、能力開発に関しては各分野の研修会に職員を参加させて、研鑽を積ませている。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

少子化の進行に伴い、本学でも入学定員の確保が最大の課題であり、入試制度・広報等さらに強化が必要である。また、卒業後の進路指導についても、学生課・教務課で就職・進学等の指導を行っているが、これをさらに充実させることが急務と考えている。

## 【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程(就業規則、給与規程等)を訪問調査の際にご準備下さい。

専任教員は、就業規則に則り授業と研究活動を行っている。職員も就業規則に定めたとおり就業しているが、授業終了時間および学生の厚生指導等の業務の都合上、フレックスタイム制を採用している。この柔軟な就業形態が教育活動の実を上げ、短期大学運営に寄与している。

参考資料58「國學院大學栃木学園就業規則」参照。

参考資料59「國學院大學栃木学園教職員給与規程」参照。

(2) 法人(理事長及び理事会等)と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

理事長は学監として、教授会・専任会議および学科長会に出席して、教員との緊密な意思の疎通を図るようになっている。また理事会には、理事である学長が出席するのは当然であるが、理事長は、理事ではない事務長の出席も認めて、それぞれの職務の意見を広く聴取して、法人ならびに短期大学の運営を円滑に行うように努力している。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

教授会・専任会議を初めとして学科長会には、事務長、学生課長が出席し、また各種委員会にも事務職員が出席している。審議内容を共有して教職員の連携を密にし、迅速な対応をするうえで、有効に機能しているといえよう。学科会議にも、必要に応じて事務職員の出席を求めて意見を聞き、学科の意思決定の判断材料にすることもある。したがって教員と事務職員とが、意見の齟齬を生じることはなく、一致協力して教育活動等が行われている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康管理については、過重就労にならないように配慮し、法律で定められた年1回の定期健康診断を実施している。疾患が発見された場合、医師の意見を勘案し、速やかに治療あるいはそのための休職を命ずることにしている。また保健室では、養護教諭・産業医による健康相談に応じている。校地内は全面禁煙とし、職場環境に配慮している。就業時間については、フレックスタイム制を採用している。

### 【特記事項について】

(1) この《 管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 財務

### 【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

我が国の少子化は、社会全般に種々の問題を提起しているが、学校教育とりわけ私学経営にも深刻な影響を及ぼしている。入学生の減少は、私立学校の収入の主たる財源である納付金の減額に繋がり、本学でも5学科全てで定員割れがおこっているが、入学生の確保に最善の努力を傾注して帰属収入の増額を計ることが重要課題である。本学では、年度ごとに事業計画および予算を策定しているが、常に長・中期的な展望をもって、教育活動等の内容を精査し、教育研究の充実向上を考慮して、人件費を初め多角的な経費の節減に努め、支出の抑制を図っている。すなわち帰属収入にみあった消費支出となるようなバランスある財務運営を行っている。しかし何よりも、帰属収入の大きな要素である学生確保のために、特色ある教育を実践して魅力に満ちた短期大学づくりが重要であると考えている。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

次年度の事業計画ならびに予算の策定は、前年度末の1月から2月までに行われ、その案について3月に評議員会に諮問し、理事会の承認を受け、4月1日より実施される。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

決定された事業計画ならびに予算は、評議員である各学科長を通じて、学科ごとに伝達される。予算の執行については、本学園の経理規程、稟議規程、固定資産および物品調達規程、固定資産および物品管理規程に基づいて適正に執行されている。

参考資料49「國學院大學栃木学園経理規程」参照。

参考資料50「國學院大學栃木学園稟議規程」参照。

参考資料54「國學院大學栃木学園固定資産および物品調達規程」参照。

参考資料55「國學院大學栃木学園固定資産および物品管理規程」参照。

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士監査は、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づいて行っている。実施した公認会計士監査の概要と開催日は、次のとおりである。

## 公認会計士による監査実施状況（平成19年度～21年度）

## 19年度会計

受嘱者 公認会計士 赤羽治彦事務所

年	月	日	概要	備考
19	4	2～4	月次監査 銀行預金借入金確認状の発送、現金・預金証書等実査 経費支出・有形固定資産増加高の検証	
19	4	25～27	月次監査 未払金残高確認状の発送、預り金収支の検証、借入金収支 ・借入金利息の検証、学生生徒等納付金収入の検査、補助 活動収入・その他の収入の検証、経費支出の検証	
19	5	15～17	平成18年度決算修正 有形固定資産増加高・基本金組入額・減価償却額・退職給 与引当金の検証、銀行預金残高の確認、補助金収入の検証、 理事会議事録査閲、預り金前受金残高の検証	
19	5	22～24	平成18年度決算最終監査 未払金残高確認、科目別チェックリスト・計算書類チェッ クリスト・計算書類の全般的検討及び監査調書のレファレン ス実施、翌期首伝票査閲、法人監事(期末監査)との打合せ	
19	10	24～26	月次監査 監査計画の立案、経費支出・有形固定資産増加高の検証、 学生生徒数の把握と学生生徒等納付金収入の検証	
19	11	20～22	月次監査 経費支出・有形固定資産増加高の検証、付保状況の検討、 理事会議事録査閲、登記簿謄本査閲	
19	12	10～12	月次監査 補助金収入・学生生徒等納付金収入の検証、有価証券増減 高の検証、法人監事(期中監査)との打合せ	

## 20年度会計

受嘱者 公認会計士 赤羽治彦事務所

年	月	日	概要	備考
20	4	1～3	月次監査 銀行預金借入金確認状の発送、現金・預金証書等実査 経費支出・有形固定資産増加高の検証	
20	4	23～25	月次監査 未払金残高確認状の発送、預り金収支の検証、借入金収支 ・借入金利息の検証、学生生徒等納付金収入の検証、補助 活動収入その他の収入の検証、経費支出の検証	
20	5	14～16	平成19年度決算修正 有形固定資産増加高・基本金組入額・減価償却額・退職給 与引当金の検証、銀行預金残高の確認、補助金収入の検証、 理事会議事録査閲、預り金・前受金残高の検証	
20	5	21～23	平成19年度決算最終監査 未払金残高確認、科目別チェックリスト・計算書類チェッ クリスト・計算書類の全般的検討及び監査調書のレファレン ス実施、翌期首伝票通査、法人監事(期末監査)との打合せ	

年	月	日	概要	備考
20	10	15～17	月次監査 監査計画の立案、経費支出・有形固定資産増加高の検証、 学生生徒数の把握と学生生徒等納付金収入の検証	
20	11	19～21	月次監査 経費支出・有形固定資産増加高の検証、付保状況の検討 理事会議事録査閲、登記簿謄本の査閲	
20	12	8～10	月次監査 補助金収入・学生生徒等納付金収入の検証、有価証券増減 高の検証、法人監事(期中監査)との打合せ	

## 21年度会計

受嘱者 公認会計士 赤羽治彦事務所

年	月	日	概要	備考
21	4	1～3	月次監査 銀行預金借入金確認状の発送、現金・預金証書等実査 経費支出・有形固定資産増加高の検証	
21	4	20～22	月次監査 未払金残高確認状の発送、預り金収支の検証、借入金収支 ・借入金利息の検証、学生生徒等納付金収入の検証、補助 活動収入その他の収入の検証、経費支出の検証	
21	5	18～20	平成20年度決算修正 有形固定資産増加高・基本金組入額・減価償却額・退職給 与引当金の検証、銀行預金残高の確認、補助金収入の検証、 理事会議事録査閲、預り金・前受金残高の検証	
21	5	25～27	平成20年度決算最終監査 未払金残高確認、科目別チェックリスト・計算書類チェッ クリスト・計算書類の全般的検討及び監査調書のレファレ ンス実施、翌期首伝票通査、法人監事(期末監査)との打合せ	
21	10	5～7	月次監査 監査計画の立案、経費支出・有形固定資産増加高の検証、 学生生徒数の把握と学生生徒等納付金収入の検証	
21	11	17～19	月次監査 経費支出・有形固定資産増加高の検証、付保状況の検討 理事会議事録査閲、登記簿謄本の査閲	
21	12	7～9	月次監査 補助金収入・学生生徒等納付金収入の検証、有価証券増減 高の検証、法人監事(期中監査)との打合せ	

## 公認会計士の監査と監事の連携状況

監事による監査については、改正私立学校法第37条第3項に基づく監査を実施している。上記の公認会計士会計監査期間中の中間監査を12月に、決算監査を5月に実施している。監事監査の内容は法人の運営状況・理事の業務執行状況・財産の状況等についてである。その後、公認会計士から会計監査の状況について説明を受け、その都度意見交換をしている。法人の運営状況並びに理事の業務の執行状況については、関係法令・本学園寄附行為に則り、本学園の目的たる事業及び理事会で決定された業務について、理事から説明を受け、必要ある時は関係書類を調査するとともに、理事会・評議員会には毎回出席し、意見

を述べている。

決算監査終了後、監事2名による署名捺印のうえで理事長・評議員会議長に監査報告書を提出し、5月の理事会・評議員会において、監査報告書に基づき監査報告をしている。

平成21年度実施した監事監査は次のとおりである。

実施期日 平成21年5月26日

平成21年12月9日

以上の監査についての公認会計士からの指摘事項はとくにない。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

平成16年(同15年度分)までは、『学園時報』において、学園全体の財務状況の「計算書」を公開してきた。その内訳は、財産目録・貸借対照表・資金収支計算書・消費収支計算書・監事の監査報告書・事業報告書・資金収支予算書・消費収支予算書である。同17年からは、インターネットのホームページ上に公開している。

また私立学校法第47条第2項に基づく財務情報公開の実施方法については、本学園財務書類等の閲覧に関する規程に基づき、本法人の設置する学校に在籍する学生生徒ならびに保護者、法人と雇用契約にある者、法人に対する債権者・抵当権者を対象に閲覧請求に基づいて閲覧に供している。

参考資料60「学園時報」参照。

参考資料61「國學院大學栃木学園財務書類等の閲覧に関する規程」参照。

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

資金等の保有については、寄附行為第32条(積立金及び現金の保管)に基づき、有価証券等・定期預金等として理事長が適正に保管することとしている。

資金等の運用については、公認会計士の意見を参考にするなど、安全かつ有効な運用を図ることとしている。さらに平成20年4月1日より運用区分・期間・運用資産の種類・運用対象有価証券や投資制限等について明示した資産運用規程を制定し、安全かつ有効な資金の運用に努めている。

添付資料6「学校法人國學院大學栃木学園寄附行為」参照。

参考資料62「國學院大學栃木学園資産運用規程」参照。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

寄附金・学校債ともに募集はしていない。

**【財務体質の健全性と教育研究経費について】**

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料8「過去3か年(平成19年度～21年度)の収支計算書の概要」参照。

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成22年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

添付資料9「平成21年度末の貸借対照表概要(学校法人)」参照。

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

参考資料63「計算書(資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、消費収支計算書、消費収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表)(平成19年度～21年度)」参照。

参考資料64「財産目録(平成19年度～21年度)」参照。

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率(平成19年度～21年度)

区分	19年度	20年度	21年度
教育研究経費支出 (a)	264,695千円	247,990千円	253,572千円
帰属収入 (b)	921,736千円	779,345千円	705,665千円
教育研究経費比率 (a)/(b)	28.7%	31.8%	35.9%

## 【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

No.	規程名
1	國學院大學栃木学園固定資産および物品調達規程
2	國學院大學栃木学園固定資産および物品管理規程
3	國學院大學栃木学園経理規程
4	國學院大學栃木学園財務書類等の閲覧に関する規程
5	國學院大學栃木学園教職員旅費規程
6	國學院大學栃木学園教育研究等のための宿泊費補助規程
7	國學院大學栃木学園の設置する学校から入学する生徒の学費等減免規程
8	國學院大學栃木学園教職員子女の授業料等免除に関する規程
9	國學院大學栃木学園錬成館使用規程
10	國學院大學栃木学園睦会館使用規程
11	國學院大學栃木学園教育センター使用規程

参考資料33・49・54～57・61・65～68 参照。

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

### 火災等の災害対策

防災については、近年大規模な地震が発生していることから、災害対策、通報システムの整備、避難誘導訓練等、防災機器の点検・整備を進めている。本学の学生寮である片柳寮において、平成21年11月15日に所轄消防署員の指導の下に、通報・消火・避難誘導等の訓練を実施した。防災マニュアルはその消防計画書に準拠する。各施設、教室、研究室等には、火元責任者を定めて防災に努めている。

風水害対策として各種災害情報の収集に努めるとともに、定期的な学園内排水系等の巡回点検などを管理課職員全員で実施し、不良のあるときは速やかに改修している。

### 防犯対策

来訪者には、受付で来客用の名札の着用を義務付けている。不審者対策として、教職員による声掛けの励行と警備職員への通報の徹底、警備職員による日常的な巡回警備を行い、キャンパス内の視認性を高めるために、植栽樹木の剪定を毎年実施している。また、研究室等の戸締まりは、鍵を事務室で一括集中管理し、鍵の持ち出しは教職員に限定している。

学生には、鍵付きのロッカーを入学時に貸与し、鍵の管理は学生本人に委ねている。

### 省エネおよび地球環境保全対策

本学では、ゴミの分別収集、再資源化、減量等は、栃木市「ごみと資源の分け方・出し方」に準拠して行っている。学内の各所より収集された廃棄物は、集積所で保管し、栃木市指定の廃棄物処理業者に処理を委託している。

暖房は全館にスチームの設備があり、外気温に応じた適正な温度管理を実施している。スチーム暖房を基本とし、事務室において教室等の使用状況を細かに把握し、使用状況に

よりエアコンでも対応している。教室や研究室等に設置されているエアコンは、冬は21度、夏は28度の温度設定を励行し、また、積極的に消灯を行う等省エネを励行している。

その他

(a) 施設・設備の維持・管理のための責任体制

本学における施設・設備の維持管理は管理課が担当し、修繕・維持・管理の発注等を行っている。給水設備・防火設備等の巡回点検、空調設備・昇降機設備等、機器の定期点検業務や環境衛生管理業務、特殊建築物定期調査等は民間の専門業者に業務委託している。ボイラー設備関係、電気設備関係、印刷関係では、計4人の専門技術員を雇用しており、日常の保守・点検は適切に行われており、安全が確保されている。異常があれば外部の専門業者に委託する。また情報処理、AV関係の設備の保守・管理は、情報処理室のコンピュータ技師2人が担当し、必要に応じて外部の専門業者との連携をとっている。また図書情報の保守・管理は、図書館職員が担当し、障害発生時には外部事業者と連携して操作や運用に当たっている。

以上のように、本学では施設・設備の日常的な保守・点検を行い、異常のあった場合にはその復旧の措置を講じる体制が確立している。

(b) 施設・設備の衛生・安全を確保するための体制

衛生関係では、水道水の水質検査を週1回、受水槽の外観点検を月1回、管理課職員が実施し、年1回受水槽の清掃および点検を外部業者が実施している。指摘があれば、その都度速やかに改修している。学校保健法に基づく水質検査を5月21日に実行し、「適合」の判定を得た。害虫・鼠等の駆除は、日常の点検・保守作業の中等で発生があれば、速やかに管理課員が駆除しているが、スズメバチ等危険な作業の一部は外部業者に委ねて駆除している。

校舎内外の清掃は、管理課職員4人によって行われているが、窓ガラス清掃と学生食堂の床清掃は外部の専門業者に委託している。除草、樹木剪定は管理課職員、用務職員の手によって行われているが、赤松等の保護・剪定は外部の専門業者に委託している。

参考資料69「國學院大學栃木短期大学火元責任者一覧」参照。

参考資料70「ごみと資源の分け方・出し方」参照。

**【特記事項について】**

(1) この《財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 改革・改善

### 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

学則第1条2「本学は、教育水準の向上を図り、前項の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検および評価を行うことに努める。」に基づいて、意識改革を行い、その取り組みを進めてきた。

平成12年度には、活性化委員会が設けられ、魅力ある短期大学や学内の活性化について討議された。平成14年度からは将来構想委員会として、将来計画の全般について討議してきた。そこでも第三者評価のための自己点検・評価について検討し、報告書作成を行ってきた。平成17年度には、ALLOを中心とし、理事長、学長、評価委員、各学科長および教養科目担当者代表、各委員長、将来構想委員、事務局長、事務長、学生課長をメンバーとする第三者評価委員会を新たに発足させ、自己点検・評価報告書作成に向け、活動し始めた。平成20年7月には、自己点検・評価委員会規程が、制定された。

自己点検・評価を大学運営の基盤ととらえ、本学の発展のために毎年積極的に行っていきたい。

添付資料7「國學院大學栃木短期大學学則」参照。

参考資料71「自己点検・評価委員会規程」参照。

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成19年度～21年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

「平成19年度自己点検・評価報告書」は、理事長、学長、ALLO、学科長、教養科目担当者代表、第三者評価委員会委員等の関係者へ配布し、その他の教員には、閲覧できるようにした。「平成20年度自己点検・評価報告書」は、全教職員に配布し、他大学等へも配布した。「平成21年度自己点検・評価報告書」は、本学ホームページ上で公開予定である。

参考資料72「平成19年度自己点検・評価報告書」参照。

参考資料73「平成20年度自己点検・評価報告書」参照。

### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成21年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

「平成18年度自己点検・評価報告書」から「平成21年度自己点検・評価報告書」の執筆に

は、自己点検・評価委員会主導の下に、作業部会教職員が担当した。その担当項目に必要な資料を集めるため、A L Oの職印のある「自己点検・評価報告書作成のための書類請求書」を用いた。作成に係わった者は、各学科長、事務局長・事務長・課長、図書館、経理部等の担当者ら広範囲な教職員にわたった。

今後の報告書作成は、これまでどおりA L Oを中心とする委員会が当り、自己点検・評価を継続して、改革・改善に努めたい。

参考資料74「自己点検・評価報告書作成のための書類請求書」参照。

(2) 平成21年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成18年度には、「平成17年度自己点検・評価報告書」を作成した。これは本学における最初の本格的な報告書であり、平成18年度版の基盤となった。平成19年度版は、「平成18年度自己点検・評価報告書」を踏襲し、さらに平成20年度を経て本報告書へと発展した。この結果を、全学の教職員に周知し、学内の改革・改善に結びつけるよう努力している。全教職員が各学科および各委員会において、それぞれ自己点検を行い、本学の現状の把握と、展望を共有することができた。

今後、自己点検・評価の結果を更なる改革・改善に向けて活用したいと考えている。

参考資料75「平成17年度自己点検・評価報告書」参照。

## 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成21年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

本学では、これまで、相互評価・外部評価を行っていない。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

これまで相互評価・外部評価を実施していないので、現時点ではそのための組織や規定はない。ただし、今後は、本学の教育・研究水準のよりいっそうの向上のために、積極的に相互評価・外部評価を実施する必要があると考えている。

## 【第三者評価(認証評価)について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

平成17年度に、理事長、学長、A L O、評価委員、各学科長、各委員長、将来構想委員、事務局長、事務長、学生課長をメンバーとして「第三者評価委員会」(平成20年度から「自己点検・評価委員会」に改称)を組織し、「自己点検・評価報告書」の作成に当たった。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びA L O(第三者評価連絡調整責任者)がそれぞれ記述されても結構です。

現在、本学では、本報告書作成過程においても、A L Oを中心とした関係委員だけでなく、理事長・学長・学科長はもとより、極力、全教職員が、その動きが認識できるよう努めて進行させている。それをもってしても明らかなように、本学では、日々の生活のなかで、自己点検・評価が実施されているものと、公言することができる。

現段階で、もっとも注意しなければならない眼目は、その報告書のためだけであってはならないということである。改革は、日々の改善の結果として、おのずから成っているものと確認しあったからである。

そのためには、学内組織の適否を常時確認しあい、学科長会議や教授会はもとより、定期的な委員会と小委員会との開催、各関係部門との連携の強化、効率的な改善と改革のための新システムの開発を心掛け、その中で、現状を全教職が熟知し、発言の機会を待つ学園組織とすることだと考えている。

本学は、本学園が國學院大学から別法人として独立した後に設立されて、現在45年目を迎えている。この間、22,185人の卒業生を、北関東を中心に、全国の職場に家庭に送り出してきている。栃木県における最初の短期大学として、地域の要請に応えるべく努めて、5学科にまで成長させていただいている。ご支援くださった各方面に感謝するとともに、日本の中堅高等教育機関として果たしてきた実績について、いささか自負するところもある。

ただ、日本そのものの18歳人口の激減はいかんともしがたく、いまは、本学もまた、変身を迫られようとしている。現在、その方向に向けて慎重な検討を重ねている日々にある。本来、そのための第三者評価であり、その点で、本学は、この10年ほど、当面する教学事務に追われるあまり、日々自己点検を重ねながら、第三者評価を受けるに向けての取り組みが、やや遅れたかの反省を抱いている。しかし、上記の実施するための経過において述べたとおり、その決定を見てからは、本学教職員、一体となって、その報告書作成に専念して、ここに至っている。いま、本学全教職は、その評価結果を真摯に受けとめて、新たな、時代にふさわしい本学の存在意義を見定めていきたいと思っている。本学の存在が、日本にとって、北関東にとって、さらには人類にとって必須のものとなるよう、模索を続けている。

**【特記事項について】**

(1) この《 改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

とくにない。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくにない。

## 将来計画の策定

全国の短期大学について、その動向を見たとき、昭和時代後期は急成長し、平成6年に、その在籍者数のピークを迎えたが、その後、急激に落ち込み、短期大学数そのものが、大幅に減少して現在に至っている。その減少を見せた一つの理由は、四年制大学への改組であり、いま一つの理由は、同一学園の他の教育機関は存続させることを前提の、短期大学部の廃止である。本学は、そのような時代の趨勢のなか、短期大学として、なお、その使命を果たそうとしている。

本学の母体である國學院大学が、一定数の編入学枠を設けてくれてあるところから、充足率には不十分な年次があっても、入学希望者が、なお、見えたからである。國學院大学に直結できない学科でも、相応に編入学先が約束されてもいたからである。一方に、短期大学という、2年間の完成教育を期待する受験者が、なお、いまだ、見えたからである。

しかし、その見通しは、いささか甘かったところもあったようである。直近の五年なり七年なりを見たとき、もはや、再起も困難かにも至っていたのである。平成18年度の自己点検結果を学内各部署に周知徹底させ、再生への動きが始まった。

もちろん、その間に、入試制度の改革、カリキュラムの見直し、学生支援室の設置など、可能なところから、日々、改善に努めた。いま、ようやくにして、従来に比して少し大きな動きを見せようとしている本学だが、ここに一つ、自負できるものがある。それは、教職員が一体となって、この難局に当たろうとしているところである。

いま、中等教育機関と高等教育機関との間には、高大連携という言葉が飛び交っている。高等学校と大学とが歩み寄って、具体的には、大学が、高校生の学力の補習教育などをして、大学教育に迎え入れようとする営みである。本学は、その、高等学校から大学へという、中間に位置する学業を、もっぱら担っていこうとする姿勢を確認しあった。大方が、四年制大学を志望する時代となったが、そのBetweenともいべき2年間を、高等学校にもできない、四年制大学にもできない教育を、私ども大学は、積極的に担おうと、その研究を重ねている。

平成22年度から、学科再編について本格的に審議を始めている。